

紅葉

独特の太く枝を広げたアシウスギ

世界の山旅

秘境の旅

「一人ではない、でも、行きたい」
それにお応えするのが実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

[大阪発着] スイス・アルプス・ハイキング

**スイス・アルプス・パノラマ
登頂ハイキング 12日間**

出発日 7/18・8/1・8/18
旅行代金 ¥488,000～¥532,000

日帰りハイキングで名峰を望む絶景のピーク3座に登頂。

まだ間に合う! 夏のおすすめツアー

<p><small>(航空発着) わずか4時間のフライトで極東の秘境へ!</small></p> <p>カムチャッカ半島アバチャ山登頂と パチエカズエツ山麓 5日間</p> <p>発着地 大阪 出発日 8/15 旅行代金 ¥296,000</p>		<p><small>お花畑の天候と5,000m峰登頂!</small></p> <p>四姑娘山トレッキングと 大姑娘山登頂 10日間</p> <p>発着地 大阪・福岡・名古屋・東京 出発日 7/25・8/1・8/8・8/15 旅行代金 ¥280,000～¥312,000</p>	
<p><small>KLMオランダ航空利用。短期間で効率よくアフリカ大陸最南端に決む</small></p> <p>[山麓乗り入れ] キリマンジャロ ゆったり登頂とサファリ 11日間</p> <p>発着地 大阪・東京 出発日 8/3・8/24・9/1・9/8・9/22 旅行代金 ¥592,000～¥658,000</p>		<p><small>神秘と芸術の島。バリ島の名峰2座に登頂</small></p> <p>バリ島最高峰アグン山と バトゥール山2座登頂 6日間</p> <p>発着地 大阪・東京 出発日 8/5・9/11・10/16 旅行代金 ¥186,000～¥242,000</p>	

世界の紅葉・黄葉ハイキング

<p><small>現地往ツアーリーダー同行・専用車で効率よく回る少人数限定の旅</small></p> <p>2大リゾートにゆっくり連泊 黄葉美のスイス 8日間</p> <p>発着地 大阪・名古屋・東京 出発日 9/25・10/2・10/5 旅行代金 ¥374,000～¥404,000</p>		<p><small>運る大岩峰、秋色に染まる東部アルプスを満喫</small></p> <p>秋のドロミテと オーストリア・ハイキング 9日間</p> <p>発着地 大阪・名古屋・東京 出発日 9/24・10/1・10/8 旅行代金 ¥428,000～¥458,000</p>	
<p><small>秋のベストシーズンにロッキーのハイライト部分をハイキング三昧!</small></p> <p>秋のカナディアン・ロッキー 滝渡りハイキング 8日間</p> <p>発着地 東京 ※大阪/東京間の往復¥3,000で手配 出発日 9/17・9/25・9/29・10/5 旅行代金 ¥372,000</p>		<p><small>世界自然遺産の蔵名群と秀峰・四姑娘山を満喫</small></p> <p>四姑娘山ハイキングと 九寨溝、黄龍 9日間</p> <p>発着地 大阪・福岡・名古屋・東京 出発日 7/22・8/12・9/16・10/14 旅行代金 ¥306,000～¥348,000</p>	

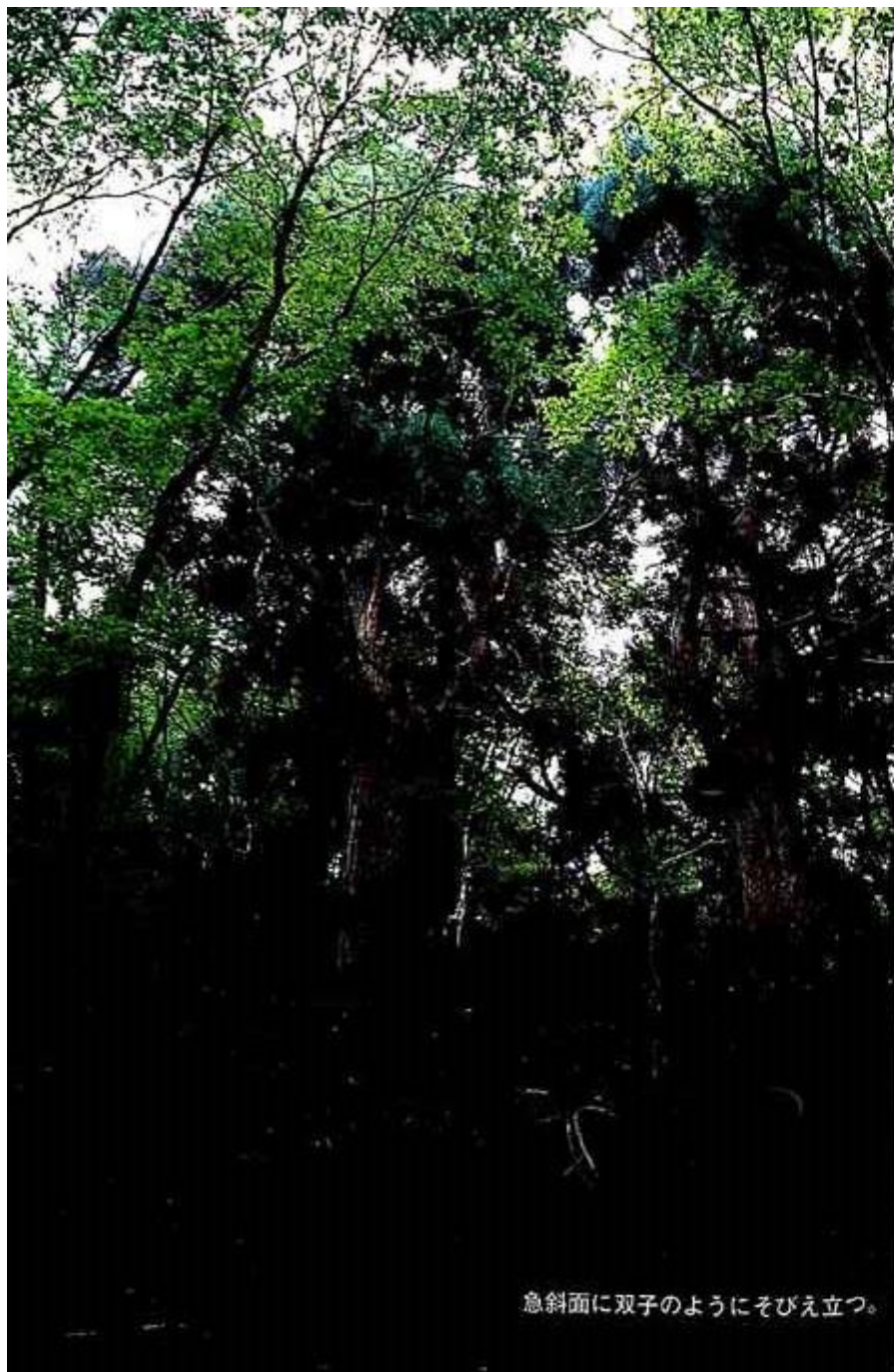
掲載のツアー以外にも多くの企画がございます。まずはカタログをご請求ください。

アルパインツアーサービス株式会社
 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF記後橋ビル2F
 東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
 名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
 札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)
 (株)りんゆう観光 広島/☎082(542)1660(転送)
 e-mail:osaka@alpine-tour.com

40th Anniversary

たくさんのお客様に
 支えられ
 アルパインツアーは
 創業40周年を
 迎えることができました。
 心よりお礼申し上げます。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの 슬라이ド を上映します。



急斜面に双子のようにそびえ立つ。



周辺の緑とは違う色合いを見せるアシウスギ。

近江の山 樹木の四季 —盛夏—

山本 武人

比良連山のアシウスギ

(大津市北比良・イブルキノコバ付近)

比良連山の中央に位置する八雲ヶ原は比良スキー場だったが、2004年4月にリフト・ロープウェイが廃止され、すべてのスキー場施設が撤去された。そのため、現在は静かな場所に戻った。

八雲ヶ原から奥の深谷、イブルキノコバ付近には、アシウスギ林が多くあり、幹が太く枝を広げたスギが点在する。京都大学声生演習林にあり、そこから名をとったものだ。

イブルキノコバの谷間で出会うアシウスギは、威風堂々として比良連山になくてはならない風景である。



夏雲の丘 (美瑛)

温風至 (あつかぜいたる)
美しき風景に思わず息を飲んだ
天に向かって咲くルピナス
真正面に十勝岳連峰を望む
ゆるやかな起伏をくりかえし
どこまでも続く緑の如
きれいに並んだカラマツの林
時間がゆったりと流れる
一面を紫に染めたラベンダー畑
漂う香り 訪れる人を包み込む
ラテン語の LAVO「洗う」
入浴時の香水として用いられた
睡眠リズムや体のリズムを整える
ラベンダーソフトクリーム
薄紫がお花畑に映えて綺麗でした

Photo essay

温風至

題字 中田蘭石
撮影 由井 収
文 松永 恵一

花畑 (上富良野)



四季彩の丘 (富良野)





イワタバコ

季節の



緑映

実景

赤目四十八滝 (室生)

撮影 武市通治

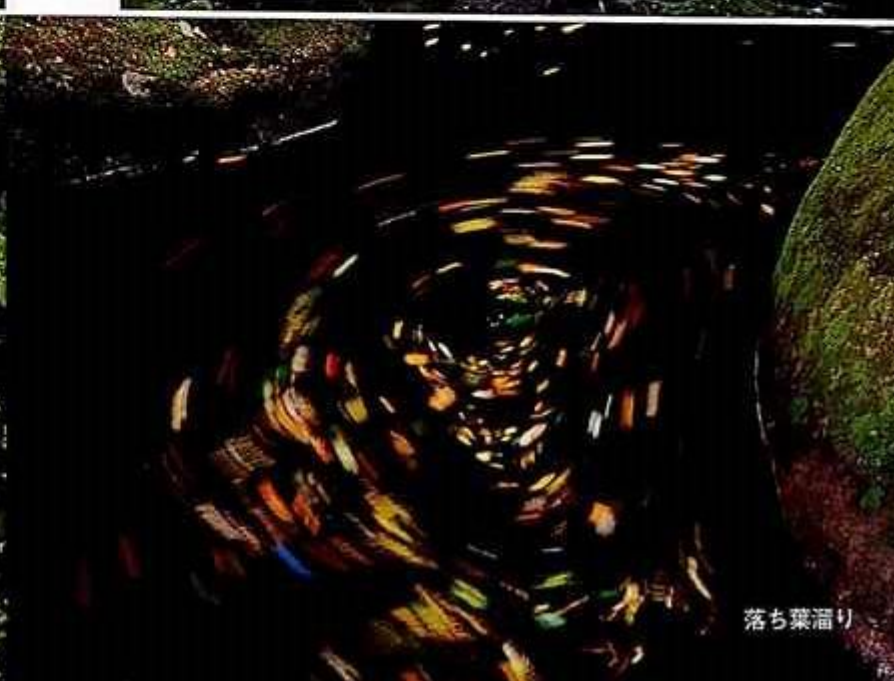
盛夏



緑陰



深緑



落ち葉溜り



横手山麓の前山湿原 (志賀高原) 高岡 喜美子



夏薫る山旅 (北アルプス・三侯蓮華岳) 武田 誠司



壺心 (鈴鹿・神崎川) 西村 敏夫



中央アルプス縦走 一芝 義雄

●表紙 田代平湿原より大白森を望む (秋田・奥羽山脈) …松田敏男
 ●口絵 近江の山・樹林の四季 …山本武人
 Photo essay「温風至」 …松永恵一
 季節の実景「赤目四十八滝」 …武市通治
 武田誠司・一芝義雄・高岡富美子・西村敏夫
 雨のち晴れの山を行く …奥田英一郎



コマクサ (西村文男)

せせらぎ……………	91	86	84
サービスエーデン……………	112		
山行計画・報告……………			
会員募集・新入会員紹介……………	111		
原稿募集・編集後記……………			
広告索引……………			

利尻山・礼文島……………	田中 明
観音山から眺む海岸……………	木村 太郎
四姑嶺山……………	生駒 肇雄
御池高トラパス……………	長谷川雅俊
本郷浅間山・佐原浅間山……………	飯本 伸人
イチゴ谷山以南尾根縦走……………	小山 誠次
深堂立場本陣から大井宿……………	国井 文男

標高による山の紹介 △△07の山……………	松田 敏男
三角点を訪ねて・点名「大日」から近江坂……………	磯部 純
韓国登山シリーズ・鶏籠山……………	吉見 英樹
文学歴史ハイク・秋篠寺から西大寺を訪ねて……………	松永 恵一

神代の地名を巡って……………	飯本 伸人
旗振り通信・堂島米市場の文庫……………	柴田 昭彦

山の地名を歩く・飯豊山……………	西尾 寿一
無限江山・夏は高みを目指す……………	村上 俊雄
①阿弥陀山と難体天皇遺跡めぐり……………	長宗 清司
②相津峠道の周辺……………	飯本 伸人

紀行

連載紀行

随想

研究

レポート

コースガイド

巻頭言

「なぜ山に登るのか?」に、「山があるから」と答えてしまえば簡単。古代から人と山の関わりは深い。古代の「山は神」信仰から。そして中世・近世では宗教・修験の聖山となり、近代以降はアルピニストの世界、初登攀・ルート開拓時代と進んできた。しかし今日、踏査の時代は終わり、特に熟練した登山家の世界でもなくなった。ルートは整備され、山小屋が出来、先人の記録が残り、ガイドや地図が揃っている。ネットで簡単に知ることもできる。装備さえ整えれば誰でも登山を楽しめる時代となった。

私は、登山はあそびの一種、「都会から逃げ出して、心の憂さを山に捨てに行く」と答えよう。大空のもと、山岳景観に酔い、下界を広く展望する。足下には高嶺の花が咲きそう。全てが癒してくれる。心が高揚し、世俗の憂さを完全に消し去ってくれるのだ。

新ハイキング関西(代志) 村田智俊



雨の山を歩かずして山を語るなけれ。(霧の山麓より)



山頂は青空(大和岳)



濡れそびれた山頂(如来月岳)

海拔0から花の浮島

利尻山・礼文島

田中 明

北海道

利尻山や礼文島を訪ねたいと思ったときつかけは、深田久弥「日本百名山」の1利尻岳の次の文章を読んだときである。

「私の眼にした最初の利尻岳紀行は、『山岳』第一年二号に載った牧野富太郎氏のそれである。明治三十六年（一九〇三年）八月のことで、この植物学者の一行は鷺泊から登った。ほとんど道らしくもない道を辿って、山中に二泊している。頂上には木造の小さな祠があったというから、土地の人は、すでに登っていたのであろう。紀行にはカタカナの植物の名がたくさん出てくる通り、北日本で最も種類に富み、リシリという文字が頭についた名の植物だけでも、十八種に及ぶそうである。」

礼文島から雲上の利尻山を見る



かの有名な牧野富太郎博士が登った植物の宝庫、それもリシリが頭につく植物が多数ある山に行ってみたくて心をかりたてられてしまった。それからというもの、利尻・礼文の植物関係の書物を読み漁ったのはいうまでもない。相当な知識をむりやりに詰め込んで、最北の花の独立峰利尻山に登り、花巡りしながら、たおやかな礼文島を歩

く姿を勝手に想像している我が身に、ハッとする始末であった。

そのような日から数年を経過してのち、待ち魚がれたその日はついにやってきた。望みどおりの群青色の空が広がる山日和となり、嬉しさのあまり有頂天での山旅の始まりとなった。北の最果ての花の浮島に來たのだと思うと、飛行機や船の中で隣の人に「利尻、礼文へねー、楽しみですね」とにこやかに話しかけている、いつにも増して多

弁な自分であった。

「礼文島から眺めた夕方の利尻岳の美しく烈しい姿を、私は忘れることが出来ない。」と深田は冒頭に記している。稚内からのフェリーが利尻島の鷺泊港に近づくと、海原上に見えた利尻山は、まさに深田が眺めたそのものであった。

夕食には海の幸を味わい、熟睡後の夕食には海を冷んやりする早朝、利尻北麓

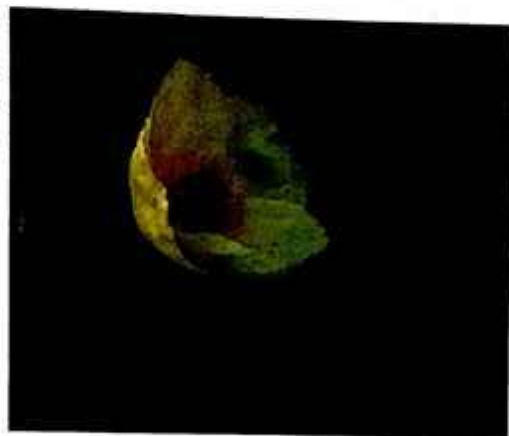


野営場を5時30分に歩き始めた私たちは、10分で東屋の建つ名水百選「甘露泉」の三合目に着く。喉ごしのまろやかさを確認し、水分補給は怠りなく1.5リットルを用意。この後、下山してくるまで水場は一切無い。

ほどなく、ミヤマハンノキ・ダケカンバ・エゾマツ・トドマツなどの針葉樹、イタヤカエデ・ホオノキ・ナナカマドなどの樹林帯をひたすら進む。足元にはチシマザサが群生している。比較的湿気のなさそうな樹林のなかにミズバショウの花が咲き、こんな場所にと驚く。さらに、ゴゼンクサバナ・マイヅルソウにトリアシシヨウマなどが生き生きと咲き誇っている。

いきなり明るくなった六合目の展望台へ飛び出すと、礼文島や鷺泊港が俯瞰できた。ここから5分先に最初のトイレがある。

利尻山登山では、環境保護のために携帯用トイレを持参することが町を挙げてPRされている。ストックのキャップは外さずに使用することも奨



リシリヒナゲシ

長官山に着く。ここでは、眼前にそびえる利尻山を見上げて感激の脈わいとなり、こゝでみんな一本立てる。

とつづく森林限界を超えているのであたりは高山植物のオンパレードだ。ミヤマアキノキリンソウ・キバナノコマノツメ・バイケソウ・ミヤマシウド・ミヤマオダマキ・イブキトラノオ・イワベンケイなどは珍しくもないが、ウコンウツギ・エゾツツジ・チシマフウロとなると、「本土のお花」と何となく違うね」などと話しながらルンルン気分だ。稀産種のチシマイワブキも確認し、リシリオウギ・リシリヒナゲシ・ボタンキンバイなどの特産種が出てくると、もう困ってしまう。ピタッと足が止まって狭い登山道が塞がれてしまうのだ。でもみんなこれらのお花に会いたくてはるばるやって来たのだからと、一同納得する。

ケシ科のリシリヒナゲシは、九合目

上部のカレ場の岩陰に、花卉が透けんばかりに淡いレモンイエローに咲いている。このお花を見ただけで、もう大満足であった。

さらなる感激の出会いもあった。それはバラ科のキンバイソウだ。シナノキンバイは低山から高山帯で容易に見られるが、こゝでの特産種であるボタンキンバイも驚きであった。北海道ではあす出会うであろうレブソウ・キンバイソウ、大雪山などに咲くチシマノキンバイソウが見られるようだが、こゝ利尻山で見られないボタンキンバイの大きな特徴は、雌しべが赤くなることで、これが他の仲間との相違点のようだ。

九合目の指導標には「こゝからが正念場」とある。岩礫のザレ場は滑りやすいし、道はますます急登となる。でも足元に咲く多くの花々に酔いしれながらの登りに、弱音の言葉は誰からも聞こえてこない。

エゾノツガザクラの小群落を見てすぐに、祠のある小広い砂礫にシコタンソウ・ミヤマハタザオ・ミヤマアツマ

められている。

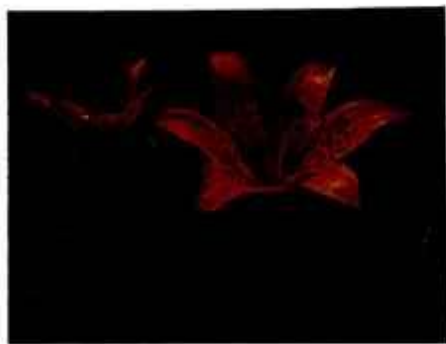
利尻山は短期間でのオーバーユースなどにより登山道の痛みが激しく、とりわけ、九合目から上の火山礫一帯の赤茶けた崩壊地では、山歩きに不慣れた登山者が困り果てるほどである。

植物がハイマツに変わり、イワギキョウ・チシマフウロなどが見られるようになると八合目で、一等三角点の

ギクなどのお花が目に入ると利尻山北峰に着き、北麓野営場から何と6時間近くもかかってしまった。

なお、利尻山は双耳峰で最高峰は南峰であるが、北峰からの稜線は崩壊烈しく現在通行禁止とされ、昨今では北峰が頂上とされている。むやみに踏み込まないようにしたい。

大展望をほしのままに大休憩し、後は来た道をゆっくりのんびりと5時間かけてくだり、利尻山の花登山を無事



エゾスカシユリ

終えたことを喜び合った。

夜が明けたが、きょうは礼文島香深港への船便出発がゆっくりなので、島内をすこし歩いてみようと思いついた。港のベシ岬に行ってみた。けつこうお花も見ることができ、さらに利尻山がきれいに見えていて、これまた大感激であった。

香深港へ渡り、いよいよ礼文島最北のスコトン岬から澄海岬までのコースを花巡りすることになっている。

港の送迎車の運転手が「台風並みのえらい強風が南から吹きつけているがどうしますか？ どうしても行くというなら反対側から歩いたほうが安全ですよ」とのことで、澄海岬からスコトン岬へ逆に歩くことにした。ところが話の通りすこい強風で、身を屈めて風を避けながら歩くことに集中しなければならぬほどであった。しかし、それも1時間程で収まり、ようやくゴロタンノ浜の階段あたりからお花巡りが楽しめるようになった。

メタカラコウ・オタカラコウの仲間

であるトウゲブキに期待したが、出会えなかったのは心残りであった。それでもシロヨモギ・キタノコギリソウ・エゾカワラナアシコ・エゾオグルマなどが咲いていた。

一般的にはスコトン岬から澄海岬まで歩き、引き返してレブソウアツモリソウ群生地を見て、浜中までの4時間コースが観光案内のお奨めらしい。5月下旬から6月上旬までに咲くレブソウアツモリソウはもちろん、时期的なことから、その部分を外していたため2時間40分が標準タイムだが、私たちはそれを1時間もオーバーするほどに、大満足のお花巡りをしてしまった。

圧巻は、ゴロタ山からスコトン岬への車道沿いで、法面に咲くエゾカンゾウ・エゾスカシユリ・レブソウオカマ・チシマフウロ・イブキトラノオなどのお花が、ずっと続いていた。

到着した最果てのスコトン岬には民宿があり、おみやげ屋も大賑わいである。展望は良くなかったものの、晩秋

から4月頃にはトドが集まるといわれるトド島はしっかりと見えた。天候が良ければサハリンも遠望できるとの説明書きもあったのだが、こればかりは文句も言えない。

そうは言っても、学校やホテルの朽ちた建物跡は、本土や海外から多くの観光客が足を運ぶ北の観光地には似合わない。やはり、うら寂しきうら寂しい。魔物の整備はいつのことだろうか。

澄海岬、ゴロク岬、スコトン岬を経由する岬廻りのコースで、多くの花々



と礼文の青い海を堪能した後は、「香深の宿でウニドンでも賞味しよう、まだきょうの楽しみは残っている」と愉快な仲間たちと話が弾み、果ての旅は平和でのんびりしたものだだった。

最終日、礼文島でのきょうの花巡りはまず礼文林道である。宿から30分で林道入口だ。この林道歩きは、本土で歩く林道とは大きな違いがある。ずばり、香深入口からレブンウスユキソウの林道歩きなのだ。だがしかし、今回

礼文島でのお目当てでもあったレブンウスユキソウはそんなにも多くは咲いてはいなかったものの、可愛く咲いたその姿を見て、来てよかったと思わせてくれるに十分であった。

さて、エゾウスユキソウともいわれるレブンウスユキソウの同定ポイントには、頭花が5〜20個と多く、有花茎の葉はこれまた10〜20個とウスユキソウの仲間ではいけばん多い。これらが頭の隅に残っていたので、頭花の数に葉の枚数が確認でき、ホッとした。



レブンウスユキソウ

シオガマはきのう多くの出会いがあり、ズグヤクシユ・サイハイラン・コケイラン・ノビネナドリなどは馴染みであるが、初見のヤマハナソウの花には色めきたった。幸いにも事前勉強よろしきを得て説明も事無きを得たが、撮った写真はピーカンで苦労さんとなっていました。

礼文島花巡りのファイナーレは、礼文花トレッキングの白眉ともいえるコースで、「礼文フラワーロード」と呼ば

れる桃岩展望台コースへ向かった。いきなりのお花畑が丸い山並に続いている。エゾカンゾウ・ヒオウギアヤメ・エゾカラマツ・カラフトハナシノブ・ミソガワソウ・センダイハギ・レブンソウ・チシマゲンゲなどが乱れ咲き、レブンキンバイソウはミヤマキンポウゲとともに輝くようなお花畑となっていた。

そんな中に、白い背の高いセリ科のお花たちもいろいろ見られた。エゾニユウエゾノシシウド・オオハナウド・エゾノヨロイグサ、少し低く比較的わかりやすいオオカサモチも珍しく、見慣れた小さいシラネニンジンやハマボウフウも風に吹かれながら咲いていた。北の離島の元地灯台でゆっくり花休みを取り、知床集落まで半時間をくだりながら、花歩きの余韻と海上に浮かぶ利尻富士の絶景を目に焼きつけ、花旅をフィニッシュした。

(平成20年6月30日〜7月3日参)

〈参考タイム〉

- 泊港17・20 (ホテル泊)
- (2日目) 宿5・02 (車) 北麓野営場登山口5・08 | 25 | 甘露泉5・34 | 40 | 長官山8・40 | 55 | 九合目9・55 | 10・10 | 利尻山11・17 | 50 | 避難小屋13・20 | 30 | 長官山13・45 | 50 | 甘露泉16・25 | 35 | 北麓野営場16・40 | 17・15 (車) 17・25 (ホテル泊)
- (3日目) 宿9・30 | 鷺泊港9・40 | 10・05 (船) 香深港10・45 | 11・10 (車) 澄海岬11・40 (昼食) 12・20 | 鉄府12・55 | ゴロクノ浜13・30 | 40 | ゴロク山14・10 | 05 | スコトン岬15・10 | 30 (車) 香深民宿16・10 (泊)
- (4日目) 宿6・25 | 礼文林道入口6・50 | レブンウスユキソウ群生地7・35 | 45 | 林道入口8・20 | 桃岩展望台9・15 | 25 | キンバイの谷10・10 | 元地灯台10・35 (昼食) 11・05 | 知床集落11・35 | 50 (バス) 香深港11・55 | 13・00 (船) 稚内港15・00

△地図▽
昭文社「利尻・羅臼・斜里・阿寒」

文学碑めぐりの道

観音山から諸寄海岸

但馬

木村 太郎

但馬の山や海に夏が巡りきたとき、風景は喜び一色のものとはならず、どことなく憂い色を漂わせる。但馬が生んだ文化の先人たちの中には、語り継がれてきた片影に何がしかの悲劇的な側面があり、歓喜の色でない風景を感じしてしまうのである。

日本海に面した浜坂（兵庫県美方郡新温泉町）は、単独行で知られる加藤文太郎（1905～1936）の故郷である。山陰線の隣駅の諸寄では、薄幸の歌人前田純孝（1880～1911）が生まれ没している。

加藤文太郎と前田純孝に縁のある但馬の山と海岸を歩くことを思い立ち、浜坂駅へ向かった。

春寒峠に純孝の歌碑が立つが、浜坂の街には別の歌碑もある。夜は蜃が舞う疎水の流れる「あじわら小径」に、加藤文太郎記念図書館があり、その建物の前庭あたりで、前田純孝の写真をはめた歌碑と出会うことができる。

には長女が誕生し、幸福なひとときを過ごした。しかしやがて、槍ヶ岳北尾根で不慮の死となるのは、昭和11年正月である。

磁石の針ふり乱さむは無益なり
磁石はつひに北を指す針

その一方で、但馬の啄木と呼ばれた前田純孝の観音山は幸福の山ではない。啄木のように徳郷に旅を続けたわけではないが、貧苦と病苦に苛まれ短歌に生きた姿はよく似ている。己が人生に悲観し酔いづぶれ、山の絶壁から身を捨てて危うい幻影を歌に詠んでいる。

酒に酔ひて観音山の絶壁を
墮ちて砕くる我れなりしもの

人々が絶壁から救われたいと願い、信仰にすがる西国三十三ヶ所観音石仏が、相応峰寺から山頂へ続く道筋にまつられていた。常緑樹主体の樹間の山道はけっこう涼しい。仁王門が立つ九丁目から極楽の鐘堂がある十丁目を過ぎれば、十一面観音立像をまつる本堂の圓通殿に出る。本堂の裏手に山頂へ上がる細い道があり、観音山（245.0m）の角が欠けた三等三角点を手で

加藤文太郎を描いた新田次郎の小説『孤高の人』によれば、文太郎は結婚式当日、観音山の頂上から花嫁を迎えに下りたという。昭和9年正月、縁あって花子さんとお見合いで結ばれ、翌年

豊岡を出た普通列車は香住を過ぎて、宮本輝の小説「海岸列車」の舞台になる。観音山、余部鉄橋を通過した余部駅、桃観崎トンネルを抜けた久谷駅に停車して、目的地の浜坂駅に着く。旅情をかきたてる駅前では、湯村温泉行きの全但バスが発車待ちしている。テレビドラマから生まれた夢千代が、湯けむり情緒を醸したす場面が思い出される。

早坂鏡脚本の「新・夢千代日記」では、吉永小百合が夢千代、松田優作が前田純孝の役を演じていた。原爆症という戦争の傷跡を抱えていた夢千代の画面に、純孝の短歌がテロップで重なり、哀愁漂う但馬の風景のなかで物語は進行していった。

若き純孝は、大阪の島之内高等女学校（後の夕陽丘高女）の初代教頭として赴任し、妻を娶り新婚生活に入った。新しい学校を軌道にのせる激務のため病気を患い、山陰線の開通していない時代、村岡から湯村温泉へ越える春來峠を戸板で運ばれ帰郷する。

人気商品紹介

◆ウォーキングライト◆



オリジナルザックも 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット。両サイドには、ストック等の収納に便利なフンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームの軽ザックです。

☆26☆

- ・カラー フル×ネイビー・レッド×ネイビー・ワイン×ネイビー・オレンジ×ネイビー
- ・重 量 530g
- ・素 材 ナイロン・リップ
- ・価 格 ¥14,500

イモック山道行くらぶ

春寒峠、手尾を気にせず、登山・登山・名山を歩む。お気軽に問合せ下さい。

詳細はお問い合わせ下さい。



〒653-0229 神戸市東灘区日高町1丁目1番30号
カナザノビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間/10:00-20:00 日曜日不定休



純孝が教師時代、短い新婚生活を続けた大阪の夕陽丘界隈、坂の多い上町



加藤文太郎の「ふるさとの碑」

城山を捲いた平坦な中腹道は、海中公園海金剛と風待ち港の諸寄港を見下ろす城山園地に誘う。城山(若屋城跡)の道を見送り、舗装路になる坂道を浜坂ユースホテルへくだる。長編詩篇「兵庫讃歌」で知られた富田碎花の詩碑が日本海に向いて立つ。

きょう歩いてる但馬海岸の道は、昭和45年に兵庫県ユースホテル協会が兵庫県一周リレーホステリングを計画し、兵庫県青少年局と協力してまとめた、兵庫県「青少年自然遊歩道」の一部分である。私は「近畿自然歩道」にしる、神戸市の「太陽と緑の道」にしる、それぞれのハイキングコースを



観音山山頂

純孝は明石の秋庭信子と結婚し、長女英津子を授かる。しかし彼の結婚は、没落したとはいえ代々諸寄村庄屋の家柄である、父や養母の意に染まなかった。妻信子は産後の肥立ちが悪く実家に戻され、純孝も脚結核を患い歓迎されない諸寄の生家に帰る。唱歌の作詞等でわずかな収入を得て、短歌を詠むことで生命の証にしていたという。

結婚式までに時間があり、観音山に登った文太郎は、山没りの暮らしから山に代わるかけがえのないものを手にする喜びを、山頂のすばらしい眺めのなかで増幅させていたのだろう。一方の純孝は、遮るものがない日本海の風景のなかで、妻子と別居し病魔に苛まれて絶望の淵に沈んでいたのであろう。

触ることができた。

観音山から下り、純孝が余命を生きた諸寄を目指して潮の香と海風が吹く海岸通りを歩く。砂浜の板張り歩道を進んで、夏本番の浜坂県民サンビーチの光を浴びる。道稿集「単独行」の後記によれば、泳ぎが達者だった文太郎は、潜水競争で常に一等賞をとったという。山の強者文太郎が、海でもその片鱗を見せていた浜坂の海が開けている。

振り返ると白砂と青い渚を隔てて、観音山が青葉を繁らせ形良い姿を見せている。浜坂海岸を散歩しつつ純孝は、病気を快癒させる希望の船が着くこと

を待ち続けていた。

けふもまた我れによろしき薬積む船まつごとく磯に立つかな

白い砂浜に長く続く板張り歩道を歩けば何となく、石川啄木の「東海の小島の磯の白砂に……」の短歌が浮かんでくる。啄木と同じで純孝もまた、与謝野鉄幹と晶子の「明星」誌上に短歌を寄稿していた。前田純孝の「翠溪歌集」が世に出た時に、鉄幹と晶子に追悼歌を贈られ、その才能を惜しまれている。

海の光が眩しすぎるので、キャンプの天幕が立ち並ぶ「松の庭」の道に入る。浜坂海岸と砂防林帯の芦屋浜の松林は、「日本の白砂青松百選」に選ばれている。松の庭を通り抜けた角地で、新田次郎文学碑に出会う。石碑には「孤高の人」の一節、「観音山のいただきには……」の碑文が刻まれている。

蟹の水揚げで知られる浜坂港、遊覧船乗り場から港の突端に廻り込み、城山園地への山道を登る。八城ヶ鼻灯台が立つ岬の展望地から岩礁と日本海

を眺める。絵本の風景に似た海を進む船が、帰らない純孝の時代と思いを曳いてゆく。岬に寄せた波涛は、悲哀を含んで飛沫を砕け散らせている。

かへり見て波の但馬の山々か

径か岬かあけほの空

台地からは、生駒・葛城・金剛の山並が眺められる。雪嶺の姿を見せることは少ないが、純孝はきつと故郷の山を思い出してに違いない。病床暮らしを続けている時、純孝は逆に故郷の山を眺めて、幸福な大阪時代を懐かしんでいたのかも知れない。

岬の道をたどれば、北アルプスの山々

を形どった加藤文太郎の「ふるさとの碑」が、朝日の照る高台に立つ。燕岳を出発とし、槍ヶ岳北鎌尾根を最期にする北アルプス山行の足がかりにした、但馬の観音山を真向いに見る。北アルプス燕岳山頂で、文太郎が感激して万歳三唱した行為の原点は、間違いなく故郷の観音山にあったといえよう。

部分的に歩くだけで、完全に踏破したことはない。

浜坂から諸寄への但馬海岸の道は、こま切れに歩いても興味が深い。文太郎が単独行する理由は「独りで登山しても充分の満足が得られる」からで、山に登る理由は「山は、山を本当に愛するものすべてに幸を与えてくれるもの」だからと述べている。その山と同等の幸せを、海岸風景が与えてくれる。

故郷に病んで臥せるだけの純孝の見ていた風景は、こま切れどころか、小さな窓の微かな明かりだけだったかも知れない。そのころ山陰線の鉄道工事が始まり、余部鉄橋の架橋に使う工事が、諸寄港に陸揚げされるようになる。昼は工事の騒音、夜は人夫の騒ぎ声で、純孝は眠れない療養の日々を過ごした。

我がために汽笛は声を上げて泣く
故郷の山もいでてまた泣く
山陰線が開通して、但馬と大阪が一直線に結ばれたときには戦場に復帰し、

妻子にも再会できると夢見たのだろう。まだ走ってもいない汽笛を聞いて、故郷の山を出て泣くという、希望の歌を純孝は詠まずにはいられたかったのだろう。

純孝の再起の夢はかなわず、明治44年9月25日の明け方、31歳の生涯を閉じる。生活すること必死で、生前にただ一冊の書物すら世に出していないが、死後に恩師や友人の手で、雅号を書名にした「翠溪歌集」が出た。

諸寄海岸に下り立つと、若者たちが自由に泳ぎを楽しんでいる。岸壁に停泊した漁船群が城山を仰ぎ見ている。諸寄の「海水浴場」バス停前の小公園に、天を指した鋭角的な前田純孝の歌碑が立っている。

いくとせの前の落葉の上にもまた落葉かさなり落葉かさなる
いま私が見ている風景は、小さな世界かも知れない。こま切れの映像であるかも知れない。だが事実、この風景を純孝も文太郎も見ていたのだ。いま

私が歩いてきた道は、ずっと昔には彼らが歩いてきた道である。昔からずつとずつと、落ち葉の上に落ち葉が重なり、その上に明日また、新しい落ち葉が散り重なるのである。

純孝歌碑の前に落ちていた、一枚の枯れ葉を拾い上げてみた。握れば粉々に砕ける錆色の枯れ葉から、志半ばで果てたひとりの歌人の無念の音が聞こえたような気がした。

(平成20年8月2日歩く)

△コースタイム▽

J R 浜坂駅(15分)あじわら小径の前田純孝歌碑(20分)相応峰寺(45分)圓通殿観音堂(5分)観音山(40分)相応峰寺(25分)浜坂県民サンビーチ(10分)新田次郎「孤高の人」文学碑(30分)加藤文太郎「ふるさと」の碑(20分)城山園地(30分)諸寄海水浴場の前田純孝歌碑(10分)J R 諸寄駅
△地形図V2万5千 浜坂

今回は、山と花を愛でながらのんびりハイキングでもと思い、ツアーに参加した。

早朝、関西空港を飛び立つと、2時間30分で上海に到着する。国内便に乗り換えて2時間40分、四川省の省都成都に到着する。日本から中国に行くより、中国国内での移動のほうが長いくらいで、本当に中国は広大である。成都には以前にも訪れたことがあるが、街はすっかり近代化され、西武やイトーヨーカ堂の看板が見られた。

今回のグループは女性7人、男性4人の11人で、ここでも女性が優勢である。

夕食に出された本場のマロボ豆腐は、本当に辛くて誰の口にも合わなかった。翌日、バスで臥龍を目指す。途中の都江堰まではハイウエイで、後は世界遺産で有名な九寨溝への道を進む。九寨溝には飛行場が出来たのだが、それでもまだバスが列をなしている。以前は外国人ばかりだったが、今は中国

紀行

ブルーポピーの咲くフラワー・トレッキング

スー・クーニャン

四姑娘山

生駒聳峰

中国

中国の四川省、成都市の西北220kmにそびえる四姑娘山は、四つの峰を連ね、手前から大姑娘山(長女5355m)、二姑娘山(次女5454m)、三姑娘山(三女5664m)、四姑娘山(四女6250m)と、四人姉妹の山と名付けられている。長女がいちばん低く、次女、三女と高くなり、四女は雪を纏って天を突き刺している。周辺は、高山植物の宝庫でまほろしの花ブルーポピーが咲き、90種近くもある花の山である。また、途中の臥龍にはパンダの保護センターがある。

大姑娘山は、アイゼンもピッケルも必要なく簡単に登れるので、日本からも大勢の登山者が訪れる。



日陸展望台で四姑娘山を望む

の人も大勢旅行するようになり、観光地は賑わっている。
映秀で九寨溝との道と分かれると、車は少なくなったが悪路となる。北京オリンピックまでに道路を拡幅するため、悪路と渋滞で時速20〜30km位でしか走れない。
臥龍に到着する。谷の迫る山間の小

さい村に、立派なホテルや博物館が建っている。

昼食を済ませてパンダの保護センターを見学する。1日位の低い標で囲まれた区画が幾つもあり、その中で数頭ずつのパンダが飼育されている。パンダは人には無関心で、お互いに戯れ合ったり、ササを食べたり寝そべったりしている。5〜6歳の木の枝に捕まっているのを見かけた。いつ見ても可愛いものである。飼育室では、ネズミくらいの大きさの生まれ立てのパンダが、保育器の中でまさに蠢いている。30〜40頭はいるようだが、有料でパンダといっしょに写真が撮れる。しかし、ひと抱き200元(約3500円)はちよつと高い。もつとも保護活動に寄付する意味もあるらしい。

臥龍の周辺では、パンダのエサとなるササが栽培されている。丈の高くない細い葉で若草色で瑞々しく、人間でも食べられそうに感じる。ホテルの食事で細い筍がよく出たが、同じササのものかどうかはわからない。

博物館には周辺に生息する動物や鳥類の剥製がたくさん展示されている。今まで見たことも聞いたこともない動物も多くいて、中国はまだまだ奥が深いと思った。夕食前、山で見る高山植物の説明があった。スライドで映し出される花々は、日本でも見られるものも多いが、ここではブルーのポピーが目玉で、花は90種ほどあるとのこと。
翌日、日陸に向かう。道路は工事でますます悪くなる。そこで、臥龍でポリスの車をチャーターしたと言う。警察を雇うとはさすがに中国だと言う。警お嵩で車が遅れてくれるので、少しはスムーズに走れた。行き交うドライバーは、警察の車に先導される私たちのバスを好奇の目で見ていた。
峡谷を離れて二郎坪の登り口にさしかかる。相変わらず、ジグザクの悪路が続く。二郎坪の手前標高4000mあたりで、高山植物が一面に咲き乱れる草原が現れる。日本でも見慣れた花が多いが、ここでは何十種類もの混在していて、しかも見渡す限りに広

がっている。私は、このようなお花畑を日本では見たことがない。

もともと私は花には強くないが、それでも見知った花々が咲き乱れている。アヤメ・コバイケイソウ・シオガマ・スマレ・イチリンソウ・ハクサンイチゲなど、牧草にいとまがない。

スイスで探し廻ったエーデルワイスが、ここではいたる所に咲いている。スイスで騒いだのが嘘のようである。60種類もの花が咲いているという。このツアーはフラワー・トレッキングがメインなので、参加している人たちはとても花に詳しい。あちらこちらで歓声を挙げていた。



ブルーポピー



エーデルワイス

が咲いている。ツアーの目玉の花で、草原でなくガラ場に咲く。一つや二つではない、斜面に点々と咲き誇っている。カメラ片手に駆け廻るところだが、標高4000m以上ではとても走ったりはできない。ゆっくり歩かないと息苦しい。これだけ多くの花が見られるとは、訪れた甲斐があったというべきである。花期は6月から8月で、時期によって見られる花が違っているようだ。

二郎坪は4350m。残念ながら雲が多くて展望は良くない。峠の両側には、つづら折りの車道が急下降している。日陸に向かってくる。このあたりも道の舗装が縦横に割れていて、思うようにスピードが出せない。やがて

日陸の町が見えてくると、四姑娘山の展望台に到着する。しかし、空は厚い雲に覆われ、わずかに大姑娘山・二姑娘山・三姑娘山の三山が黒々と影を落とすのみで、主峰の四姑娘山は、山腹に雪の絶壁を見せるだけであった。谷の対岸にのびる稜線は、大姑娘山の登山口に到る鍋莊坪で、白いバゴダが見えている。あすハイキングする所で、高山植物が多くて山の展望台だと言うことだが、天気はどうだろう。

今は雨期で、花は見頃だが山を見るには秋のほうがよいとのことであった。私は花よりも山を期待していただけに残念である。

日陸では、双橋溝を専用バスで観光する。峡谷沿いの高原で、30mにわたり車道や木道が設置され、峡谷や山々が鑑賞できる。しかし、とても九寨溝には及ばない。

日陸はチベット族の町で、夕食にはチベット料理が出された。しかし、バター茶など全く口に合うものはなく、悪路で揺られたためか高山病気味で、

高山病対策& 高所登山に! **低酸素室**

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高度障害に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m～4000mに調整することができます。初めて国内・海外の高峰を目指している方、山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!



高所ツアーも経験豊富なアミューズトラベルにお任せ下さい!

- アフリカ大陸最高峰キリマンジャロ(5895m)登頂
- チベットからネパールへ エベレストBC(5150m)
- ネパール ゴーキョピーク(5360m)トレッキング
- ネパール カラパタール(5545m)トレッキング
- ネパール バラクピーク登頂(4618m)と世界最高所山岳ホテル
- ペルー インカ道(4200m)トレッキング
- バブアニューギニア最高峰 ウィルヘルム山(4509m)登頂
- マレーシア最高峰 キナバル山(4095m)登頂 等々

まずカタログをご請求下さい!

見ごたえたっぷりの国内・海外の山岳と自然観察の旅、計500コース以上を掲載した総合カタログ。ハイキングから海外の高峰登頂ツアーまで幅広い商品を揃えています。見るだけで楽しいオールカラー160ページのボリューム。そして、これから登山やハイキングを始める方、初心者の方のための、山歩き教室カタログもあります。送料・本体ともに無料でお届けしております。どうぞお気軽にご請求ください。



お電話
おはがき
FAX・HP
にて

送料・本体共に無料です。
お気軽にご請求下さい!

山岳添乗員・山岳ガイド大募集

山岳専門旅行社アミューズトラベルでは夏山の繁忙期に向けてツアーのお手伝いをして頂ける方を募集しています。自分のペースで、大好きな山の中で働いてみませんか?ご興味をお持ちの方は一度お問合せください。

アミューズトラベル株式会社
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

アルコール類も欲しくなかった。きょうも曇り空で山は期待できそうにないが、鶴荘坪へのハイキング。大姑娘山の登山路にもなっている幅広い道で、多くの馬が客を待っている。ベイスキャンプの宿舎まで馬に乗って行くことができる。日本人を含む登山客が馬の背に揺られ、荷物だけ積んだ馬も連なっていく。大姑娘山にはかなり多くの人が登るらしい。

道端にはたくさんのお花が咲き、ガイドの説明を聞きながら稜線の一角に登り着くと展望が開け、山々が姿を現す。しかし師の三山は何か認められたが、主峰の四姑娘山はきょうも全く姿を見せなかった。山を見るために来た私としては心残りであった。

午後、臥龍への道は雨になる。悪路はますますぬかるんで走行困難。山に向かう人たちが「最悪だなあ」と案ずる。ガイドは雨の路傍にも花を探しだして次々と紹介してくれたが、雨では車から出ることもままならない。

悪路といっても主要幹線なので、トラックローリーや大型トラック、バスなどが行き交う。どれもこれも左右に大きく車体を揺らしながらのんびりと走っている。その間を軽のバンやRV車が追い抜いていく。工事が完成すると、一車線の所も無くなり、日陰まで3時間位早く行くことができるという。しかし、工事の状況を見ると、オリンピックまでにはとても間に合わないと思われる。三年後くらいに訪れたら快適なドライブが楽しめるだろう。

成都に戻る日である。まだまだ悪路が続いたが、映秀で九寨溝との道に合流して正常に戻る。国道沿いには何軒もの洗車場があり、次々とバスが停まる。どの車も中国人観光客ばかりである。都会には泥まみれの車は入れないから、ここで洗車していくことになる。山の旅も終わり、成都では杜甫草堂を観光し、夜は川劇を楽しんで今回の旅は終わりとなった。

- 「今回見ることでできた花は63種あった」とガイドがリストを渡してくれた。日本でも知られた花がたくさん記載されているが、山野草の好きな方は、ぜひ訪れることをお勧めしたい。時期は花にもよるが、7月上旬がベストシーズンのようだ。
- ツアー会社による大姑娘山の登山日程は8日間、おおよそ次の通りである。
- 第1日 大阪→上海→成都
 - 第2日 成都(バス)日陰
 - 第3日 日陰(徒歩または馬)ベイスキャンプ
 - 第4日 ベイスキャンプ→アタックキャンプ
 - 第5日 アタックキャンプ→山頂→ベイスキャンプ
 - 第6日 ベイスキャンプ(徒歩または馬)日陰(バス)臥龍
 - 第7日 臥龍(バス)成都
 - 第8日 成都→上海→大阪
- 日本の山専門旅行社がツアーを出しているし、個人の山旅手配もしてくれるそうである。(平成19年7月歩く)

新ハイ関西 107号

標高△△07mの山

中盛丸山 (2807m) 南アルプス
取立山 (1307m) 加越国境

中盛丸山

赤石岳と聖岳の間にある中盛丸山は、直接目指せる登山道が荒廃し、最も奥深い山の感がある。主要峰ではないこの小さな円錐峰は、南アルプスの峰々を目指し始めた1970年代の私には、ぜひ登りたい頂だった。その理由は、写真集や案内書に紹介されている山頂からの展望にあった。百間平を前にしたポリウム満点の赤石岳、頂後を美しく広げた聖岳、これら二つの代表的な名山を山頂から描きたかったからだ。

1978年の夏にそれは実現した。初夏第一グムのバス停から5時間の行程を歩き、樺島小屋に泊まった。素泊料金は1200円だった。テントは持参しなかったが8日間の食料は重く、大倉尾根の登りが大変苦しかった。赤石小屋と百間洞山ノ家に泊まって中盛丸山の山頂に立てた。7時頃から3時間山頂にいて、三枚の絵をものにした。至福のひとつときだった。

その時の山行コースは赤石岳、悪沢岳から転付峠越という行程に、ぜひ行きたかった百間平と中盛丸山を加えた形だった。二年後には西沢渡から聖岳

を往復し、南アルプスの3000m峰はすべて登ったことになったが、中盛丸山から聖岳の主稜線をぜひ歩きたいという気持ちが残った。

そして1995年、久しぶりに南アルプス南部の山を目指した。やはり素泊の小屋泊まりで、駒島池コースから千枚岳、悪沢岳、赤石岳と歩き、現在の位置に移動した百間洞山ノ家から中盛丸山に登った。

兎岳で絵を描きたかったのですが、山頂を辞したが、兎岳で絵を描き始める前から体調が悪くなっていくのを感じ、聖岳との鞍部に生えていた灌木の下に身をひそめ、残り少ない水で熱い紅茶を飲んで横たわり、危険な状態から脱したときのことは忘れられない。

中盛丸山は百間洞山ノ家を起点にしてのんびりと山頂を目指すには優しい山だが、聖岳までの縦走となると山の表情が厳しくなる、そんな山だ。

(昭和53年7月、平成7年8月20日歩く)

▲コースタイム▼

田百間洞山ノ家(1時間30分)中盛丸山

御前峰、そして長い尾根がのびた先に別山が、たおやかな姿で見渡せた。

白山の方向へゆるやかに下り、避難小屋を過ぎて、初夏にミズバショウが咲く池畔に出た。コツプリ山に上がって西尾根をくだった。ジグザグ道を下り切ると滝の音が聞こえ、大滝分岐から滝壺へ下りてみた。立派な滝だ。分岐へ戻り、登山口までトラバース気味に廻り込んで、周遊が完了した。

16年後の2003年1月には、5人でスキー登山を試みたが、山頂まで到達できなかった。

夏道は非常に急でスキーに不向きだったので、谷トンネルの福井県側入口から登った。谷峠へ登り後線通しで進んだが、細かなアップダウンがあり、雪質も重くて、避難小屋の少し北の1264m峰で撤退するしかなかった。

(昭和62年9月23日歩く)

▲コースタイム▼

東山いこいの森(3時間)取立山(2時間30分)東山いこいの森

▲地形図V2万5千1北谷



兎岳から中盛丸山(中央)、左奥は大沢岳

(50分)田百間洞山ノ家
田百間洞山ノ家(1時間50分)中盛丸山
(7時間)聖平小屋
▲地形図V昭文社「塩見・赤石・聖岳」

取立山

ミズバショウの群生で有名な取立山は、加越国境からわずか福井県に突き出た尾根上に山頂がある。人の少ない紅葉期前、須藤さん達4人と行った。早朝、京都を出発し、勝山から北へ、「東山いこいの森」に10時半頃着いた。今の案内書によると、東山いこいの森からの林道は車が通れると書いてあるが、混雑する季節でもないのに歩いた記録から想像すると、その時はまだ状態のよい林道ではなかったのだろう。

林道終点で取立山の西尾根に取り付く。自然林の尾根は少しばかり秋の気配が漂う道だった。山頂からの白山連峰の展望はすばらしく、取立平を前景に左から四塚山と七倉山、大汝峰に

随想

山のエッセイ

神代の地名を巡って

数木 伸人

外鎌山を知ったのは、本誌31号の柴田さんの「コトスガイド」を読んだときだったと思う。以来、近鉄の車窓から眺めるたびに、いつか登ろうと決めていたが、昨年末、ようやくその願いがかなった。

95号「せせらぎ」欄に東谷さんが書かれていた通り、手軽に登れ、展望もすばらしかった。大和三山と二上山を一望できたことがとりわけ嬉しかった。相当

数の焼き芋がつくれそうな大量の落ち葉をラッセルするように山道をくだった後、茶臼山古墳を経て桜井駅まで歩いた。

さて、この山の別称でもある忍坂は、日本最古の地名だそうだ。「万葉集巻十三」に作者未詳として詠まれている。「瀨川の泊瀬の山青旗の忍坂の山は走り出の宜しき山の出で立ちの妙しき山ぞ惜しき山の荒れまく惜しも」がそれである。大養孝氏によれば、青旗のたなびくごとく、こんもりと尾を引いている山、谷の

奥から走り出てきてすつくとそこに立ったごとくすばらしい山、美しく立派な山の荒れてゆくのが惜しい、との意味らしい。

さらに、これは「日本書記」雄略紀中の山誉めの歌（歌謡七七）が、挽歌に転用されたのだという。

吉田金彦氏も、万葉の地名について深く考察している。「古事記」にある倭建命妻覚ぎの歌（歌謡二八番）で外鎌山が歌われているとの説を述べておられる。「ひさかたの天の香久山斗加麻速佐和多流久見ひは細挽や腕を枕かむとは吾はすれどさ寐むとは吾は思へど汝が着せる袂の裾に月立ちにけり」ここに読み込まれた「斗

加麻」を、利鎌とする説や、鋭く喧しく（即ち鋭い声で鳴き渡っていく鶴）と読み解く従来の見解を否とし、地名と明らかにしているのだ。したがって歌意は「香具山と外鎌山を渡って行く鶴（白鳥）、その鶴のごとき細腕を……」となる。

倭建の頃は、忍坂山が山全体の呼称だった。歌に詠み込まれた斗加麻は、忍坂山北西部の部分地名だったので、並記された香具山のように「山」が付いていないのだと推察されている。

「古事記」には、忍坂の登美岫古なる人名が記され、鳥見山付近の先住民と考えられている。茶臼山古墳のある外山は、トブヒ（烽火）を上げた地で、鳥見山

随想 山のエッセイ

の部分地名とこのことだ。

話を斗加麻に戻そう。トは外・門であり、カマは壑である。吉田氏は述べている。石を丸く並べた壑のように、周りを高所に囲まれ一方に出入口のある地勢、壑に似て山が狭まり川に臨む所が「カマ」である。（鎌倉（クラ）谷）のカマも同様。

先住民の忍坂地域をカマの内側と見るなら、初瀬川（大和川）沿いは外側に当たる。このようなことから、トカマは「壑状地の外側」「山が狭まった地の門戸をなす所」「戸を構える所」等に解釈できるわけだ。

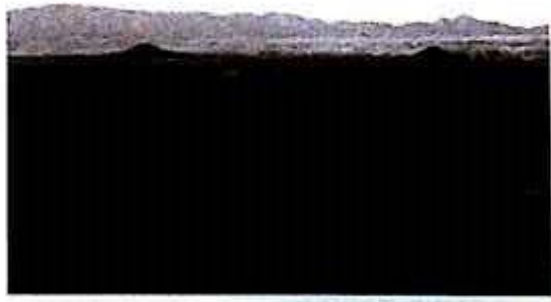
周辺地名についても、次のように解釈されている。泊瀬川の狭まった所。

- ・朝倉 浅い入口のある谷。
- ・三輪 水曲。大和川の曲流地。
- ・大和 山跡。山また山の土地。

最後になるが、外鎌山山頂の三角点名「高間山」も気になっていった。登っている途中に出会った人と言葉交した時に、私はその方が高間山と言われたと思っただけ、後ろにいた家内は「トガマ」と聞いたと言った。私の頭に点名の「タカマ」が入っていたので、聞き違えたのかもしれないが、それほど音が似ているということだ。

タカマのほうが、おそらくトガマ・トカマからの転訛なのだろうが、高天原の

タカマと同音であることも気になった。双方の間に何か関連があるのかもしれないと、素人考えで推測して楽しんでる。



外鎌山からの葛城・香具・畝傍・耳成・二上山

参考文献

- ・東京堂出版（九七年）吉田金彦「地名語源からの万葉集」
- ・平凡社（〇三年）大養孝、改訂新版「万葉の旅」大和」他

野生の鹿と何度も出会った

御池岳トラバース

長谷川 雅 俊

鈴 鹿

真ノ谷から奥ノ平へ

体調がいまいちで、お盆休みの3日間は鈴鹿の山麓で過ごしたのだが、一度も山に入らず、ひたすら食っちゃ寝していた。そのせいか、少しばかり山歩きに対する意欲が出てきたので、自宅を21時46分に出発し、コグルミ谷駐車場へ23時16分に到着した。

鞍掛峠越の国道はガスっていて車を走らせるのにけっこう気をつかった。さあ、ひと眠り、と思う間もなく土砂降りの雨。朝4時に目覚めるが、ガスで全く何も見えない。しかしきょうは歩くぞ！と、4時37分に出発。

今回登るルートは久しぶりにコグルミ谷の右岸尾根で、主だった入り口は四ヶ所ある。

いちばん東側は下の大駐車場（犬場シ谷左岸尾根）から。次がこの小駐車場からすぐに斜面に取り付く。三番目はコグルミ谷出合手前にある護岸工事用の高さ20m余の梯子を攀じ登る。最後が、コグルミ谷出合を右岸から入り、すぐに左岸へ渡り斜面を登るが、10分程で高度595mから再び右岸へ行く

と、最初の植林帯となる。ここの急斜面を植林帯と二次林の間をひたすら登

れば桃源郷（大げさかな？）のようなダイラがあり、さらに登れば右岸尾根にたどり着く。このダイラは小生の大好きな場所、三国岳アソソ谷のダイラ、藤原岳西尾根のダイラ、寒山の東520m標高点のダイラと並んで昔さんにお勧めしたい場所である。でも来ないで欲しいな……せつかくの秘境が俗化しちゃうから。

で、きょうは、護岸工事用の梯子を指す。ガスで何も見えない林道を歩いていると、後ろから車の走ってくる

音が聞こえてきた。轆かかれてはかなわんので振り向いて、ヘッドランプを激しく動かす。すぐにスピードをゆるめて通り過ぎて行ったが、ドライバースもガスった暗闇の中に光る私をどう認識したのだろうか？

ガスで見づらい法面に顔を近づけながら歩き、ようやく梯子を見つけた。この急な梯子を手すりにつかま

りながら歩き、よやく梯子を見つけた。この急な梯子を手すりにつかま

りながら歩き、よやく梯子を見つけた。この急な梯子を手すりにつかま



御池岳付近図

5万図 三好山・藤原岳・寒山

すぐ支尾根にのり、180度へ進むが、雨になる。4時59分、625mで148度へ向かう。空が薄明るくなり、鳥が鳴きだした。

5時16分、700mで雌鹿と出会い、夜明けの風が吹き始める。5時21分、725mで台地状になり、左手植林帯から犬場シ谷左岸尾根が合流する。尾根を忠実に230度へ進み、760m位でやせ尾根となるが、幸い明るくなり、ランプ不用となる。左手、犬場シ谷側から鹿の鳴き声が聞こえてくる。

5時42分、雨脚が強くなる。高度計は800m程なので、ここから右手斜面を下りれば、先ほど話したダイラに着くはずだ。

6時9分、920mでまたガスってきたが、このまままっすぐ登れば冷川岳へ行ってしまおうので、右手斜面をトラバースする。ほどなく天ガ平に6時15分到着。高度計は935mだったので945mに修正する。

この天ガ平は仙人の呼び名らしいが、別名、カタクリ峠・山宿の娘峠とも呼

ばれている。以前は春になるとカクケリがたぐさん咲いていたが、最近はお目にかかれなくなつてしまひ、登山道も掘削部分が多くなつた。登山者が増えたからかも知れない。いっそのこと、登山ルートをつけ替えて周辺の環境を護つたほうがよいのではないだろうか。近藤岩からトラバースするのをやめて、コグルミ谷を直登するとか、左岸をトラバースすれば、この天ガ平を誰も通らなくなるので(県境線線を通走する人は数が知れている)、植生も回復すると思うのだが……

法楽の小径をノンビリ歩いていて、左手斜面を鹿が一頭駆け下りていった。数分後には右手斜面を三頭の鹿が登つていく。「うーん、きょうはなかなか幸先よいなあ」

6時39分、ツメタミズに到着。小屋跡に坐り込んで、本日最初のオニギリを一つ食べる。昨年、ここから谷を下りて行つたら、密猟者に殺された雌鹿を発見した。鞍掛林道からかなりの距離があるので、やはり彼等も肉だけを

剥いで持つて帰るようだ。

そのまま登山道を忠実にたどり、県境線に乗越し、しばらくしてから左下の真ノ谷頭部に下り立つ。ちょうど、丸山と奥ノ平との間の鞍部から落ちてくる谷の右肩にのり、斜めにトラバースして行く。このあたりの斜面もいかにも御池岳という感じで小生の好きな場所である。ガスの中、鬱蒼とした樹林帯と苔むした石灰岩がゴロゴロしていて、まさしく幽玄の世界。やはりこういう所はひとりで歩くにかぎる。仲間といっしょでは、ワビとかサビを感じとることはできないであろう。ここでも鹿三頭と出会う。今年の春、このあたりで寝転がって花の写真を撮っていたら、鹿が小生をエサ?と勘違いでもしたのか、目の前まで近づいてきてビックリしたことがあった。

また、秋の夜明け頃、二十数頭の鹿が走り廻っていたので、果敢と付んでいたところ、その内の一組のカップルが小生の目の前でいきなり立ち止まって交尾を始めたのである。あまりの

迫力にビックリしたのだが、雌鹿が小生に気づいて逃げ出した……上に乗っていた雄鹿は最初、何事かとキョトンとしていたが、小生に気づくなり、脱兎のごとく走り去っていった。あんな経験は最初で最後である。

当初の予定では、10000前後のコンター通りにずつとトラバースするつもりでいたが、意志薄弱な自分は上へ上へと行つてしまふ。真ノ谷のテント場へ落ちる大きなガレ谷にも出合わず、テールランドにのりそうになつたので、おそらく奥ノ平ピークの手前だろうと思うが、ガスっていて何も見えない。コンパスをチェックすると248度へ登っているようだが、テールランドにのつてからは240度に進む。足元をマムシが走つてゆき、すぐに別のマムシが岩陰から飛び出してきたのはビックリ。

8時1分、ガスの中からホワッと大木が現れた。見覚えのある奥ノ平ピークの木である。名前はわからない、トホホ。高度計を12355から

12400に修正する。

とりあえず、1194ピークへ行くこうとコンパスを142度に合わせるが、自分の頭の中で描いていた方向と180度違うのにビックリ……もう一度、地形図とコンパスをきちんと合わせ直す。やはり小生よりコンパスの指し示す方向が正しいようだ。以前はよくコンパスが壊れたと思つて、自分の信じる方向へ進み、何度も迷つたことがある。自分の方向感覚を打ち消して、コンパスを信じるというのは実に難しいことである。今回もコンパスを胸の前に置いて忠実に142度へ歩いたのだが、その間ズツとこれで大丈夫なのだろうかともモヤモヤしていた。しかし、コンパスに忠実に歩いたおかげで、8時24分、無事1194ピークに到着した。

ここからは、久しぶりに土倉岳へ行くこうと、コンパスを215度に合わせるのだが、2万5千の地形図がちょうど「竊立」「竜ヶ岳」の二枚にまたがるので非常に合わせづらい。

以前の奥ノ平はササが2位位あつて、晴れた日でも周囲が全く見え、コンパスは必需品であつたが、最近ではササが枯れてきて、天気が良ければ遠くまで見渡せるので、コンパス無しでも入ることが可能になった。これはこれで楽なのだが、あまりにもつまらない。きょうのようにガスつていないと心がワクワクしてこないのである。これからはガスっている日を御池日和と呼ぶ!

コンパスを胸に掲げてリングワンディングをおこなさないように、常に215度を確認しながら歩き、8時49分、テールランド南西端に到着。このあたりかはわからないが、とりあえず斜面を下りにする。しばらくすると何となく土倉岳への吊尾根と雰囲気が違うように感じたが、気にせずそのままくだり、10755で明瞭な尾根となつてしまった。ガスが切れてきたので目の前を見ると、天狗堂が見えた。そして、右を見ると何と、T字尾根が無い!……左には吊尾根に続

く土倉岳がどっしりと鎮座しているではないか!……アホ、何てアホなんだ……こんなことでは恥ずかしくて新ハに投稿できないではないか……。ということは、ここがT字尾根である。まあ、小生はこんなものです(ガックリ)。しいて言い訳するとすれば、いくらコンパスをきちんと合わせても、水平偏差まではわからないのと、小生は無意識に右へ右へ行こうとするタイプのように、奥ノ平を横断する間に、土倉岳へのルートから右の方へずれてしまひ、T字尾根に入ってしまったようだ。これがコンパスを全く見ないで歩くと、自分ではまっすぐ歩いているつもりでも、ぐるぐるとリングワンディングをおこなしてしまうのである。

この土倉岳の読み方は、西尾寿一氏の「鈴鹿の山と谷」では「はせくらだけ」となっているが、鈴鹿の絵地図で有名な奥村光信氏は「つちくらだけ」と呼ばれている。

とりあえず、10330位位から右(北西)へ御池岳南西斜面の急崖をトラ

パスすることに。1050mで谷芯に着くと、もう清水が流れたしている。このあたりは薄暗く、かなりの急斜面で垂直の岩壁もあり、登ったりくだったりして、次の沢にたどり着くと、五頭の鹿が小生に驚いて斜面を駆け下りていった。鹿の濃厚な臭いを嗅ぎながら、沢水を手にすくって飲む。うまい、もう一杯……結局お腹がガバガバになるまで飲んでしまった。

そのまま、また次の沢まで進んだのだが、何だか疲れてしまつて、ここを登って帰ることにする。本当は丸池の下まで行きたかったのだが（何たる意志薄弱者！）。

周りの雰囲気から、すでにボタン岩を通り過ぎたようなのだが、この谷は苔のない白い岩がゴロゴロしているの注意しなくてはならない。

9時23分、950mからガレ谷を登り始める。慎重に登っていたつもりなのだが、1020m程で50位の石に左足を乗せた途端、グラッと動き、ハッとして他の三点で体を支える。振り返

ると、ガラガラと石が飛びながら落ちていき大岩にぶつかり、パーンと破裂音がすると同時にバラバラと砕け散つた。「お、怖……」、結局左手の尾根に逃げて、心を落ち着かせるためザックを降ろして休憩。オニギリを二つ食べ

9時52分、尾根をまっすぐ登ると、1040mで岩壁に突き当たつてしまったので、獣道をたどつて左へトラパスする。苔むした岩の間からマムシが現れた。これできょうは三匹目である。そのまま左にガレ谷を見ながら灌木のなかを登って11時2分、テールランドに這い上がる。ちょうど、幸助の池とボタンブチの間であった。

雲は多かつたが、青空も出てきて、朝と違つてとても良い天気となつた。11時5分、ボタンブチに到着。いつもならこの時間帯のボタンブチは大勢の登山者が豪勢に宴会を開いているのだが、きょうは朝方に天候が悪かつたためか、ひとりもいない。もつともこのクソ暑いヒルの多いこの時期には誰

も来ないかも知れない。そのまますぐに天狗の鼻をかすめて風池へ向かう。11時23分、御池袖人氏の発見された風池に到着。今でこそ簡単に来られるが、当時はどうしようもないほど頭にくる深いササおぶで、それを漕いで、この池を発見された袖人氏には本当に頭が下がる。小生のような凡人にはとても真似できない。

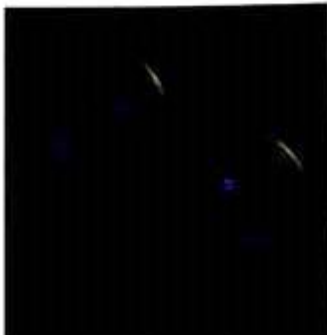
池といえば、誰にも場所を知らされていなかった、御池池守氏の発見された日本庭園の池というのがあった。池守氏は、数ある池の中でひとつくらい、場所を伏せておいて自分で探すのも夢があつてよいではないか、ということだったのだが、NHKの登山番組のテキストに、この日本庭園の池が地図入りで発表されてしまった。この御池岳も登山者が増えるにつれて、だんだんと発見者の意志が尊重されなくなつてきているようで、何となく割り切れないものがある。

天気も見晴らしも良く、ササも膝かせいせい腰までしかないの、見当

をつけて歩き出す。尾根を一つ越えて、次の尾根にはのらずに斜めにトラパスしてくだり、11時47分、中池に着いた。その間に、鹿一頭、次に四頭（三頭は雌）、そして六頭（雄、雌）、九頭、二頭と五回も遭遇した。「うーん、余は満足じゃ」とニコニコ。

中池からはウリハダカエアの池やサワグルミの池には寄らず、まっすぐ南池へ行く。この池は小生の好きな池なのだが、きょうは写真も撮らず、左下に見やりながら通り過ぎ、12時2分、真ノ池にたどり着く。

そう、きょうのもう一つの目的は、



カリガネソウ

アケボノソウやカリガネソウの確認。昨年はアケボノソウが信じられぬほどに少なかつたので今年はいくつかも……と期待していたのだが、全く無い。ガツカリ。しかし、カリガネソウは咲いているのは少ないが、花芽がたくさん付いており、期待してよさそうである。しかし、この臭い（決して香りではない）だけは何かかならないものだろうか。

10分程、写真を撮つてから歩き出し、昭和32年4月29日、ここで疲労凍死した井上稔君の墓にお参りする。このあたりを通る時には安全山行を祈願するために必ず寄るのだが、4月29日に鈴鹿で凍死？と思われる人が多いと思うが、それが山の現実なのである（しかもテントの中で）。鈴鹿なんてとけつして安易に考えてはならない。何年前かにこの井上稔君のお姉さんという方が来られていた。70歳前後だと思われるが、お参りはこれが最後だろうとのことだった。

もうそろそろ時間だし、どこから下

山しようかと考えながら、とりあえず1182mピーク（鈴北岳と呼ばれているが、小生には山名を付けるほどの山容ではないと思われるのだが）の東にある異境稜線の鞍部に行く。そのまま鞍部を乗越し、40度の方向に谷を下りる。この谷は鞍掛峠へくだる途中からタテ谷へ入る登山道より、はるかに楽で早い。1065m、1050m、1015mに炭焼き窯跡があり、雌鹿一頭と出会う。995mにも左岸に窯跡、975mで左岸に住居跡があり、その両側に窯跡が並んでいる。

しばらくして、1182mピークから鞍掛峠への尾根にある1056mピークから下りているタテ谷左岸尾根にのる。この尾根はこのあたりで二重山稜になっており、その間にキハダの池がある。尾根ののつてしばらく下ると左下に池が現れた。しかし、この池は池と呼ぶのはチョッとおこがましい気もするのだが、山田明男氏や近藤郁夫氏は池だと定義されておられる。さらに二重山後のもう一つの尾根に

のり、反対側斜面を50度へまっすぐに下りる。この広い急斜面はすぐに谷になるが、鞍掛峠とタテ谷の間にある二本の谷の東側になり、小生は小竜の谷と呼んでいる。この二本の谷ではタテ谷が一応登山ルートとしてガイドブックで紹介されているが、下部は危険なのでコグルミ谷へ抜けるようになってくる。タテ谷下部は三点確保が確実にできること、浮石・落石が多いので細心の注意を払う必要がある。小竜の谷や最上部のはずかしの水の谷もタテ谷同様気をつけたい。

12時53分、斜面をくだり始める。体を横にして転倒に気をつけながら下り、スピードが出始めると灌木につかまる。900辺でテンが左下方に走り去っていった。この斜面はけっこう幅が広く、下に向かって右の方は二次林で途中に尾根があり、左手は810辺から植林帯となる。きょうはその植林帯の方へ下りて行く。そして植林帯が始まる所に炭焼き窯跡がある。

跡がある。なぜかこの窯跡だけは、今日も立派な池になっていたが、毎年いるモリアオガエルのオタマジャクシは見かけず、アメンボウだけがのんびりと泳いでいた。

そして、この窯跡の下に出来た深い掘割の中に堅穴がある。以前は穴が二つ並んでいて、かなり深くて底が見えず、お互いの穴は中でもつながないようにだった。しかし今は右の穴は塞がっていて、左は30×60センチの穴がハッキリと空いている。御池岳ではテールランドや斜面などにも、穴が出来たり塞がったりしている所があり、落ちると危険なので登山道を外す場合は気をつけねばならない。潜って調査された人によれば、15辺から40辺もの深さの堅穴もあるそうだ。我々の仲間内ではもし穴に落ちたら、一週間に一度アンパンを投げ入れる約束になっている（おお、何となく仲間で愛であるうか、ウルウル……）。

うっかり穴に落ちるといけないので、早々に退散するが、目の前を今回最後

の鹿が横切っていた。

605辺で最後の窯跡を通過してやせ尾根末端上に立つ。左右両側に堰堤があるので、今回は右手の大きな堰堤から下りることにする。斜面を灌木につかまりながら慎重に下りる。ここで滑落して骨折でもしたら、みんなの笑いものになってしまう。

13時39分、車道に軟着陸。きょう一日、楽しく過ごさせていただけだ御池岳に感謝しつつ13時57分、駐車場に帰還、ホッ。

（平成18年8月20日歩く）

△地形図V2万5千11線立・竜ヶ岳
場13・57

△参考タイム▽
コグルミ谷駐車場4・37―天ガ平6・15―ツメタミズ6・39―奥ノ平8・01―1194辺ピーク8・24―ポタンブチ11・05―風池11・23―中池11・47―真ノ池12・02―県境稜線の鞍部12・19―キハタの池12・44―コグルミ谷駐車場13・57

紀行

浅間信仰の山を歩く 2

ほんごうせんげん 本郷浅間山・佐原浅間山

さわらせんげん 南勢

藪木 伸人

本誌97号で南勢志摩の浅間山を紹介したので、今回は同じ南勢でも山間部の宮川中流域の浅間山を紹介したい。

松阪市街地から国道42号を南下すること約40分で、宮川左岸に開けた栃原に至る。茶畑が美しく広がる本郷地区の東に、特徴ある乳房形の山が望める。これが2万5千圓に表記のある栃原の浅間山（本郷浅間山、316辺）である。北に立つ三角点峰との鞍部は千郷峠。峠の東西に位置する千代・本郷両地区を結んでいるゆえの命名だろう。地形図の破線を見て、07年夏、この古道をたどったが途中で迷い、峠道でない所を登降して帰ってきた。このことをまず記しておこう。

小橋池に面した子ども王国の駐車場に車を置き、未舗装の車道をゆるゆると上る。路傍にはオートコエシ・シユウブンソウ・ヤブタバコ・ガククビソウ・キンミズヒキ、谷にはイワタバコも咲いていた。車の入らない小道となった後は、やたらに赤布やテープの付けられた山道を登って行く。ところが、古道らしさは全く感じられず、しかも目的の時よりもどんどん北寄りに向かっていることに気づく。

ともかく稜線まで上がれば何とかかなるだろうと思いい、もはや道も無い斜面を登って稜線に出た。左が三角点峰の方向と判断しつつも、右に行ってみる。5分後、急な下り坂を見て、これを見たら所が千郷峠と確信するが、三角点を見ておきたくなり、引き返す。

10分後、三角点峰（点名、栃原）に着。木々の間から薫る茶畑や人家が見える。キアゲハの舞う姿に心和む。少し休んでから、やはり千郷峠のことが気になり、10分かかって峠に下りた。この時は標示も無く、少し西にく



佐原浅間山山頂の浅間社

この日は所用があり、どうしても16時頃までに帰宅しなくてはならなかった。峠道をすぐにとって返し、未知の水神山を目指した。

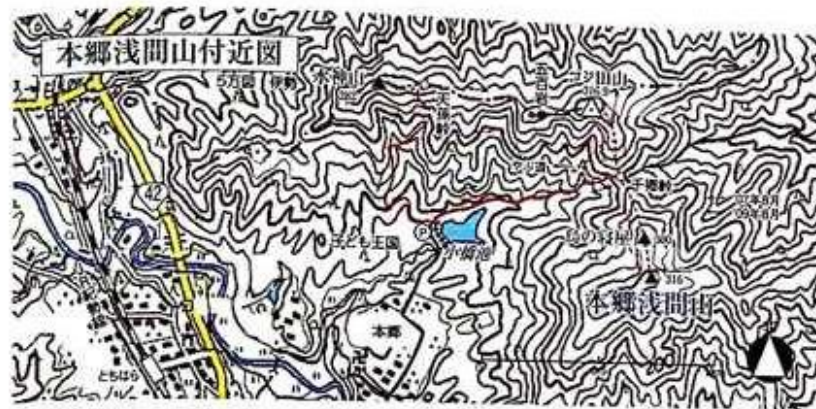
池畔から車道終点まで休まずに上る。10分で駐車可能なオフロード終点に達し、やれやれやっという感じで山道に入った。苦むしたよい雰囲気

の古道が復旧したことをインターネットで知った(08年春)。三角点峰はコン山と呼ばれる、近くに水神山という所があることもわかったため、ぜひもう一度行ってみたいとなり、今年1月に再び足を運んでみた。

前回と同じく池畔の駐車場から歩き出すと、すぐに「水神山/千郷峠」の標柱が目に入った。早足で8分進むと、より詳細な案内板が立てられている。千郷峠まで350m、峠から三角

点峰までは480m、峠から鳥の寝屋(300m峰)まで310m、そこから浅間山までは、さらに180mという行程が書かれている。どうやら、浅間山北の300m峰は「鳥の寝屋」と呼ばれているらしい。

この立て札から先、前回道を誤った地点があった。やはり右の沢に道標が付けられている。左にも道があるので、前回は、そちらに行ってしまったのだ。ここから今回は、わずか8分で千郷峠に登り着いた。途中、斜面に段を切り、丸木で土留めするなど、整備されていたからだ。整備前には全くわからなかった古道が、見事に復元されている。



駐車場から見た本郷浅間山



本郷三角点標で休むキアゲハ

その後、地元の手によって、千郷峠から30分かかって、沢沿いのそれと思える道に戻った。少しくだると(ca150m)で、峠に通じていそうな沢道がある。往きは、ここでテープに従って北寄りに登って行ったが、この沢道を登れば峠に至るのだらうとの思いを強くした。

だつてみたが、峠道は全く見つからなかった。このままわりやりにくだったも元の車道まで戻れるのではとも思ったが、やめておく。

せっかく来たのだから浅間山にも行ってみようという気になり、南へ向かう。途中で300m峰を越えて、千郷峠から約30分で浅間山山頂に着いた。残念ながら祠も何も無く、展望も良くなかったので、早々にくだる。

山頂から15分で千郷峠に戻り、再び西に古道を探すことも考えたが、やはり不安だったので、急坂を北に登り返す。記憶を頼りに汗だくになりながら、道無き斜面をくだる。足が滑って、二度も尻餅をついた。

山腹道だ。歩くこと6分、赤い木の鳥居が立つ右手に水神さんを祀った祠があり、水が溜まっていた。麓の様子が少し見える。鳥居に戻って左へさらに登ること4分で「天孫時」と書かれた石の置いてある稜線鞍部に出た。

ここから西にわずかの所が水神山(282m)だったのだが、そのことを知らなかったのが東に向かってしまっただけ。当然、行けども行けども水神山は出てこない。アップダウンを繰り返している。「十五柱池」「国東山」「天孫道修行」等のポイントが出てくる。この辺りでも国東山からの修行の道だったのだろうか。ずいぶんと離れているように思えたが。

このまま進めばコン田山(三角点)に着いてしまうのでは?と思いつつ上った所に「五百岩展望台」の文字が。右に進んでみると、「五百岩 306m」のプレートが下がっている。木の間から少しだけ池の水面が見えていた。時間を気にしながら、天孫時まで、10分で戻る。もうくだらうかと思つた

が、やっぱり心残りだったので西へ。すると、何とということか、あっけなく水神山に着いてしまった。

周囲の木が伐り払われていて、方々が望める。南は栃原地区から滝原浅間山・七洞岳、西には局ヶ岳、北には伊勢道、前村の大楠、シャープ多気工場、神山、伊勢湾まで視界に入り、疲れも吹き飛んだ。

急いで写真を撮った後、ほとんど小走りである。10分で車に戻りひと安心。15時10分だった。

さて、この日は、先に佐原浅間山に登っていた。2万5千圓の名称にもなっている佐原は、栃原からさらに車で20分南下した、大台町の中心地、三瀬谷にある。佐原浅間山は、JR三瀬谷駅の約500m以西、龍雲寺の裏山に当たる。寺に車を止め、取り付きを探すと、墓を横切った先にそれらしい所が見つかった。

わかりやすい尾根道で、6分程登って山頂に着いた。立派な青竹がヤマモ

モの木に括り付けられ、ここでは浅間神事が存続していることを示していた。小さな浅間社に、様々な供物もそなえられていた。一つだけあった登頂プレートには「佐原城跡」と記されている。

山頂からの展望は無かったが、寺の上からは、広く三瀬谷の街並が見渡せ、宮川対岸に船木浅間山(本誌96号参照)、その奥に滝原浅間山も重なって望めた。

(平成19年8月27日、平成21年1月17日)

《コースタイム》

(本郷浅間山)●本郷子ども王国(20分)千郷峠(10分)コン田山三角点●千郷峠(30分)本郷浅間山(15分)千郷峠(15分)子ども王国(20分)天孫時(15分)五百岩●天孫峠(2分)水神山(12分)子ども王国
(佐原浅間山)龍雲寺(15分)佐原浅間山(10分)龍雲寺
△地形図V
2万5千円国東山・伊勢佐原

平良谷林道から柳谷橋・思子淵神社まで イチゴ谷山以南尾根縦走

小山 誠次

京都北山

筆者はこれまでこの山域にはあまり馴染みがなかった。ずっと前に、桑原から丹波越を経て経ヶ岳まで南下し、折り返して三国岳へ戻り、保谷林道から古屋に下山したことがある。

9月14日には、平良谷林道から平良北谷を経て経ヶ岳に登り、南下してP909で南方の景色を楽しみ、ミゴ越から平良谷林道にくだった。そのときに、次はP909以南を縦走してみようと決意を固めた。

しかし、その後の休日は雨に降られ、墓参りの都合や風邪にも思わされ、ようやく20日ぶりの山行となった。

幸いにも前夜の天気予報では、滋賀県全域で南東の風、晴れ時々曇り、18時から6時間ごとの降水確率はいずれも10%、彦根の最高/最低気温は24/15℃、大津では25/15℃だった。当日朝は降水確率が10/0%とさらに改善し、近畿地方全域でも0/10%の晴れの予報となった。

出町柳で7時45分発朽木学校前行きの京都バスを待っていると、先の明王谷林道を同行したKTさんと顔を合わせた。本日、彼女は「桑ノ橋から登り、蛇谷ヶ峰以南を目指す予定」と言う。本日は予報通りの晴天で、出町柳では雲もほとんど浮かんでいないが、何となく薄っすらと白いベールの巻層雲で蓋われているようだ。飛行機雲は発生していない。

高野川べりにはコスモスとキバナコスモスが満開で、ヒガンバナは最盛期を過ぎたようである。本日は川べりの草がきれいに刈り取られていて、9月14日には北山通り近くで草を食んでいる二頭の野生の鹿を見かけたが、もう

紀行



(写真2) 疎林帯の中に続く踏跡



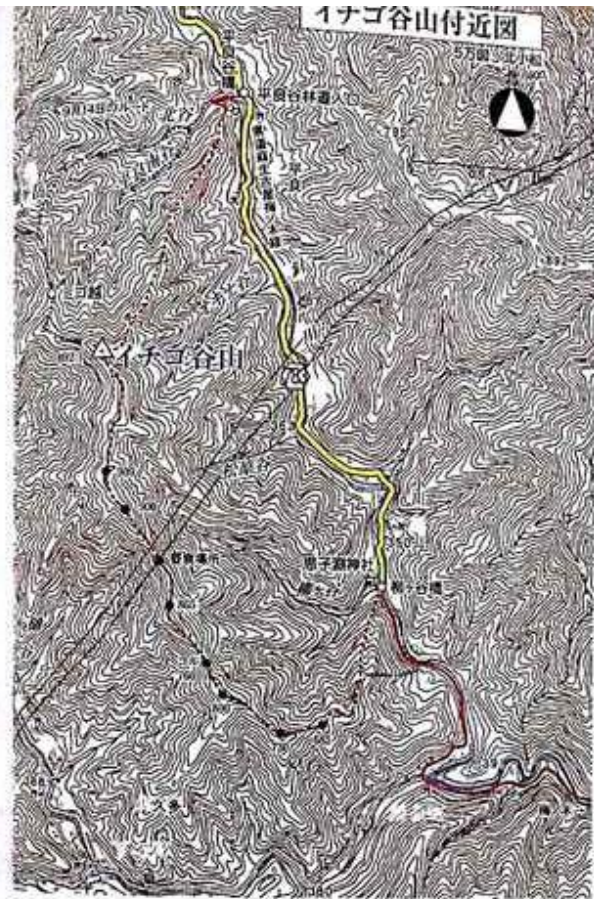
(写真1) 左後方への道と取付点

10時42分に六つ目のピークを踏んだが、馬の背状のピークであった。すると、目の前でキジが驚いたように飛び立った。その後も近くでバサバサと羽音を立てているので、元の場所あたりに巣でもあるのかと少し探したが、発見できなかった。



(写真3) イチゴ谷山

イチゴ谷山(892.1m)に到着した(写真3)。当初は11時30分までに到着すればと考えていたが、現在は10時55分。望外である。ここでゆっくりと飲水休憩をとる。本日の山行では誰にも熊にも出会わない予定である。一昨日、高島警察署に登山届をファックスしたところ、きのう、わざわざ電話を頂戴し、「今年はい



居場所もなく、北方に帰ってしまったのであろう。葛川梅ノ木には6分遅れの8時52分に到着。ここでお互いの安全を折ってKTさんと別れた。平良方面への高島市営バスは8時52分に梅ノ木に到着することになってい

るが、本日は幸いなことに5分遅れの57分に来た。客は私ひとりというなかで、降車地点を運転手に告げた。小川あたりで左手上方を眺める。予定では、尾根上に見える送電線鉄塔が本日の昼食場所となろう。9時16分、平良集会所を少し過ぎた

平良谷林道入口でバスを停めてもらう。ミゴ越登山口との表示があり、平良谷橋を渡り、しばらくで左後方への道が分岐する。ここが本日のイチゴ谷山北北東尾根の取付点である(写真1)。標高380m。9時30分、登山準備を整えて一歩を踏み出す。下草が茂っていて取り付きにくい。しかしながら、すぐに石垣に囲まれた昔の炭焼き窯跡の横を通って、尾根末端部に到達する。ここからしばらくは針葉樹を中心とした疎林帯のやぶ漕ぎである。

12分後に何となく踏跡がありそうだなと感じていると、3分後に最初のピークに到達した。ここでちよっと周囲を観察すると、マリーキングがあり、さらに踏跡をたどると、9時56分にだっ広く、木々もいっそう疎らな場所にやって来た。ここからはわずかに針畑川沿いの民家が眺められる。すぐに出発したが、まだ急坂はなく、疎林帯のなかに踏跡が続いている(写真2)。5分後には二つ目のピークを



(写真4) 南西方向の送電線と鉄塔

と考えると、引き返すタイムリミットを想定していた。帰りのバス時刻からすれば、13時が限界だった。したがって、ここからは何としても無事にたどり着くしかない。幸いにも、黄色地に黒色のマーキングがよく目立つが、それはあくまで筆者が判断した進行方向をたどるヒントにすぎない。

P800からは109度にもまず向かい。徐々に140度まで南に振ることになる。ここではさほど明瞭でないコルを経てP730に達する。現在は13時19分。気を張りつめたなかで休憩をとる。周囲は10月というのにまだ秋色を呈していないし、爽涼感もない。今朝のテレビでは「八甲田山系で紅葉始まる」と放映していたぐらいだから、それは、三週間位先のことであろう。8分後に出発するが、ここからは80度方向に尾根をくだる。すると、すぐに尾根幅がだだっ広くなってきた。遠くに見える小高い丘を目標に歩く。ここにはヌク場もあり、周囲を歩いてみると、動物の足跡がはつきりと残っていた。

13時36分、P685に到達。どこが最も標高が高いのかわかりづらいくらいなのだっ広さである。ここからの尾根は逆S字状に屈曲しているが、しばらくは見通しが良いので迷うことはなさそう。最後はやや北方に向かった後、6度まで振った所で標高6000m、13時51分である。

ここまで、黄色地に黒色の阪神タイガース模様のマーキングにお世話になったが、筆者は柳ヶ谷南方尾根を末端部までたどる予定である。一方、先のマーキングは朽木溪流魚センターに案内すべく表示してあるので、このマーキングとは分かれ、予定通りの尾根をくだる。マーキングと離れるのは、初めての山域では勇気がいる。

すると今度はすぐに古いオレンジ色のマーキングに気づいた。やはり、このルートもよく歩かれていたのだらうか。地形図の通り、左手には何も無く、右手少し離れた所には尾根が平行している。したがって、予定通りである。多少の急坂はやむを得ない。覚悟のうえである。

かなりくだった頃、尾根はますますやせてきて、14時8分、最後の小さなピークを乗り越えた。しかし、様子が異なるのは、先ほどまでの何となくの踏跡が無いことだ。おそらく、この尾根上のルートとしては、途中から他に向かうのであろう。が、当初の予定通り、県道麻生古屋梅ノ木線に近接した

「ブナの実が不作なので、熊に御用心!」と忠告された。それで本日は、熊除けの鈴に加えて、時々「オーイー」と叫びながら歩くことにした。また、シバグリの穂はすでに落下しているものの、実はあまり見当たらない。

13分の休憩後、南方に向かって少々急坂をくだることになるが、15分後には同程度の広さのピークに達した。頂上からは南東方向に下山路が切り拓かれていた。このルートは筆者にとっては未体験である。そのまま通過すると、2分後にも小さなピークを越え、枯れたクマザサのなかに細い踏跡が続く。間もなく前方に堤防状に隆起したP909が展開してきた。ここからは南東方向への眺望がすばらしい。

経ヶ岳以南の好景場所としては、ミゴ越での西方向、P909での南東方向、これから向かう送電線鉄塔下での北東方向と南西方向くらいである。そのため、ここP909からは白倉岳連峰の向こうに武奈ヶ岳から蓬萊山、さらに右手遠方には花背峠のNTT核島

中継所の鉄塔もかろうじて確認できた。しかも、前方すぐ下方には、送電線が指数関数的曲線を力強く描いている。さて、ここからのルートは全く初めてである。相変わらず枯れたクマザサを踏みつけながら、P900を目標にやや平坦な尾根に続く踏跡をたどる。送電線鉄塔下までは大きな目標があるので、位置確認は容易だ。P900で左手下方に鉄塔を眺めながら、ここから下りの一本道となる。

途中、標高8500mでも小さなピークを確認し、そのまま下り道をたどると、いよいよ眼前に鉄塔が迫ってきた。標高8100mである。北東方向には送電線と鉄塔が連続し、針畑川東岸のP858の鉄塔も確認できる。

現在はちょうど12時。さらに南方の鉄塔に向かう途中、閃電の巡視路でよく見かける「火の用心」の看板には、「イチゴ谷山」と「ヒノタニ」と手書きされている。閃電の巡視路は樋ノ谷を通っているのであらう。間もなくもう一つ南の鉄塔下に達した。南西方向に続く

送電線と鉄塔ははるか桑谷山まで目で追うことができる(写真4)。現在は12時3分。ここで昼食をとることにする。実は、ここまではルートの的に難しくはない。これからが本番である。そのため、普段の山頂でのんびりと昼食を楽しむ気分とは異なり、改めて今後の注意点を確認するため、拡大コピーした地形図を凝視し、記入しておいた方位角度に基づいてイメージ・ウォーキングを怠らなかつた。

12時33分、出発である。とりあえずのP865までの登りは問題なく、やや平坦なピーク上を歩くあたりからはコンパスが主役になってくる。ピークの南端からは139度の方向に下りの尾根を確認し、それをたどることにするが、徐々に南に振られてゆく。

標高7600mのコルを確認すると、今度はP800までの登りである。むしろ、登りのほうが気が楽だ。その間もずっと「オーイー」の声を発しながら、13時2分にP800にやって来た。実は当初、道に迷うこともあり得る

後、約50分の急斜面を柳ヶ谷右岸まで下り立った。完全に末端部まで進むと崖になってしまっからだ。

14時18分、無事に県道に達し、柳ヶ谷橋を渡って、民家を一軒隔てた北隣の思子淵神社に参拝した。後は高島市営バスを待つだけであるが、それまでざっと3時間もあつた。

きょうは20日ぶりの登山だったので、まだ歩き足りない気分だ。そこで、梅ノ木まで約4・5kmの道のりを歩くことにした。県道といつても場所によっては野生動物が出現しても不思議ではないなと思つたり、ススキの原野にカメラを向けたり、針畑川の水量は久多川をはるかに凌ぐことがわかつたり、針畑大橋は筆者の持つ平成4年発行の地形図には載っていないし、橋の途中から川べりまで階段が設置されているのを発見したり、御殿山近くのイオウハゲを正面に見たりと、16時3分、梅ノ木に到着した。

京都バスの発車時刻にはまだ1時間以上あるので、さらに坊村まで約1・

8kmを歩くことにした。実は先ほどから左四股に肉刺の発症を自覚し、多少の痛みがあるが…… 普段、車窓からしか見えない景色をじっくり見るのもいいものだ。ゆっくりと歩いて16時30分、坊村に到着した。

熱さの残っている湯でホットコーヒーをつくり、おにぎりを一つ食べて、本日の達成感に酔いしれながら、17時21分発のバスで出町柳に戻った。

最後に、本日の山行詩情を七言絶句に託して詠んだ。

平良谷奥蕩塵縁
人迹南行乘頂辺
慎慮探窮何処是
未知秋色爽涼然

(意)
イチゴ谷山(ヘラ谷奥)は俗世の煩
いを落し除けてくれる。踏跡は南行し、
P909の頂辺の風景を楽しむ。さて、
今からは気を引き締めて探り窮めよう
とする。何れの方向の径が正しいのか
と。一方、秋の爽涼感の気配は未ださつ

ぱり感じられない。
(平成20年10月4日歩く)

△コースタイム▽

平良谷林道入口(1分)平良谷橋(2分)標高380mの取付点(15分)最初のピーク(8分)だだっ広い場所(5分)二つ目のピーク(3分)三つ目のピーク(2分)四つ目のピーク(7分)五つ目のピーク(27分)六つ目のピーク(13分)イチゴ谷山(15分)下山路のあるピーク(2分)小ピーク(8分)P909(8分)P900(3分)P850(10分)最初の鉄塔(3分)二つ目の鉄塔(7分)P865(22分)P800(17分)P730(9分)P685(15分)標高600mの柳ヶ谷南方尾根下山始点(15分)小ピーク(10分)柳ヶ谷橋(1分)思子淵神社(7分)床鍋橋(1時間13分)梅ノ木(27分)坊村バス停
△地形図・地図▽
2万5千1久多
昭文社『京都北山2』(1990年版)

紀行

中仙道トレイル③

伝西行塚(恵那市)

深萱立場本陣から大井宿

国井文男

東濃

ここは、いつしか恵那市である。三城時をくだって街中へ入り、左手の立派な案内板を見ながら深萱立場の茶屋本陣を左に折れる。今では国道418号となつていてひっきりなしに車が通る。国道の傍らに庚申塚と藤村高札場が建てられている。現代の喧騒と当時の古き時代を思い起こす風景とのアンバランスが時代の変化を表している。タイムマシーンでもあれば、江戸末期くらいに戻ってその変化を確かめたいくらいだ。

藤村高札場には原本を模写したらしく、比較的新しい二枚の札が付けられている。どうやら火付けの罰状とキリシタン征伐の知らせのようである。

伝西行塚



大湫宿と大井宿の間には、十三峠と七つの坂があり、長くてつらい行程だ。ここは、その中で貴重な間宿として栄えていた。しかし、既存の宿場町を擁護するためか、幕府の命により、宿場としては許されなかつたらしい。

標識がしっかりと設置されており、迷うことはない。国道を渡って標識に従い右に折れると、道は再び歴史街道に戻る。ゆるやかな傾斜を進むと、右手に佐倉宗五郎大明神がある。この佐倉宗五郎大明神の祠は各地にあり、度重なる重い年貢や徴兵、人夫としての借り出しなどの幕府の圧政に、打ち首



覚悟で敢然と立ち向かったのが佐倉宗五郎であり、その供養と農民の守り神として祠を立てて崇められてきた。左手には芭蕉句碑群の碑がある。三社灯笼を左へ100m程入り込んだ神明神社の参道にある。石碑群には山路きてなにやらゆかしすみれ草などの句が刻まれている。

民家を左手に見ながら歩を進めると、深萱の茶屋跡が立ち並ぶ。「うばが茶屋跡」(灰焼き餅茶屋)などというのがある。餅とは後日調べたところ、実際は「おやき」のようなものであったらしい。

石畳の「黒すこも坂」を上ると「はたん岩」と称する碑が建てられている。下を見るとなるほどポタンの花びら模様が見え、平たい岩に刻まれている。やがて「紅坂」を上がり切ると、四つ目の一里塚である「紅坂一里塚」に着く。左手に腰を掛ける岩があり、休憩するには格好の場所である。やはり両塚とも現存しており、貴重なものだ。今、何時なのかまったく気にならない

い。相変わず日差しは強いが、木立を揺るがすさわやかな風の音と小鳥のさえずりが、一服の清涼剤となって爽やかに心地よく耳に伝わってくる。田園風景が広がっており、こもも棚田になっている。大きな鉄塔があり、時代絵巻から現代に呼び戻される。

「平くい坂」をゆるやかにくだると、左手の少し入った所に「妻の神」という祠がある。説明書きも何もないのでわからないが、妻に感謝の意味もあるうかと手を合わせる。自称山屋は、後ろ髪を引かれながらも気ままで好き勝手に出かけているが、感謝もけっして忘れない。

「かくれ坂」をくだるとやがて四つ谷と呼ばれるのかな集落である。右手には地区の集会場をかねた「中山道四つ谷休憩所」があり、ベンチや椅子が行き交う人たちにやすらぎをあたえている。軒先には美濃十六宿場の浮世絵のレリーフが飾ってある。

集落を過ぎると、時代を思いおこさせるような風景に戻る。左手の碑には、

乱れ橋・乱れ坂とある。「乱れ橋」は江戸と京・大坂を月に三度往復する飛脚のために架けられたものである。しかも、当時有料であったとも記してある。「乱れ坂」とは、あまりにも急坂のため裾が乱れ、行列が乱れたり息が乱れたりすることから付いたとのことだが、実際はさほどでもない。周りは針葉樹・落葉樹が混在する雑木に覆われ、当時の面影を色濃く残している。

「乱れ坂」を登り切り、歩を進めると右手に「首なし地蔵」がある。碑には「二人連れの武士が地蔵の前で昼寝して目を覚ますと、一人が首を切られたがくつつかなかった」と書いてある。さらに進むと左手に上り口があり、

上ってみると「姫御殿跡」とある。説明書きがあり、皇室・公家などの高貴な方が休憩されたときの建屋があったらしい。江戸末期には皇室の降嫁は和宮の前にも十二代将軍家慶に嫁いだ

宮。その妹で九代目水戸藩主斉昭に嫁いだ吉子女王など数多くある。当時、統治していた岩村藩は幕府の命により、皇女休憩のためにふさわしい御殿をつくらなければならなかったし、街道整備のための人夫の駄賃など、こうした重大行事の散財はかなりのものであったらしい。

やがて「榎ヶ根立場」の広場に出る。今でも立派な石の道標が残っており、京に向けて「右西京大坂 左伊勢名古屋」とある。当時は中仙道を「上街道」この道分をくだる名古屋街道を「下街道」(現国道19号)と呼ばれていた。また、ここに「伊勢神宮遷座所」があり、伊勢神宮に行くことができな人が手を合わせた所とのことである。名古屋方面に向かうにはかなり近道になったらしい。榎ヶ根立場茶屋跡には、開いの中に当時使われていた深い井戸があり、排水溝の名残もある。

歴史街道は一定の標高を保ちながら次の宿場大井へと進む。このあたりから周囲のロケーションとはまったく異

質の、瓦礫を崩すような音や鼻をツツと刺激する臭いがしてくる。やがて広い道路に出ると、左にセメント・アスファルトのプラント工場がある。この先は広い道路沿いを歩くことになる。頻りにダンブカーや薬品を積んだ車が入り込んでいる。車が通るたびに砂埃が舞い上がる。「水戸屋跡」の碑があるが、その傍らには車から投げ捨てられたと思われるごみが、散乱している。心のなかで「見て見ぬ振り」「今はどうしようもない」などと沈痛な思いである。これから逃れようと自然と早足で歩いている。道は右に入りひと息つけるかと思いきや、雑音と刺激臭は相変わらず私たちを追尾し襲ってくる。「辛いひとときでしたな」などと言いつつも、大井宿まで一里足らずまで来ている。

「西行の森・桜百選園」と銘打った大きな石碑がある。西行と桜とは深いかかわりがあり、歌に詠まれる花とは桜のことであり、その数は113首にものぼる。右手には野原が広がって

て市民の憩いの場として親しまれてい
る。さらにその向こうの下がった所に
は、中央高速道や並行する国道19号が
ある。

大井には西行という文字が頻りに
出てくる。平安末期の歌人、西行
(1118~1190)は旅の途中で数
多くの歌を残している。ここ大井の地、

「伝西行塚」には
待たれつる入相の鐘音すなり
あすもやあらば聞かむとすらむ

少し先には西行が硯の水を汲んだと
される「西行硯水公園」があり、歌碑
がある。

道の辺に清水流るる柳かけ

しばしとてこそ立ち留りつれ

西行

西行は大井宿で病に倒れ、ここで亡
くなったとされており、遺跡や庵跡も
あって、恵那市の貴重な文化財になっ
ている。すぐ先に、江戸から数えて
八十八番目で、ここにも両塚を完全に
残す「槇ヶ根一里塚」がある。休憩所・
トイレがあり、疲れをとるのに格好の

場所である。「西行坂」といわれる石
畳をくだると、左手に「伝西行塚」が
ある。眺望のすばらしい展望台があり、
その正面には大きく恵那山、少し左に
目を向ければ南木曾岳・越百山・南駒ヶ
岳など、中央アルプス南部の山々が折
り重なってそびえている。「伝西行塚」
は、「西行坂」(当時は「中野坂」と呼ば
れていた)を登り切った小高い丘にあ
り、五輪の塔がある。上る途中に芭蕉
の句碑があり

西行のわらじもかかれ松の露
とある。

西行終焉の地といえ、一般的には
大阪富田林の弘川寺が有力とされてい
るが、この終焉説は諸国にあり、その
数は10ヶ所を数えるという。ここ大井
の地においても稲荷山長国寺の開山で
ある體嚴雲翳がまとめたもので、慶長
十九年(1614)に記録された「長
国寺縁起」に遷化の様子が詳しく記載
されているという。さらに長国寺には
西行の木造があったが、戦国時代に兵
火にあつて寺と共に焼失したと記録さ

れている。西行は亡くなる直前に
願わくは花の下にて春死なむ
そのきさらぎの望月のころ

と詠んでいる。文治六年(1190)2
月16日に、かねてからお釈迦様が亡く
なられたその日に死にたいと願つてお
り、その通りになったのである。

いずれの説が本当なのかを問う気は
ない。前号に記述した大田南畝の「壬
戌紀行」に「右の山の上に桜の木あ
りて、西行の塚ありといふ。円位上人
(西行)は讃岐の善壽寺にて終わりをと
りぬときくに、ここにも塚ある事いか
がならん」と記している。まったく同
感である。(平成19年10月12日歩く)

《コースタイム》

深堂立場本陣跡(30分)中山道四ツ谷
休憩所(30分)槇ヶ根立場(20分)伝西
行塚(15分)西行硯水公園
△地形図V2万5千Ⅱ武並・恵那
△参考文献V
「中山道風の旅 落合―京都編(テレビ
埼玉・群馬テレビ編集、さきたま出版会)

研究

旗振り通信の新研究⑧

連載

旗振り通信・堂島米市の文献

どうじま

柴田昭彦

本誌98号で約束していた通り、新し
い情報が得られたので、数回に分けて、
報告することにした。

「旗振り通信と堂島米市の文献」

○多度山(桑名市)の北西にある「相
場振り跡地」である狐平山(海津市)に
ついては、本誌84号と「旗振り山(ナ
カニヤ出版、平成18年)で紹介してい
る。相場振り跡地」石碑(平成9年建之
の横に設置された説明板(下一色区・
海津市南濃町教育委員会)の出典が何な

のか気になっていた。

HP「養老の三角点」の写真集
(2008年5月)には、海津市歴史民
俗資料館へ問い合わせた結果が載せて
あり、「南濃町下一色のあゆみ」(木村
太郎編集・発行、平成元年)を参考にして
いることが判明した。筆者は、岐阜県
図書館から、その写しを入手すること
ができた。説明板の内容と若干、異な
る部分もあるが、次のような内容であ
る。

「こうした電報・電話の普及する以

「相場振り跡地」の碑(海津市)



前、手旗信号で、伝達することが行わ
れていた。

集落の西方狐平山の上に、標高約
340メートルの山頂があり、ここを
經由して、商品相場の動きを旗を振っ
て知らせる「相場振り」が行われてい
た。手旗信号の旗手をつとめたのは、
松山の田中才次郎(昭39・4・行年88歳)
や下一色の佐藤善七さん等で、山頂へ
のはると、望遠鏡で、桑名・新築(寺
町)から米の相場を受信し、今尾や赤
坂へ、手旗を振って発信した。望遠鏡
は、直径10センチメートル、長さ約1
メートル、3段延ばしのもので、重い
ので、肩にかつぎ、佐藤さん、田中さ

んが一日交替でつとめたという。手旗は、紅白のものを番号の振り方にそって左右上下に振り、数字を送信したという。田中さんの話では、昭和20年すぎの戦後まで続いたが、電報・電話の急速な普及により、消えていったという。(28-29頁)

同書の32-34頁には下一色の小字(万条・東條・道西・狐平)の解説がある。「狐平」については、インターネット情報で、狐平古墳を「きつねひら」と読んでいることから、本誌84号や「旗振り山」において「きつねひら」としておいたが、地元の人には「きつねだいら」と呼んでいることがわかる。狐平については「元は狐をよくみる山地ばかりであったが、平坦地に近いですその部分が、みかん畑等に開かれてきたため、地名がつけられたものとみられる」とある(同書33-34頁)。

同書29頁の写真に「相場振りの山 狐平山の上の松山小倉殿」という説明がつけられている。境地区は、狐平(西、山腹と下一色(東、平地)から構成

各地で旗振り通信が中止になったのは大正3-7年頃であり、大正8年以降は再現実験以外には全く行われていないので、「昭和20年すぎの戦後まで続いた」というのは、田中さんの記憶違いだろう。いずれにせよ、桑名米穀取引所は昭和6年12月で閉鎖されており、昭和7年以降の継続はありえない。○多度山三本杉に旗振り場があったことはよく知られている。HP「養老の三角点」の「柚井村(多度山)」(2004年12月29日)の記事に次のようにある。



三本杉の相場振り(桑名市多度町)
(多度山の山頂。倒れたまま放置されている)

されている。下一色地区の名前は地図には全く出てこないが、境地区と重なる。狐平古墳は「相場振り跡地」の東700mに位置している。「狐平」は、相場振り跡地の東側山腹一帯であり、領域は広い。その山体が狐平山であり、特定の山頂を指すわけではない。同じ山腹一帯が下一色山(同書8頁)とも呼ばれていると同様である。同書28頁には「狐平山の上」とあって、「松山小倉殿」の説明が全くないので、HP「養老の三角点」の管理者が指摘しているような「相場振りの山は狐平山ではなく松山小倉殿ではないか」を裏付けるには資料不足というほかはない。私見では、「狐平山の上」を「狐平山の山頂」と読みとって矛盾する点はないと考える。「松山小倉殿」が相場振りの地点(石碑のある場所)を表す可能性はあるとしても、谷を隔てた全く別のピークである場合、「狐平山の北西の松山小倉殿」といった表現をするのではないかと思う。「殿」には山頂の平坦地のイメージが感じられる。

「展望台にあった「三本杉の旗振り跡地説明板」は朽ちて捨てられているが、旧多度町のHPに「町の昔話 三本杉」のページがあった。高峰神社の右斜め後方3・40m付近にあった樹齢数百年の大木だったが、戦時中に枯死し、現在、裏にある三本杉は二代目のことだ。」

HP「養老の三角点」の管理者は、写真集(2008年4月)において、「多度山頂(三本杉)からも今尾・赤坂が見通せるので、なぜここ(相場振り跡地)で旗振りが行われたのか不思議だ」と述べるが、旗振り場が近接しているケースは他にも見られ、運営組織が異なっていたことが理由であろう。

○豊橋百科事典編集委員会編「豊橋百科事典(豊橋市文化市民部文化課発行、平成18年)の「米穀取引所(642頁)の項目には、次のような紹介文がある。「米相場の伝達は桑名から豊橋へ山から山へ手旗信号で送られ、望遠鏡で読みとる眼鏡師によって行われ、大阪相場は2分程で受信できたという。」

HP「養老の三角点」の管理者は、「相場振り跡地」石碑の地点(管理者は標高485mと読みとっている)の東450mの「315あたりが狐平山のような気がする」と考え、「標高340メートルの山頂は単純な標高の間違いだろうか」と書いて、石碑の場所が相場振りの地点ではない可能性を示唆している。とすると、「狐平山(315m独標)」の南西50mに位置する340m地点が相場振り地点(松山小倉殿)ということになる。ところが、この場所から北方の大垣市赤坂への通信は可能だが、桑名取引所へは尾根に遮られて通信できない。従って、中継点の条件を満たさないのである。やはり、標高は間違いと考えるのが妥当であろう。また、記念石碑を、本来の相場振り地点と異なる場所に設置することも考えにくい。重い望遠鏡を担いでの往復だったから、歩く時間は短くしたかったことだろうが、石碑の場所は「山頂」にふさわしく、旗振り通信に適している。

この記述の出典は「豊橋商工会議所五十年史(豊橋商工会議所、昭和18年)であり、「2分」は大阪からの所要時間では「20分」であろう(本誌91号参照)。或いは、一回分の受信に要した時間の意味では「2分程」のままで正しいと言える。説明不足なのだろう。

○池田末則編「奈良の地名由来辞典」(東京堂出版、平成20年)には、次のような項目の中に旗振り山の紹介がある(本誌61号参照)。

●「相場振り山」(162頁)の項目には、南畑の「相場振り山」、「送迎山(明神山)」、「高峰山」、笠間の「相場取り山」の記事、堂島・大津間の旗振り再現実験の話など。

●「送迎」(240-2頁)の項目には、王寺町の「明神山(西山)」が米相場の旗振り山であることを記載している。

●「南畑」(273頁)では、三郷町南畑の「ソバ(相場)フリ山」と、高安山の「ソバ振り山」を紹介している(本誌96号参照)。

○梅本弘「堂島の歴史―堂島界隈歴史

散歩―(大阪堂島ロータリークラブ20周年記念誌)―(大阪堂島ロータリークラブ発行平成19年)の表紙の図は、江戸時代から明治にかけての堂島米市の風景で、旗を振っているのはその日の相場をリレー式に遠方に知らせるための旗振り通信である。この図は、大阪歴史博物館(大阪市中央区)に展示されているパネルを同博物館の了解を得て写真に撮ったものである。本文の「堂島米市」にも同じパネル(米市・旗振り)や、堂島米穀取引所の建物の写真、旗振り通信の解説、茨木高原カンツリー倶楽部の玄関先に建てられている記念碑の写真がある。

○大阪歴史博物館は、大阪城公園にあった大阪市立博物館の資料・展示品を引き継いで、平成13年に開館したものである。次のような同館発行資料に、先述の「堂島米市・旗振り」のパネルの図が掲載されている。

- 「大阪歴史博物館 常設展示案内」(平成14年、第2版、56頁)
- 「展示の見所2 近世 浪花まちめ

ぐり 水部の景観を眺む①「積層ジオラマ」編(平成14年、61-7頁)

- 「巡って、感じて、考えよう わたしたちの大阪歴史博物館」(平成15年、12頁)
- 「なにわ 歴史探検 大阪歴史博物館の利用の手引き(中学生版)」(平成16年、18-19頁)

○「第129回特別展 商人の舞台―天下の台所・大阪―」(大阪市立博物館編集・発行、平成8年、18頁)には、「浪花百勝」より、「堂島の米市」と題して、旗振りの図が掲載されている。この絵図は、「二代長谷川貞信筆で、現在は、大阪歴史博物館に所蔵されている。櫓の上で白い旗を振り、横には黒い旗を置いている絵図である。」

○大阪城天守閣(大阪市経済局)編集「特別展 浪花百景―いま・むかし―」(大阪城天守閣特別事業委員会発行、平成7年、18頁)には、堂島米市場跡記念碑の写真と、「堂じま米市」の錦絵(浮世絵版画)が載せられている。安政年間(1854-60)頃、大阪の浮世絵師、

大野氏は、退職後の健康維持のために、巨樹探訪・旗振り山登り・近郊散歩などを始め、その記録を、洛中洛外虫の眼探訪「旗振り山に登る」の記として公開している。

HPの中の「旗振り山」という項目は、筆者の本からの引用が中心だが、京都・大津ルートを地形図・断面図で

歌川国貞(珠齋国貞)が描いたものである。この展覧会図録の堂島米市の解説に次のようにあるのは興味深い。「相場を混乱させないというとの配慮から、米相場の立会中は役人も市場を通行できず、犯罪人が逃げこんでも逮捕できなかった。」

○明治時代に発行された「大阪名所」の絵図に、大阪堂島の旗振りの様子を描いたものがあり、次の二種類が知られている。

- 「大阪名所 堂島市場・大阪府庁・大阪株式取引所」(明治38年、大阪市東区博労町・久栄館・伊勢本嘉三郎発行)
- 「朝日新聞号外1明治・大正」(CD-ROM(朝日新聞社、1998年)には、次の六枚に「堂島米相場」の記事が載っている。

- 第21號附録(明治12年2月21日)
- 第23號附録(明治12年2月25日)
- 第25號附録(明治12年2月26日)

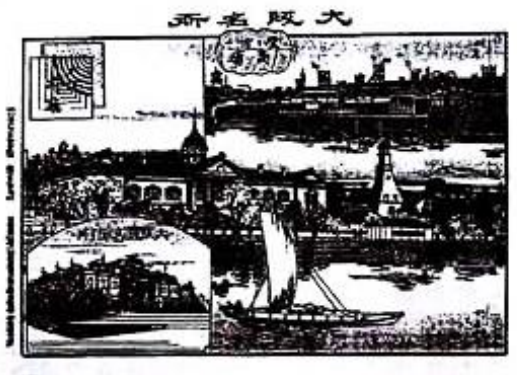
「今は高圧線が同じ所を横断して、若狭から大阪へ鉄塔を伝って電気が送られています。」

「信号の開始符号、誤り訂正符号、間違いを防ぐ合印、相方が間違っ先へ通信したときの訂正勧告符号なども取り決めてあったそうです。」

「こんな取り決めを細かく見ていくと、現代のインターネット通信のプロトコルの複雑なことが、頭に浮かびます。通信経路もいろいろあり、相互にネットワークが張り巡らされています。」

「こうなると、まさに現代のネットワーク間をつないだインターネット通信そのものです。」

○HPで閲覧できる「リージョン日経堂島 通巻第3号」(2006年9月)には「観光案内の堂島」で「堂島米市場跡記念碑」と「旗を使った目視型米価伝達網」の記事がある。次のような



秘境ヒンドウ・クシユの山と人

雁部貞夫著——バキスタン北西辺境を探る

菊判/四二頁/七一四〇円(普及本)

著者の四十数年にわたるヒンドウ・クシユ体験の結晶。一九六六年に日本人として初めてバキスタン、開米四十数年、約十五シーズンにわたり、谷、水河、水窟の峰、山々を歩き歩いた貴重な体験を語り明かす。写真・図版多数掲載。

伊吹山案内 登山と山麓ウオーキング

草川啓三著

A5判/一八四頁/一九九五円

意外に深い魅力をもつ伊吹山のすべてを紹介。百名山にも選ばれた花インパルの伊吹山。パリエーションに富む登山コース案内のほか、周辺の山々や山麓の花、石仏、湧水を訪ねる散歩道、また山で暮らした人々の足跡を辿る峠歩きなども紹介。カラー写真多数。

★表紙の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

<http://www.nakanishya.co.jp/>

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

tel 075-723-0111 〒606-8161

記載が見られる。

「情報到達の所要時間も京都まで10分以内、神戸まで5分以内、広島まで1時間以内だったと言われていますので、大袈裟でなく新幹線より速いのです。これ江戸時代の話ですよ。ペリーもびっくりじゃないですか。」
○ヤフー掲示板(2007年7月18日)に次のような記事があった。

「江戸時代のインターネット 旗振り山の名を聞いたのは、63年振りです。戦時中学徒動員で短い期間でしたが、軍の防空監視所で働いた時、江戸時代に大阪の米相場を、丘や山で旗を振り、遠隔通信した。監視所も旗を振り敵機の機種、数を、翼の基地に知ら

せる。と、教えられました。」

「思い起こせば戦時中の集団疎開地(岡山)では毎日宿舍の校庭で「手旗信号」の練習をさせられていたものです。小学生(国民学校生)なのに鉄砲かっいで練習もありました。」
○2ちゃんねる掲示板(2007年9月5日)に次のようなやりとりがあった。

「大阪の米の値段が30分くらいで広島に届いていたらいいとのこと、このときの情報伝達手段をこ存じだったら教えてください。大変興味があります。狼煙でしょうか？」
「当たらずとも遠からず。山のとっぺんで旗を振ってリレーしていったん

見えます。ここはとて見晴らしのよい場所、無線施設に最適地を選んでいるのは流石と思います。ここは(そば(相場)ふり山)または(旗振り山)といつて大正期に大阪堂島の米相場を大和に伝える中継地でした。旗を振るのを見に行ったという明治生まれの古老の話もききました。

施設の工事開始前、昭和63年奈良県平群町教育委員会により発掘されました。結果は近世後半期における煮炊きに使ったらしい焼土の穴が検出され、相場の中継地であった確証はないが、可能性は十分に考えられるということです。このことは古代から同様に高安山が河内と大和を結ぶ重要な山であることのひとつの要因です。」

本誌96号で紹介した資料では、「試掘調査が行われて、江戸後期の食器・鍋が発見されており、その頃に利用された旗振り中継所であったものと考えられている」という。

○平群町教育委員会編「平群町久安寺地区試掘調査報告書」(1988年)は、

大阪航空局の委託を受けて、昭和63年6-7月に実施された、関空の施設

(空の灯台)「航空保安無線施設(VOR/DME)生駒山サイト」候補地の試掘調査報告書である(調査・執筆は、平群町教委社会教育課技師・村社仁史)。関連事項を抜粋して掲げよう。

「昭和63年3月の踏査の結果、遺物は採集されなかったが、丘陵の最高所に高まりがあり、この西側がやや平坦になっており、なんらかの遺構の存在が予想された。また、この丘陵は生駒山地の稜線上にあり、東西への眺望も良く、大阪の米相場の伝達中継地として旗を振ったソバフリ山(相場振り山)にもなっていた。」

「また、大正期に大阪北浜の米相場を大和に伝える中継地として旗を振ったことが知られ、年配の方が旗を振るのを見にいったことがあると言っている。」

調査対象地の丘陵は南北方向に細長く、東よりに海拔446.5mの最高峰がある。北側から西側裾にかけて信

だね。「旗振り山」という。
「ありがとうございます。旗振り山をめぐって、いろいろわかりました。」
旗振り通信で大阪から広島まで27分の記録が残り、40分足らずであったともいう(「旗振り山」8-9頁参照)。
○HPで閲覧できる「いーわ 河内の風」(27号、環境アニメイテッドやお広報委員会、2007年9月(6頁))には「スキです。高安山」の第4回連載として、「そばふり山(旗振り山)」の記事がある。次の通りである。

「高安山の稜線をこらんくください。レーダーと水谷地蔵さんとのまん中ぐらいに関空の無線施設「航空保安無線施設(VOR/DME)生駒山サイト」が

貴生駒スカイラインが通り、山裾が削られている。以前の山火事で樹木は焼失しており、一部に灌木が茂るほかは篠竹が繁っているだけである。丘陵上は特に地形は変わっておらず、最高所付近に小さな塚状の高まりがある。」

「塚状の高まりは南北約5m、東西3mの楕円形で、高さは西側で0.8m、東側は丘陵斜面につながっており谷へ下っている。」
「塚状高まりのすぐ西側で炭、焼土を含む灰色砂質粘土の落ち込みを検出し、埋土内より陶磁器片が出土した。(中略)この落ち込みの壁面、床面が焼け締まっており炭片も含まれることから、長期間焚火等をしてきたことが考えられる。」

出土遺物は染付茶碗と陶質の土釜等で、食器及び煮炊きに使用したとみられる。染付茶碗1点が完形で接合できる他はすべて破片となっており部分的にしかり埋まっていなかった。」

「以上のように出土遺物は、食器及び鍋の類である。そして、鍋類には外

面下半にススの付着がみられ、煮炊き
に使用されたことが伺える。これらの
ことから、出土遺物は丘陵上で使用さ
れた後、投棄されたのではないだろう
か。

遺物の時期としては、1（乗付のあ
る陶器茶碗）・6（取っ手の2つ付く急
須とみられる陶器）がやや古い様相を示
しているが全体的には江戸時代後半期
の範疇に含まれると考えてよいであ
ろう。

「この結果、古代の高安城関連の遺
構は確認されなかったが、丘陵最高所
に設定したAトレンチにおいて近世後
半期における煮炊き等に使用したとみ
られる焼土塊を検出し、出土遺物の傾
向から現地での炊飯を考えることが出
来た。つまり、丘陵上での人の滞在が
推測出来たのである。

この遺構については何の伝承もなく、
時期が近世後半期であることから大正
時代の大阪北浜の米相場の伝達と直接
結び付けるには無理がある。又、他の
トレンチでは顕著な遺構は見られず、

小規模な施設にとどまるようである。
しかし、焼土塊の立地からして、何ら
かの情報の連絡中継地として丘陵上が
利用されたことは十分に考えられると
ころである。

このことから、近世から近代にかけ
ての情報の連絡地点が、今後、航空機
への電波情報の発信地として再び利用
されることになるわけである。同じ地
点が継続的に使用された証明ともなり、
遺構としては確認されなかったものの、
古代においても重要視されなかったと
は決められないように思えるのであ
る。」

○インターネットで読むことができる、
横尾広光氏（西はりま天文台SETI研
究会）の「暗号解説について」（2007・
11・3）というレポートに「日本では堂
島米相場を速報するために岩崎善兵衛
製望遠鏡と手旗信号のネットワークが
江戸・明治時代にあった」とあるが本
当だろうか？

「モノ語り日本史 歴史のかたち」
（淡交社、平成17年）の記事では、善兵衛

の望遠鏡が旗振りに用いられたように
も読みとれる。

備前市に残る旗振り通信の望遠鏡
の一つは和製でよく似ているが、模様
は善兵衛製に特有のものとは異なる。
旗振り通信に用いた望遠鏡の大半は舶
来品でフランス製やドイツ製である。
善兵衛製の望遠鏡は天体観測・測量用
の注文が多く、旗振り通信で用いら
れたかどうかは全く不明である。

○「ヤブー」掲示板（平成21年1月
4日）に、外国山（岡山県和気町本、
258m）が旗振り山だったという書
き込みがあったので、投稿者に尋ねる
と、西大平山（旗振り場）と勘違いし
たとのことで、間違いであった。

インターネット情報は玉石混濁、注
意が必要という思いを新たにされた。
（つづく）

（平成21年1月1日成稿）
（平成21年1月19日追加）

紀行

三角点を訪ねて

⑤9

ブナ林が続く

連載 点名「大日」から近江坂

磯部 純

若狭

大日は、三十三間山の北、福井・滋賀の県境にあり、滋賀県の最
西北に位置する三角点峰である。

以前、この山に確たる山名は無く、能登郷の頭とも小御影岳とも
呼ばれていたが、この山に埋められている三角点の点名が「大日」
であることから、最近になって大日・大日岳と呼ばれるようになった。
大日山頂は、大御影山から西へ連なる山々の尾根先端の盛り上が
りにすぎず、三角点が無ければ、山名は付けられなかったに違いない。
この県境尾根には古道の近江坂が通っていて、数少ない情緒豊かな
ブナ林が残っており、三角点「大日」はこれまで踏んだことがな
く、一度は訪れたいと思っていた。

三角点、点名「大日」



この山へはピストンではおもしろ味
に欠ける。ちよと、高島リーターの
新ハイ例会で、松屋から大御影山へ登
る新ルート歩いたと聞いて、その
ルートを利用すれば、大日から大御影
山へのブナ林を歩き、周回できると考
えた。

当初、決行日を7月13日としたが、
降水確率が90%で中止した。天気安定
する秋に延期するつもりだったが、
台風一過の18日は晴れとの週間予報で、

7月に入つて雨の日が多く、山へ行けずイライラの物集女の夫人から強い後押しもあり、4月の遠く、5月の小栗と続き、若狭のこの山へ18日に行こうと急きよ決めた。

坊村の西広場へ7時30分の集合。車を運転する大兄、物集女の彼、守山の彼3人には「7月18日に大日を行く」と連絡し、参加者の勧誘は運転者に一任したが、驚いたことに坊村に集まったのは、新ハイ山行でいつも顔を合わせる人たちばかりで15人にもなった。再び体調を崩したのではないかと心配していた吹田の彼女も参加してくれ、2月のお菊山以来に元気な顔を見てひと安心。簡単にルート説明をして7時35分、美浜町松屋へ向けて出発する。

朽木から保坂へ出て、道の駅「若狭熊川宿」で休憩した後、国道27号を北上、美浜で右折して南へ走る。坊村では雲は高く天候回復の兆しがあったが、北へ来るほど雨雲が低くなり、小雨がバラついてきた。いつも左に庄部谷山

右手に雲谷山が見えるはずなのに雲に覆われ、それらの山姿は全く見られない。最奥の「新庄溪流の里」のある松屋で橋を渡り、右の林道に入つて能登又谷沿いの道を行くと、大日開拓地へ向かう林道分岐に着き、車を置く。到着は9時5分。予報と違つて、いまだに細かい雨が降っている。

9時25分、雨装備を万全にして出発。長靴姿がふたりおり、濡れると思つて雨具の下にズボン履かない人も何人かいた。まずは大日開拓地へ向かう林道を北へ歩く。道脇にはガマズミの実が赤く色づき、リョウブの花も初めて見る。ワイワイと話しながら行くと、林道前方にいた二頭の鹿が話し声に驚いたのか逃げてゆく。15分も林の花を見ながら行くと、送電線巡視路のある北谷の入口、大日登山口に着いた。

物集女の彼に先頭をお願いし、岩谷沿いの道を登って行く。私は写真を撮りながら歩きたかったのと、歩いたルートを確認しながら歩きたかったので最後尾を受け持つ。谷は灌木の緑が豊かで、この

へ出た。どうみても、地形図にある破線の道や、西近江と若狭の山歩きマップのルート図とは違つていて、北の巡視路を歩いていることに気づく。鉄塔広場に立つて東方を眺めると、かなり登ってきたと思つているのに、すぐ目の下に巡視路入口の谷があることに驚いた。

鉄塔広場の上部から、先ほど離れた谷上流へくだり、杉林の急斜面を登り、南の尾根への。尾根は伐採されていて視界は広がるが、あいにくのガスで展望は全くきかない。近くの尾根の林が見えるだけ。尾根にはユズリハが一面に自生し、サルトリイバラに似た小さな青い実が鈴なりに付いている。

尾根を登ると再び林に入り、二つ目の鉄塔(甲11)に着く。ここから斜面を切るように送電線を見ながら登って行く。林のなかの急斜面をフウ言いながら登って行くと、間もなく、三つ目の鉄塔(甲12)。ガスであたりの景色が見えないが地形図で見ると、北東にのびる平坦尾根のすぐ

下まで登ってきているようだ。雨が降り続き、巡視路はぬかるんで滑りやすい。足元に注意して登つても、すでに靴もスパッツもドロドロ。(よほど歩くのが下手なのか)とひとりひがんでいたが、鉄塔で休んだ時に見渡すと、靴に泥を付けずに歩いてきた人はほんの3人だけ。(あの人たちは歩き方がいいのではなく、よほどのガニ股か、O脚なのだろう)と自分を慰める。

鉄塔からわずかに登るとすぐに斜面はゆるくなり、平坦な尾根へ出る。これまでの灌木林が一変し、ブナが目立つようになる。そのブナ林を抜けると四つ目の鉄塔(甲13)に出て、林の切れた尾根直下の道を行く。天気が良ければ送電線のかなたに大日のピークや、左方向に連なる果境尾根も見ることもできるはずだが、ガスが濃くて何も見えない。頭上の送電線も50m先でガスの中に消えている。

尾根道を歩き、妙芽谷へくだる破線の分岐鉄塔(甲16)を過ぎると、急斜面の上は太いブナ林が続く尾根。そこ

山の本の紹介 最新刊
「登山ガイド・穴栗50名山」
穴栗50名山定委員会編 しょうけん舎協力
神戸新聞総合出版センター刊
定価1500円(千円)
書店にて発売中。

数日間雨が続いたこともあり、流れの音がいちだんと高い。地形図の破線通りに歩き、送電線をくぐると左岸から右岸へ、その後すぐに左岸へと渡り返す。谷が左へ廻り込むと、その先で谷が左右に分かれた。

地形図の破線は左の谷に付いているが、その谷に道跡は見られず、右の谷に付いている踏み固められた道へ入って行く。谷に入つてすぐ谷を離れ、右手の斜面を登ると、二本の送電線のうち、北の送電線の鉄塔(若狭幹線甲10)

からわずかで大日の尾根にのる。太いブナが立ち並ぶ林で、ガスがあたりに漂い、まさに幽玄と思えるブナ林の光景が広がり、我を忘れ、シャッターを切る。尾根を南に50mも歩くと、大日の山頂だった。

大日山頂は、山の頂とは思えないほど平坦だ。ブナ林に囲まれた狭い広場に三角点が埋められている。標高750.9m、点名は「大日」。三等三角点である。標石は北東向きで、北から東へ30度振つている。標石の頭はきれいだつたが、地表から5m出ているだけ。そばには標高を示す木柱が立っている。時間はすでに11時40分。三角点で記念写真を撮り、すぐ南の鉄塔広場で昼食にした。

登り始めには小雨が降っていたが、昼食時には上がった。時折、薄日まで差してきたが晴れてくれないガスの中から、名のわからない小鳥やウグイスの鳴き声が聞こえ、太平そのものだ。新潟地方では地震で大変な被害というのに、私たちは山へ登つていて、何



か後ろめたい気がしないでもない。皆はよほど滑る道に体力を消耗したのか、坐るやいなや、にぎり飯や弁当をパクついている。アルコールを嗜んでいるのは運転しない男性ひとり。物集女の彼は運転するから飲まないのではなく、最近、アルコールをひかえているのだとわかって、皆からその理由を問ひ質され、困惑気味だった。

行程のブナ・ミズナラが林立し、それが霧の中にぼーっと霞んで幻想的なムードをかもしだしている。その光景に魅せられながら歩いて、標高784mまで来ると、近江坂の道標が立っている。近江坂が能登野を経て、能登野へくだる分岐であった。

近江坂とは、滋賀県箱館山山麓にある酒波から、平池、大御影山を経て、

12時35分、先が長いので出発する。雨が降り続けば三重嶽分岐ピークから引き返すつもりだったが、予報通りやみそうだったので、計画通りイヤ谷へ通過りイヤ谷へくだることにした。鉄塔を過ぎると、ブナ自然林に入っていく。幹の太さ50〜80

三方五湖南方の能登野へ越す長い長い特道である。この特道は「馬道」とも呼ばれ、若狭の坊さんが馬に乗って越してきた特道でもあった。昔は、能登越から三十三間山にかけてのこのあたりの山は、近江の酒波寺の寺領であった。信長が朝倉氏を攻めた時、山手米と称する一種の税金を課したが、酒波寺では納めることができなかつたので、このあたりの山を三方に与える代わりになった。実際には倉見の左近という豪族が酒波寺に寄進したという形をとり、山手米を納めたといわれている。その時に、山手米といっしょに能登野の成願寺開見神社にあった大般若經の教典五九六巻を酒波寺へ納めた。それ以来毎年、能登野から近江坂を通じて、酒波寺へ教典を捧ぎに行く慣習ができたといわれている。信長の時代に発したこの習慣は、自動車道が発達するまで続いていたが、その後、近江坂を歩く人もいなくなり、道も消えてしまった。それを、30年程前に、北山ク

ラフの金久昌業氏がこの道特定して以来、最近、高島市と美浜町の山岳会の尽力でハイキングコースとして復活したのである。

近江坂分岐から、霧にかすむすばらしいブナ林を楽しみながら小さなコブを三つ越え、三重嶽の分岐ピーク。このピークへは、平成16年6月、中央分水嶺踏査山行で来ているが、その時には無かった立派な標識が立てられている。大御影山から三重嶽へのルート

を歩いたのは、このピークから三重嶽までルートが拓かれて一週間後だったから、それ以降、「高島トレイル」として整備されたのだろう。

ピークから東へくだる。尾根には深く踏まれた古道跡が残っている。気がつくくと、昼食時に晴れかかっていた霧は、東へ来るほど濃くなり、20分先もかすむようになってきた。目の前にブナの大木が何本も次々と現れてくる。鞍部を越えて登りにかかり、方向を東に振るが、霧のために現在地を見失いそうになる。標高780mを過ぎ、急斜面をジグザグに切られた古道を登り切ると、右手に「大御影山まで20分」と書かれた小さな道標が立っている。この北側の尾根末端の平坦地がイヤ谷への下り口だったが、何の案内標識もなく、地形図を見ただけで特定するのは難しい。高島リーダの例会で通った人が5人もいたからすぐわかったが、彼等がいなかったら、ウロウロしたに違いなかった。



ブナ林を歩く

尾根とも思えぬブナ林の軒げ落ちそ

うな急斜面を、ジグザグに切られた踏跡を頼りにくだって行く。あたりをよく見ると所どころにテープが下がっていて方向を示しているが、それを見る余裕さえないほどの急斜面だ。ドンドンくだり、太い杉とブナのある平坦尾根でひと休みし、尾根を外さぬようにくだって行くと尾根が切れ、道跡は斜面を左に切ってイヤ谷へとくだっていき、炭焼き窯跡から谷を渡り、左岸を5分も歩くと能登又谷林道終点に出た。ここから40分かけて林道を歩き、大日道分岐へ戻った。上を見ると、先ほどまでの霧がうそのように青空が広がっていた。(平成19年7月18日歩く)

△コースタイム△

- 能登又谷・大日開拓地林道分岐 (20分)
- 北谷巡視路 (2時間) 点名「大日」(45分)
- 三重嶽分岐ピーク (40分) イヤ谷下り口 (1時間) 能登又谷林道終点 (40分)
- 能登又谷・大日開拓地林道分岐
- △地形図V2万5千。三方・熊川

恐竜の背のような稜線を歩く

連載 ケリオン
鶏龍山

韓国

ヨシミスポーツ 吉見英樹

韓国への、大田市西部に鶏龍山国立公園がある。大田市からバスで1時間。鶏龍山の門前町が広がり、近くに儒城温泉、山麓には名刹東鶴寺(尼寺)、甲寺があり、深山溪谷の、韓国でも第一級の仏教観光地である。

韓国独特の岩稜むき出しの山。日帰り登山で各岩稜をぐるっと回峰しても、余裕をもって下山できる。

山中には落差の大きな滝や高麗時代の石塔があり、鉄階段ばかりの道はスリリングで、恐竜の背のようなアップダウンの稜線歩きが楽しめる。

清々しくて美味しい。

KTX駅から102番バスに乗るとあっという間に鶏龍山のバスターミナルに到着した。22年前とはほとんど風景は変化がないようである。その日の宿は、バスターミナル前にある韓国観光地としてはかなりマシな、「東鶴山荘」に決めた。

すでに午後をとっぷり回っていたので、この日は東鶴寺まで散策することにした。お寺までは、深い溪谷沿いを歩く。両側にはおみやげ屋、食堂、民宿が軒を連ねていて、門前の観光地らしく雰囲気がとても素敵である。

40分ばかり気持ちよく散策すると、東鶴寺に着いた。ここも22年前にヤン社長と来た時のままである。夕方になると、溪谷沿いは日が差さないの薄暗く、すこく冷え込む。溪流は全てカチンコチンに凍っているようである。

帰路の食堂通りで豆腐専門店を見つけたので飛び込んだ。ここ数日、韓国の濃くて辛いものはかり食べていたので、胃の調子が重く、豆腐のあっさり

味がとても嬉しかった。

韓国料理に関しての個人的意見であるが、ひとり用の食事メニューが少ないことだ。うどん・冷麺など昼食のものであっても、夕食メニューになると、たいていが鍋など数人で囲む料理ばかりで、ひとり用は無いに等しい。それは、韓国人はひとりでは外食をしないからである。必ず誰かと誘い合って外に繰り出し、食べて飲んで思い切り盛り上がる習慣からきている。実際、きちとした食べ物屋で夕食をひとりで行っている韓国人は、22年になる私の韓国旅行歴でも見たことがほとんどない。ちなみに、夕食に値する個食メニューといえば、サンゲタン・ソルロタン・トルソクビビンバ・カルピタン・センナクチビンバブぐらいたろう。あれこれ思いながら、けつきよく、韓国焼酎を飲み干して宿に帰った。韓国焼酎も最近では、真露だけではなく、体に気をつかった薬種(ササンチュ・人参酒)など種類が増えてきている。ササンチュなどは果実入りの甘口

交通アクセス
仁川、空港から高速バスで大田市まで3時間。バスターミナルで乗り換えて鶏龍山まで1時間。またソウルからKTX(高速鉄道)で大田市まで行くこともできる。
大田市から鶏龍山までは10分ごとにバスが発着するので便利。

コース
88年ソウルオリンピックの2年前、親しくしていた登山メーカー、白雲台のヤン社長と一度訪れたことがある。その時は儒城温泉へふたりで遊びに行ったついでに立ち寄ったもので、登山装備は全くしていなかった。
雪で凍った道をスニーカーに藁を巻いて歩いたので、男妹塔まで行き、甲寺へ下山しただけだった。だから、どうしても再度訪れてきつちりと登山したかった山である。

大都会の大田市からわずか1時間で、びっくりするほど静かな鶏龍山公園に着く。空気は全く都会と異なり、

アタッテ痛い靴の中広げします

靴底張替承ります!

通販も可能です。

TEL. 06-6772-7231

毎週木曜日定休

なので、大変飲みやすい。

「東鶴山荘」は古い観光地の宿にしてはとても気が利いていてよい。窓からは夕日に映える鶏籠山が望め、旅情をいっそうかき立ててくれた。一泊3500円と安く、せひ泊まってほしい。



い宿である。

翌朝、7時半起床。と言っても、中年の私はとっくに起きているのだが……。山荘前の食堂でキンパブ(400円)を二人前握ってもらって出発。

道すがらの溪谷はガチガチに凍っている。しばらく歩くと東鶴寺に着く。お寺に本日の無事下山を祈願し、ありがたく薬水をいただいた。寺より奥に一直線に登山道がのびている。

日が差さない渓谷の朝はなかなか厳しい。体が温まったところでひと休みして、朝食用にキンパブを食べた。サーモスの熱いお湯がとてありがたく感じられた。

岩と石の階段道になり、韓国独特の参道となる。雪や氷があっても岩肌を外さなければ、けつして滑ることはない、とてもよく出来ている。

寺から1時間でウンソン瀑布に到着。急勾配の鉄階段を上がった所が滝の展望台になっている。春先は濡れていて水瀑になっていないのが残念だ。

恐竜の背の稜線



滝の上に観音峰が見えていたが、ここより1時間のジグザグ歩きで到着した。頂上には漢字で「観音峰」と石碑があり、すばらしい展望が楽しめた。お昼までには時間があるので、ミカンなどを食べながらしばらく展望を楽しみ、きょうの本番、三仏峰へ向かうことにした。

三仏峰へのギザギザの恐竜稜線が眼下に全貌を見せるのだが、事前に得た情報より明らかに危険そうである。蟻の戸渡りのような細い縦走路で、かなり急な鉄階段もある。私はすこし尻込みをして安全な甲寺の方へ行こうかと、しばらく考えた。しかし、せっかくはるばる来たのだから、後で後悔し

ないためにも、ここは頑張つて、事前情報を信じて計画通りのルートを慎重にとることにした。

ひとり山行、朝早くてまだ登山者は誰もいない。滑つて落ちて怪我しても誰も助けてくれないのだ。そこから、いきなり鉄階段をくだるのだが、まだまだ凍っていて、二、三步目でズルッと滑ってしまった。怖っ、ここを転げ落ちたら、一巻の終わりだ。手すりをしっかり握りながら、一步一步と時間をかけて稜線の下部へたどり着いた。

縦走路は、鉄階段や石段のアップダウンを繰り返して、三仏峰へ近づいて行く。コースタイムは1時間30分であるが、思ったより短縮できるようで、途中、緊張で息抜きの小休止を挟んでも、1時間で着いてしまった。

三仏峰は狭い頂上であるが、展望も良く、昔の溜り場になっている。韓国軍隊の演習で兵隊さんの団体が来たり女性の団体が来たりして、私はどうもコースを逆に歩いているようだ。冬の時期は、最終ゴールを東鶴寺にす

るほうが安全なのであろう。

ここより20分ばかりくだと男妹塔という小さな庫裏のようなお寺に着いた。岩小屋を背にした高麗時代の石塔が二基鎮座し、広場では多くの登山者が食事を始めていた。22年前ヤン社長と訪れ、共にお参りした寺だ。月日の早さに呆然としてしまった。

そうこうしているうちに、日差しも暖かくなり、私もここでゆっくり食事することに決めた。

下山路は、山裏を廻り込んでバスターミナルへ直接出る。なだらかな雑木林の道。道中、トレックカーが飯盒炊飯をしたり、山中での反省会を開いていて大変に賑やかである。迷うことのない散策気分の下山道は気分もリラックasでき、鼻歌交じりで心地よい。

ゴールの売票所に着いたら、14時を回っていた。天候は快晴。汗をけこうかいたので喉が鳴って鳴って仕方がない。早速、きのう寄った豆腐専門店に飛び込んで、豆腐刺身を注文した。壁を見るとトンドン酒と書いてあ

る。トンドン酒は濁酒であり、炭酸が少し効いてまろやかな酸っぱさがすばらしい。そのうえ乳酸菌も入っていて、古来より滋養酒として親しまれている。飄軍トックリで呑むのが習わしであり、呑むときに淡く味わえる祭囃気が気に入っている。本日はトンドン酒で総仕上げと決めた。

昼間から酒が飲めるとは、これぞ休日の醍醐味。少量の酒でよく回るところもいい。気分よく飲んでみると、前のテーブルの男性がいつしよに飲もうと、酒を持って私のテーブルに来た。30年前に沖繩で仕事をしていたのと、日本人が懐かしくて、しゃべりにきてくれた。私もヒョンニム(兄さん)と言って、お互いに酒を酌み交わし、気がつけばもう夕方になっていた。

《コースタイム》

バスターミナル(30分東鶴寺(1時間)ウンソン瀑布(1時間)観音峰(1時間)三仏峰(15分)男妹塔(1時間)20分バスターミナル

秋篠寺から西大寺を訪ねて

松永恵一

秋篠寺本堂



秋篠寺 奈良盆地の北に長々と横たわる平城山。東は佐保山、西を佐紀山という。佐紀路の奥に位置する秋篠の里。「あさしの」何とゆかしい響きの言葉だろう。雅な大和言葉の地名は、何となく憧れに似た親しさを懐く。秋篠宮家の名の由来ともなった。

秋篠の名に惹かれ秋篠寺を詣でる。開基は法相宗の僧・善珠とされ、秋篠氏の氏寺とも言われるが、草創時の様子はよくわかっていない。秋篠氏は葬送儀礼集団として勢力を振った土師氏の一族。宝龜十一年(780)、光仁天皇が秋篠寺に食封一百戸を施入したとあるのが文献上の初見。延暦二十五

年(806)、桓武天皇の五十七忌が大安寺とやらんで秋篠寺でも営まれていた。奈良時代最後の官寺として造られたようで、西大寺造営とかなり密接な関係があったらしい。

秋篠寺は保延元年(1135)の兵火をうけて伽藍の大半を失った。鎌倉時代に旧講堂の位置に再建された本堂(国宝)が残る。天平の余香を伝える寄棟造、本瓦葺の建築で花崗岩の基壇上に立つ。礎石は自然石で、縁や床は張られず、内部は漆喰叩きの土間。

薄暗い本堂に一列に並べられた御仏。本尊は薬師三尊像(重文)。中尊薬師像が寄木造の素木像であるのに対し、両脇侍は彩色像でもともと一具のもの

でなかったらしい。十二神将像、地藏菩薩立像(重文)、帝釈天立像(重文)、伎芸天立像(重文)などを安置する。大元帥明王像(重文)は、本堂の横の明王堂の本尊。秘仏で開扉は毎年6月6日のみ。護国外敵調伏退散を祈願する仏は、六本の手を持ち、全身に蛇を巻きつけた忿怒の形相で立っている。

伎芸天立像

甘美で優雅な造形の伎芸天立像に魅せられて、秋篠の里に足を運ぶ。ふつくと美しく、上体をかすかに傾け首をややかして立つ。靈妙な天上の音楽に耳を澄まして聴き入るような表情。伎芸天は自在天が天上界で諸伎楽に興じていた際に、髪が生え際から誕生した眉目秀麗容姿端麗な天女で、伎芸が群を抜いていたため、伎芸修造、福徳円満の守護善神とされる。痛ましいことに頭部のみが天平時代の乾漆造りで、体部は鎌倉時代に補修した木造になっている。

「このミュウズの像はなんだか僕たちのもののような気がせられて、わけてもお慕わしい。」

車楽へいざ伎芸天のおんまみに眺めあこがれ生き死なんかもあさしのの みてらをいでてかえりみる いこまがたけにひはおちむとす

川田 順 辰雄

西大寺

西の大寺は、平城宮を挟んで東大寺と対の位置にある。天平宝字八年(764)に称徳天皇によって発願された。藤原仲麻呂(忠美押勝)の乱の鎮圧、鎮護国家と平和祈願のために山莊を改造し、翌天平神護元年に七尺の金銅四天王像が四王堂に安置された。東西十一町、南北七町、面積三十一町(約48㊥)の境域に薬師・弥勒の両金堂、その前に十五丈の東・西の五重塔、四王堂院、十一面堂院など百十数の堂宇が蔓を並べた。

壮大な伽藍を持ち、東大寺や興福寺と共に南都七大寺の一つに数えられる大寺院であったが、再三の災害に遭い平安時代にすべて失われた。

鎌倉時代に名僧興正菩薩観上人が復興にあたり、創建当初とは面目を新たにした密・律兼修の根本道場として伽藍を整備した。そして建物は再び失われ、いまあるものは江戸時代に再建されたものである。本堂の本尊は釈迦如来立像(重文)。

京都・清涼寺の釈迦如来像を模影したもので、建長元年(1249)の造立。

興正菩薩の十三回忌に当る正安四年(1302)に開眼供養された文殊菩薩騎獅像(重文)が目につく。像内に弟子たちの経巻文書類が多く奉籠されていた。いとうせいこうが恋した仏像。「見仏記」に記す。「文殊菩薩と目が合った。その瞬間、私はうろうう、とうなったまま息を止めてしまったのだ。心臓がドキドキしていた。……俺、この文殊が好きなんだもん。」非常に女性っぽい。妙な色気がある。

四侍者のうち、善財童子像は灰谷健次郎の「兎の眼」で有名になった。「あいかわらず善財童子は美しい眼をしていた。ひとの眼というより、兎の眼だった。それはいのりをこめたように、ものを思うかのように、静かな光をたたえてやさしかった。」

文殊菩薩の前にひっそりと佇んでいる。顔を上げ、つぶらな眼で空を見ている。



西大寺東塔跡 (左愛染堂、右本堂)

コース概観

佐紀路の奥の秋篠寺は、堀辰雄や会津八一等が魅力にとりつかれ足しげく通った。藤原仲麻呂の乱の鎮定のために称徳天皇の別荘の地に造立された西大寺。仲麻呂を寵愛された帝はやがて道鏡へ心が傾く。反乱の意図は帝の寵愛を軸とする愛憎の機微。いにしえの大宮人の夢跡をさまよい、天平文化の花に酔いながら歩いてみた。

近鉄京都線平城駅下車。秋篠川沿いに大和盆地の風情を楽しみながらぶらぶら歩くと、奈良競輪場の前になる。標識に従って進むと秋篠寺。清梵な寺は閑静な住宅地に突然現れる。秋篠や外山の里やしぐららむ伊駒の嶽に雲のかかれる

西行法師「新古今和歌集

南門をくぐりすぐ左手に、会津八一の歌碑が立つ。右手のこんもりした所が東塔の跡。西塔跡は歌碑の後の雑木林のなか。金堂跡は本堂の南、鬱蒼とした雑木林の木立のなかに眠っている。見事な苔に覆われている。どこまでも続く緑のピロード。凜とする雰囲気を持ちながら非常に美しい空間を織りなしている。雑木林を抜けた右手正面に本堂、左手に大元堂がある。

本堂がゆつたりと甍を広げている。鈍い光りを返す瓦と白壁、柱が美しい。桁行五間、梁間四間。正面の五間すべてに連子格子があり、両サイドは窓、中央三ヶ所は格子戸が入っている。本堂前のベンチに坐った五木寛之は、「黙

して横たわる本堂は、単純、素朴、そして明快である。」と感じた。本堂に入る。伎芸天立像は左端に立つ。学問的には伎芸天ではないという。高い宝髻と耳朶の上を覆うカールした髪、優美と柔和さをたたえたお顔。諸々のみ佛の中の伎芸天

川田 順

あまりじしなき肉置のたをやかにみ面もみ腰もただうつつなし

吉野秀雄

「まあ、美しいほどけさまたこと」

「色っほいだらう」

「目もとが涼しい。色っほいが、しかしよくみると、天平末期の幽愁を秘めている。若い頃、僕はこのほとけさまに恋をしたことがあった」

と、立原正秋は「春の鐘」に記した。東門に入って左すぐに香水閣がある。霊水が湧いている。明治維新までは禁裏御香水所として、正月の大元帥御修法の時に献泉の儀をつとめたという。

南門から秋篠寺をあとにし、「歴史の道」の石碑を頼りに南下する。途中、住宅街で細いあせ道になるが、さらに進んで近鉄奈良線の踏み切りを越える。案内に従って右折すると、伏見中学校の南側に西大寺奥の院体性院がある。基壇の中央に西大寺中興の祖興正菩薩観尊上人の大きな五輪塔がある。

来た道を戻って秋篠寺からの道を横切り、さらに直進すると土塀に囲まれた西大寺北門に着く。生活感のあふれる街中のお寺さんの境内には、幼稚園・保育園の子供たちの声が響き渡っている。荘厳で静かとか、大勢の参拝客というイメージはこの寺にはない。



秋篠寺付近略図

ぐるっと境内にそって南へ廻り南門から入る。観尊が鎌倉時代に伽藍を再興し、元の東塔を中心として境内を整備したときの正門にあたる。室町時代初期の四脚門は、西大寺に残る建物として最も古い。「勝宝山」と掲げられている。真言律宗絵本山勝宝山西大寺。門をくぐると東塔の基壇が目の前に迫ってくる。唐スタイル濃厚な瑠璃瓦葺の八角基壇七重塔の建立が企画されたが、称徳天皇の崩御、道鏡の失脚等が影響したのか、四角の基壇に改められ、高さ十五丈の五重塔が東西に建立された。四角の基壇の周囲の八角の敷石が最初に造られた八角基壇跡である。塔跡の後方に本堂が建つ。中世に建てられた光明真言堂の後身で、土壁を使わない総板壁の珍しい建物である。釈迦如来立像、文殊菩薩騎獅像、四侍者像を安置する。オープンな境内は、仏様も身近な存在。お買い物ついでに手を合わせて通り抜けて行く。

愛染堂は寝殿造の建築で、京都の近衛政所の御殿を移築したもの。本尊愛

染明王座像(重文)は、蒙古襲来の時、観尊の祈願で放った矢が北九州多々良浜へ飛び、敵將の胸を射たと伝える。堂前の観尊お手植えの菩提樹は、初夏に芳香を放つ淡黄色の可憐な花が咲く。光明殿は大茶盛の会場。鎌倉時代から催されている茶儀で、直径30センチ以上もある大茶碗にお茶を点て、参加者に振る舞われる。回し飲みする様子はとても和やかな雰囲気で、観尊の遺徳がしのばれる。

＜コースタイム＞

近鉄平城駅(10分)秋篠寺(20分)西大寺(3分)大和西大寺駅

△地形図V2万5千1:奈良

△費用V

近鉄難波駅〜平城駅 480円
大和西大寺駅〜近鉄難波駅 480円
秋篠寺 500円
西大寺諸堂拝観共通券 1000円

(問い合わせ先)

秋篠寺 ☎0742(45)4600
西大寺 ☎0742(45)4700

山の地名を歩く④

飯豊山

西尾 寿一

日本百名山を登っている人でも飯豊山に目が向くのはかなりの経験者だろう。しかし、やがて順番が廻ってくるのでその段になって、この山の巨大さに思わず襟を正して取り組まなくてはならないことに気づくことになる。

亀の甲羅を思い切り巨大化して越後・会津・羽前の境にドカッと据えたような山塊である。どのルートから取り付いても一日仕事の厳しい登りであるが、主脈に至ればパラダイスだ。と言ったのは、故藤島玄さん（元日本山岳会越後支部長）であるが、全くその通りの山である。

さて、飯豊の由来・語源となると、簡単そうで難題である。しかし先出藤島玄さんの「越後の山旅」（以後「山旅」）上巻の地名研究が一番だろう。

飯豊の表は会津なのは本邦の開発過程からみて当然の帰結である。修験の入ったのも会津だった。藩政時代に飯豊山の越後側の大部分も会津藩領だったことにもよるが、越後側からも飯豊山脈の巨大な山体に神霊を感じ、しかも稲作の水の供給をもたらす重要な山である認識はあったはずで、それが二王子山からの遷葬の形となって現れる。このあたりを先出「山旅」は、「登拝路の伐開の順序は、岩代会津の一ノ戸口、羽前中津川の岩倉口、会津弥平四郎口、最後が越後蒲原の赤谷口である。（中略）新潟平野の用水の大部分を飯豊連峰に仰ぎながら、飯豊信仰のおきなだったのは、海岸まで阿賀野川の水利権と、連峰西麓の相当部分が会津領であり、領主がその必要を認めなかったのと、峰伝いの行路があまりにも遠く、言語に絶した難行だからであ

この人は、今西錦司さんと盟友でよく京都へ遊びに来られ、一席もうけて呑んだものだ。私も、なぜか呼ばれて呑むうちに心安くさせてもらった。仲間うちで「玄さん」と呼ばれた気さくな人柄で、私たちもそう呼ばせてもらった。

「飯豊へ来い」と玄さんが口ぐせのように言うので、とうとうその気になった。昭和47年5月2日、夜行の新潟行きに仲間4人が乗り込んだ。鈍行を乗り継いで、関川駅に早朝着くと、玄さんと平田大六氏が出迎えてくださった。

駅前で玄さんは我々の写真を撮って、「君等が遭難した時に警察ははじめ関係者に配布するためさ」などと平然と言つてのける。

平田氏は関川村の地元登山家で、実家へ何うとゼンマイが庭一面に干してあり、いろいろ話を聞いた。平田氏も「大六さん」で通つていて名の由来は相当のものだ。地元村上市の蔵元で杜氏をしてているが、JAC越後支部の大

る。」と記す。

また、山名については、「長い間調べもしたし、考えもしたが、万人の肯定する学説にぶつからない。飯豊は新しい語感を与えるが、あまりに古い地名で、古語の失われた今となっては手のつけようもない」と半ばあきらめながら、それでも時あれば究明しなければならぬ意志はあったものと思う。

幾つかのそれらしい候補を挙げられた中に「一番常識的なのは「ヒイテ山」とみるか「トイヨキ山」とみるかである。」「イツキ（齊）山」「イカツキ（巖）山」が、ツキノ山・月山になったように、且飯野神社をアサヒノ神社とあるのを見て、飯はイヒ・イイで、豊はトに約し、また、その声に転ずるらしく、豊島区をトシマ区の例もある。そうだとすると「ヒイテ山」前のヒイテ山となる」とあって、この分野は日本語の詮索次第となる。

こうして一応の詮索の結果、次のようなどころへ落ち着くのである。「飯豊は稲の豊作を折り、雪の降り

幹部だ。そして現在は、関川村の村長をしておられる。

玄さんと別れ、大六さんの車で大石川をつめ上げ、大熊小屋で1泊する我々を送り、帰っていかれた。

このときは、飯豊の主脈縦走であった。大石尾根から机差岳を経て主脈を北上し、途中2泊して会津側へ下山した。このときも「玄さん」指定の宿で大散財となり、4人で「会津餐」を四升も空けて満足だった。

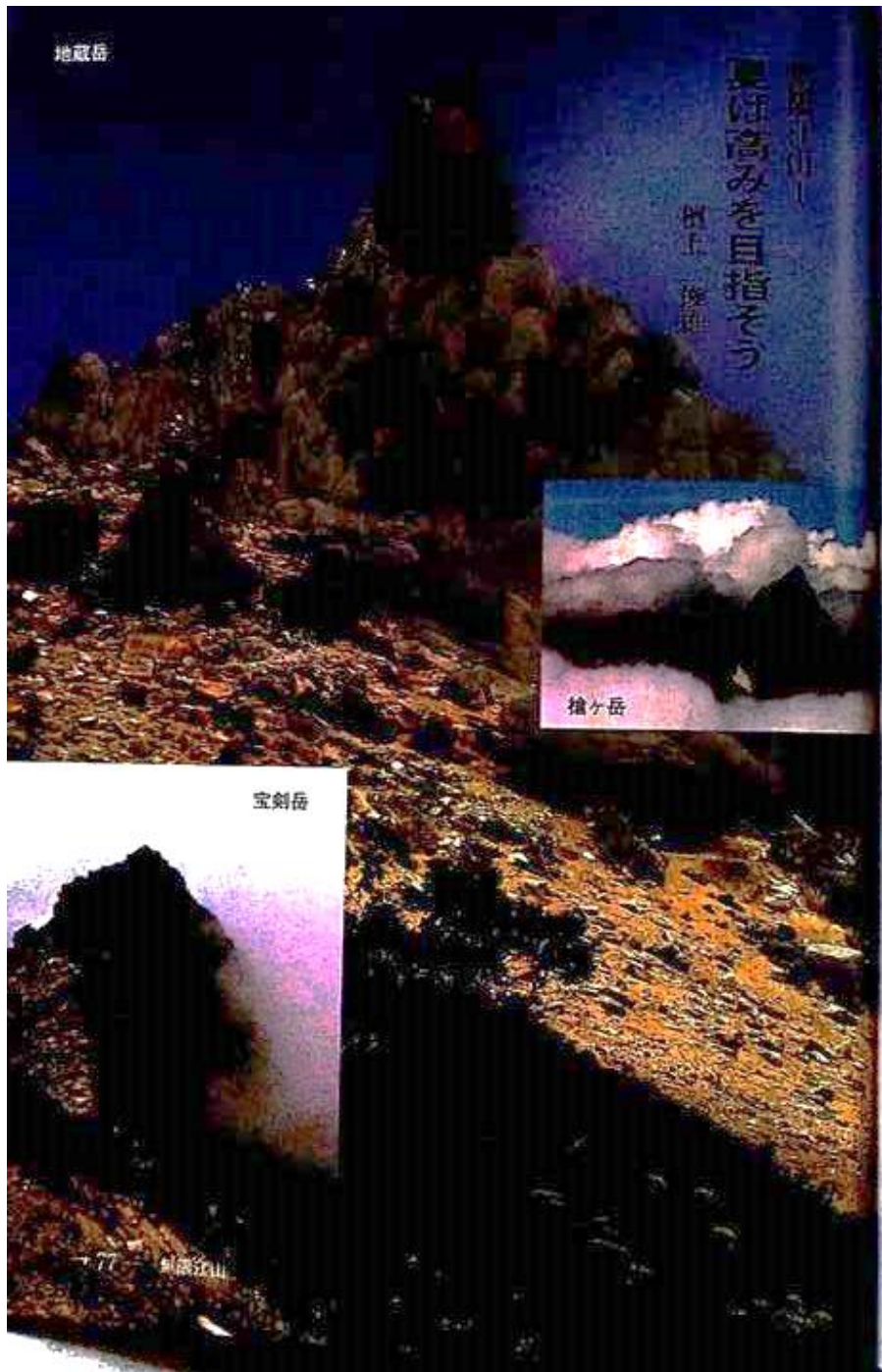
飯豊最高峰の大日岳には登れなかったが、玄さんは「それは正解だった」と言う。残しておけば再び飯豊に来ることがあるから、というわけだ。二気に片付けねばおさまらない都会人とは違う地元之余裕というものを嫌というほど感じさせられた。

飯豊山は、やはり巨大な亀の甲羅だった。登りと下りにうんざりするほど努力を使うが、尾根上は楽園であった。食料さえあれば何日でも居続けた気分にはさせてくれる。そんな山は国内でも数少なくなつたようだ。

積るころに山へ戻る山の神、雪の消えたころ麓へ帰る神を祀った農民の率直素朴な対象であったことに違いない」と結ぶ。

飯豊には机差山や種蒔山など農事に関係する名が多いところから、農業と密接な関係にあるのは間違いない。豊富な降雪で春に大量の水が水田をうるおす構図は、越後・会津・羽前と、どの地方にとつても同様の恵みだったに違いなく、「豊かな飯の素」となる聖山であった。おそらく「飯豊」の地名を考える人にとって普遍的な解釈に同意するほかないのだが、周辺諸国により若干の相違が生じるのはやむを得ないのであろう。

先出の玄さんの書は越後からの視点であることを踏まえたうえで同書の末で、玄さんは「山名の探索に試行錯誤のうちに、一足飛びに飯豊山の祭神は越王天彦命である、と考えてみた。越王を祀った山に飯豊であれと、折念そのものの喜字をあてて、越王すなわち飯豊山になった、と一応決めてみたら



どうか」とあり、その後も続くが、大彦命（大毘古）とは大和の直系で四道将軍であるから、この考え方は中央との継がりを重視するもので、地方にありがちな指向性である。

東北には、中央と継がりその系統に参加することで生き残り策とした社寺が無数に存在するが、中央からは「国内統一」という観点があつたことに留意するべきだ。

飯豊山の地名論のうち全く別の角度から考察したものがあつた。それはアイヌ語によるアプローチである。

飯豊町が山形県側にあり、飯豊山は見えるがそこからはいかにも遠い。岩手県に飯豊の地名が残つたかある。江刺や北上市には「飯豊森」が平野の中に鎮守森のように存在する。今はイイトヨであるが、古くは「インデ」または「エンデ」であつたと聴く。

豊はトヨの他にトイと発音される例が多いのはアイヌ語の「トイ」（尖つた小山）で、神聖な場所であるとするのは「日本のアイヌ語地名」（大友幸

男著）である。「トイはこの地方ではドイツからドイツになりやすくエンデに近くなり」というのだがどうか。これをもつて広大な地域に跨る大飯豊山脈を語ることは困難としながらも、一聴の余地に残るのではなからうか。

古代地名の類型を拾ってみると「イヒ」とは、家であり、また高地を意味する。とすると家形の山とみだが、高地なら何ら文句はつけられない。すると「デ」は処であるとしたら、つまるところ高い所の山または家（館）といったことになり得る。

これではもうひとつ地名にうるさい御仁は納得させられないだらう。もつと半直に、飯豊山は明らかに農業（稲作）の民が豊作を願つて信仰した山である。それは山のいたる所に地名として残されている。

山脈の北部の顕著な峰に「杵差岳」があり、南の「玄関口に穂蒔山」があり、といった具合である。それらの証は間違ひなく農耕民たちが残したも

のであつた。

修験が関与したことも地名を拾えば明らかであるが、それがこの大山塊全域に及んだとはとうてい考えられないので、ここは豊富な降雪が四辺の農民にとつて死活的影響をもつていたと考えるなら、あえて飯豊の神をかつぎだすとしたら農神（作神）といったものであつただらう。

主脈を中心に主要な尾根に登山道があるが、この山の広大な根張りを形成する各支尾根は現在も未開拓の魅力を秘めている。

積雪期と無数の沢筋は経験豊富な登山者だけに許される領域であり続けている。東京の「わらじの仲間」はまずこの山域のエキスパート集団といつてよい。職々たる岩山でなく、全山深い緑に覆われている日本の山なのに、内容はアルピニズムの対象にもなる豪快なものが内包されている。

故玄さんがぞつこんだつた理由は十分納得できるのである。



海南島へ左遷された人がいて、中原へ何としても返りたいと思うが、その間には多くの川や山があると思うだけで絶望して「無限江山」とつぶやくのだが、飽くことなく山に登り続ける私たちにとっては、この言葉をプラス思考で受け止めることができる。日本列島だけでも多くの山があって、足腰が立たなくなるまで登る山には不自由しないからだ。

関西は山が近く、自然の残る中央分水嶺が縦断する。そしてその峰統きは白山連峰や北アルプスの高山がある。暑い夏には沢歩きと共に、涼しいこうした山を目指すにかぎる。この時期だけは、高山へ安全かつ快適に登ることができるからだ。

日本の高山は亜寒帯から亜寒帯に及ぶ植物の垂直分布をもち、雨が多く、山上には多くの越年性残雪があるという、世界的にみても貴重な存在として知られる。こうしたことから「夏は高みを目指

そう」ということになるのだが、アルプスはどこも混雑し、登山道は行列となり、落石の危険性は増し、山小屋はすし詰めで睡眠不足に。これをどう回避して、マイペースで楽しめるかが、大きなポイントとなる。

私は高島トレイルスルーの案内もすることから、ソロテントを使うことが多い。最近のものは重さは2kgを切り、雨風にも強くて快適だ。さらにコンロ・乾燥食料・シユラフなどの持ち物も軽量化することで、全体で10kg位に押えることができるようになった。

これはかつて4〜6人用テントを使い分けて持つのと変わらない。そのうえソロテントは、山では賢沢というべき個室に泊まるという大きな利点がある。ひとりでは、という人は友だちと誘いあって隣合わせにソロテントを張ればよい。値段は4万円前後するが、山小屋5泊分で元がとれる計算になると考えれば決して高い買い物ではない。テントがよいとは言え、悪天候では

アルプスは楽しくないし、安全面でも問題だ。最近、山小屋の多くが予約制となり、雨でも出かけることになりがちだが、テント山行では週間天気予報でスケジュールを微調整することも、山中でのコース変更も可能となる。この利点も大きい。

コースどりも、特に行列となるようなルートは避けたいもので、私はこの時期は縦走をしないようにしていて、山頂を往復する考えに徹底している。テントは稜線ではなく、それより手前の水が豊富でトイレもあって、さらに山が望めるサイトに張る。そしてここからサブザックで山頂を目指す。可能であればもちろん周遊コースをとる。キャンプに不馴れで万が一のときが心配という人は、山小屋に併設されたキャンプ場を選べばいい。

若い人ならともかく、無限江山を長く楽しむのであるから、身体はいたずらに酷使せず長持ちさせなければならぬ。登り下りの厳しい高山では、軽装で歩くことがどれだけ身体への負荷

を減らし、かつ楽しいことか。せつかくの機会なので、縦走して多くのピークを踏みたいという願いもわからないわけではないが、それならば多くの山が往復できるテントサイトを探せばいいだろう。進化を続けるソロテントだが、私のお気に入りには前室付きのツーリングテントだ。今、昨年登場した登山テントで「ドマドーム」というソロテントを使っているが、帰る家ができたとような楽しい気分させてくれ、気に入っている。



山の本館 最新刊

「伊吹山案内」

草川啓三編
ナカニシヤ出版
A5判・一八四ページ
定価1,900円(税別)

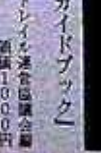


伊吹山界隈の散策道をくまなく紹介。伊吹山の植物観察に必携の書

山の本館 最新刊

「中央分水嶺」

高島トレイルズ運営協議会編
高島トレイルズ運営協議会編
A5判・一八四ページ
定価1,900円(税別)



マキノ愛発越から朽木桑原までの12名山と若狭越12峠を階級する「高島トレイル」。12コースに分けて詳細に紹介する。高島トレイルを歩いてみたい人には必携のガイドブック。

●入手希望の方は本誌の振替用紙にてお申し込みください(送料無料)。
尚、「中央分水嶺・高島トレイル詳細マップ」(定価800円)もありますので、希望の方は同時に申し込みください。

（里山シリーズ51 高島市安曇川町）
かくれた古代遺跡(地)探訪
阿弥陀山と継体天皇遺跡めぐり

一般コース（★★★）
 長宗 清司

比良山系最北端の阿弥陀山は、太山寺の山名に由来する。太山寺は高島七大寺のひとつに数えられ、七堂伽藍を構えた延暦寺の末寺だったが、織田信長の兵によって焼かれて今はない。

登山ルートは安曇川町太山寺集落のはずれから登るが、まずはJR安曇川駅から朽木行きバスに乗り、約10分で中野バス停に着く。そのまま集落を抜ける。やがて、広い谷道の両側は、樹木で見えないが高台のどちらにも造成されている。だが、とても静かである。二度、分かれ道に出合う。最初は右にとり谷の奥へ、次いで左に入る。や

がて登りとなる。尾根には踏跡があり、これを追う。3381の地点で休憩し、現在地を確認する。下界は樹木で見えにくい。安曇川流域の集落が点在しているのがわかる。その視界の先に光るのは琵琶湖である。

今度は主尾根を登る。ほどなく阿弥陀山一等三角点(453.6m)の標石が見つかる。展望は良くないので少し北上すると右側が開け、自衛隊のレーダー基地の建物が目に入る。

同じ道を少し引き返し、真南にのびる別の支尾根に入る。どうやらこの道が昔からの本道だったらしく、勾配のゆるやかな木蔭の散歩道のように、風が通って清々しい。尾根上には踏跡もある。

最後は、地図にある大きな崩れの上に出て、立ち木にすがって急下降する。下り立った所は八田川の源流に近く、雨後などは水嵩があり、渡渉を余儀なくされることがある。

八田川に沿って、左に「田中城の城跡」の山塊を掘くように見上げながら

安曇陵墓参考地



行く。武曾横山上集落に出て左折。上寺、佐賀の集落を通過し、次の集落のはずれの山裾にある「玉泉寺」に着く。この周辺には、石造の建造物や石仏群が今もなお多く残されている。玉泉寺境内の石仏・五智如来(阿弥陀・薬師・大日・弥勒・釈迦)は室町時代後期の作品で、鶴川四十八体仏と同時期と推定されている。

ち寄る予定が、本殿への石段の上部が補修中で通行止め。このため背後の山域に廻る。「安曇陵墓参考地」は、当初は帆立貝式古墳で「王塚」または「ウシ塚」と呼ばれ、地元では応神天皇の皇玄孫、彦主人王の墳墓と伝承されている。

彦主人王は近江国、北越五ヶ国を治めておられた。越前国坂中井の里より妃として迎えられた振媛(垂仁の天皇の子孫は、この地で三つ子をご安産された。三王子の末弟彦彦太王はのちに中興の名君第二十六代継体天皇と名られた。皇子が5歳の時、父彦主人王が亡くなられたので、この地に葬られたと伝わっている。

山裾にくだった所に三尾神社旧跡があり、ここで振媛がお産のときにもたれたと伝えられる「もたれ石」がある。妊婦が安産を願って、この石を撫でた手でお腹をさする風習が今も残っている。

三重生の庄堺集落に鎮座する式内社「三重生神社」は、彦主人王とその妃振媛の二神がつつましく寄り添うように祀られている。

五番領の交差点から南下し、南市を通過、最後に訪れたのは三尾里集落のはずれにある小さな胞衣塚。継体天皇はこの高島に誕生された。この塚には母の振媛がお産のあと天皇のへその緒

を埋めたと伝えられている。このほか、この集落近くには鶴塚や安閑神社、神代文字の石とか、水口石など伝説に富んだ遺跡が点在している。

(平成21年2月8日歩く)

《コースタイム》

JR安曇川駅(10分)中野バス停(40分)太山寺集落(50分)3381ピーク(20分)阿弥陀山(30分)八田川上流(40分)武曾横山上(40分)玉泉寺(20分)彦主人王の墳墓(5分)もたれ石(20分)三重生神社(45分)鶴塚(5分)安閑神社・神代文字の石・水口石(5分)胞衣塚(20分)安曇川駅

△地形図▽

2万5千：斐庭野・北小松・今津・勝野(問い合わせ先)
 高島市役所安曇川支所
 ☎0740 (32) 1131
 びわ湖高島観光協会安曇川支所
 ☎0740 (32) 1580
 安曇川駅構内観光案内所
 ☎0740 (32) 2464



新峠駐車場から 相津峠道の周辺

一般コース(★★)
藪木 伸人

松阪市飯南町と大台町三瀬谷との間に、かつて相津峠(佐原峠)があった。今は、旧峠とは別の場所に車道が通っている。この新峠には、旧峠に祀られていた弘化年代(1846)の地藏石仏が移設され、駐車場と東屋もある。ここを起点に峠の周辺を歩いてみた。松阪市街から新峠までは約32、車で45分程だ。右手の階段を5分も上がると、感謝の丘(ca470)に着く。南側は、滝原浅間山や度会三山、宮川の展望良く、初日を拝む地元有志によって整備された所という。市町境の後線を西側に移動すると、

ンがある。

あまり人通りは無いようで、コナラやホオノキの落ち葉が積もった斜面には、動物の足跡や糞が見えた。相津峠片岩の露頭が、中央構造線上の変成帯を想起させる。やはり大台町側(南)が急崖になった地形である。

地形図を見ると、旧相津峠の破線路が記されているが、現地は、そうと知らなければ峠道があったとは思えない山中だった。歩かれなくなった道は、



飯高町側の山々が樹間に覗く。5年前は、栗の木柵から高見山へのスカイラインが途切れることなく見渡せたが、今はそれほど見通せなくなった。この丘(ピーク)は、相津からは見えないが、佐原からは確認できる。(平成16年1月12日、平成21年1月7日)

新相津峠から南西方向の563.4の三角点峰は、高野板(大畑山)と呼ばれている。車道を歩いていた地元の人に尋ねても、存在を知らなかったほどで、知名度は低いようだ。

新峠から車道を1、位くだったあたりが取付地点らしいが、わかりづらかった。しかし、尾根が上がってしまえば、三角点まで迷うことはないだろう。

大台町側は急斜面で、木の間越しに麓が見え隠れした。山頂も林のなかで、展望は南側のみ、ヒメシヤラなどの木の間から宮川の流が覗く。視界の右に総門山、左に三瀬谷ダムを確認した。三等三角点名は「猿頭」で、これは、

こうして失われていくのか、と、しばし感慨にふける。

旧時の鞍部を過ぎて、さらに登るとP520。宮川流域(三瀬谷)、度会の山々が望め、休憩するのにいい所だ。市町境の線は、さらに右(東)に続いているが、左(北北西)に向かう。わずかにくだって登り返した所が、標高点529のピーク「相津山」である。あたりには、珍しく病虫害をまぬかれたアカマツがよく残っている。展望は無かったが、直下の斜面からは、木の間越しに高野板も台高山系も見えていた。

相津山からさらに少し北北西にくくると、「上相津」三角点(506.3)があるが、私は行かず、往路を戻った。尾根は、尾根の南寄りを通るように心がけていたが、途中のピークで踏跡に誘導されて飯南側にそれってしまった。見覚えのない三本松を見てピークまで引き返す。改めて、落ち葉に埋もれた大台町側の斜面をくだると、最初の鞍部に出た。

相津峠の東陵線より総門山



南麓田宮川村の地名である。

(平成18年1月29日歩く)

《コースタイム》

車道(40分)三角点(30分)車道

新峠から高野板とは反対方向(北東)に稜線を進んで行くと、旧相津峠に至る。駐車場に建つ東屋の奥から踏跡をたどって、初めのピークに上がる。地形図からは読み取りにくいアップダウン

ひと息ついたのち、新峠駐車場まで一気に戻った。山中で、細長い蜂の巣を拾った。幅10、長さ30程で、ニホンミツバチの巣のようだった。近くでは鷹の営巣も確認されており、静かな山城である。(平成21年1月7日歩く)

《コースタイム》
相津峠駐車場(45分)相津山(45分)駐車場
△地形図V2万5千II伊勢佐原

【会員募集】

大阪低山登山会 大阪府会連加盟
主に近畿周辺の山々を日帰りや楽しんでるグループです。今年で29年目になり、歴史ウォークや山麓ハイキング等の軽ハイキング、及び初級・中級登山、時には道もない登山にも登ります。例年は日曜・祝日だけですが平日山行も開催しています。40〜70歳位までの山と自然が好きな方ならどなたでも大歓迎。資料請求は葉書で左記へ。
〒565-0831 吹田市五月が丘東6番C-108 矢杉和彦まで

せせらぎ

山に関する最新の情報を随時お寄せください。
1行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、ご自分の住所・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。

題字 故 小林玻璃三

中学の同窓生が昨年末、玉城町の的山(260m)から富士山が見えて感動した旨のメールをくれた。元旦には、頂上が雲の中で、両裾が見えたそうだ。例年、的山で初日を拝む人は10人位だったのに、今年は50人も人が登っていたと、驚きを伝えていた。

翌2日は、二見町の音無山(110m)から、元旦よりもくつきりと見え、興玉神社では、富士の右に虹、左に夫婦岩という絶景だったとのこと。私は、まだ三重の地から富士山を眺め

たことがなく、うらやましいかぎりだった。

ところで、これまで私が各地の浅間山に登っていることを知らせていたら、同9日のメールで度会町の大日山(303m)に触れ、そこも浅間山では、と尋ねてきた。別名を伊勢小富士ともいい、祠もあるので浅間山のはずだと応えておいた。彼によれば、その大日山に登った折、頂に着いてから下り始めるまで泣いていた子がおり、同行の人が、「赤ちゃんがおるんやな」と〇〇さんには見えるんやな」と

話しかけていた由。

私は今まで雲的存在に全く縁がなかったが、もし見えたら怖いだらうと思った。反面、超自然的なものを見てみたい気もする。だからというわけではないが、このところ浅間山探偵に夢中だ。友人には、浅間山ハンターの名を奉られてしまった。昔の人々は山中で、もつと神仏や雲などを身近に感じていたのだろうか。(松阪市 藪木伸人)

私のような高齢者に、山登りは低山に限られるし、高山へは交通機関を利用することで実現する。

かなり前のことだが、中国の天下第一の奇山と称される黄山や五岳の一つ泰山に登った折も、ロープウェイを利用した。

黄山で1日目は、「黄山三絶」と呼ばれる雲海の中のウォーキング。奇岩・名松を眺め、有名な飛來石の横に立って記念写真のシャッターを押してもらった。三主峰の一つ光明頂(1860m)ではゆっくり過ごした。

(枚方市 東谷 忠)

2日目は晴天となり、前日は霧の中だった拝雲亭からすばらしい展望が楽しめた。太平索道を利用して翡翠池へ下り、周囲の岩石美を鑑賞したのである。泰山では、南天門にて直下の登山道を上ってくる人たちに目を奪われ、玄宗皇帝直筆の巨大な「唐磨崖碑」にも注目させられた。「五嶽独尊」の碑を過ぎ、最高峰玉皇頂に到着し、玉皇大帝像に礼拝を済ませた後、「泰山極頂1545米」碑を眺めて泰山への登頂を実感したのであった。

撮った多くの写真や記録はかけがえのない宝物となつて今でも私を支え続けてくれる。

世界遺産の黄山や泰山の旅行なので、それに関連する名所も見聞している。黄山関係では屯溪の老街、世界遺産の「宏村」などに寄っているし、泰山に關しては、三孔(孔廟・孔府・孔林)を訪ねて孔子の墓に参詣し、岱廟では偶然にも「封禪の儀」を鑑賞した。

北海道礼文島の礼文町では昨年温泉の発掘に成功し、今秋、町営の日帰り温泉「れぶんうすゆきの湯」をオープンさせる。

入浴料は大人600円、小学生以下300円と決定しているが、平成22年3月末までオープン記念料金で大人500円、小学生以下250円。

なお、「花れぶん」「ホテル礼文」「三井観光ホテル」「ブチホテルコロシアム」の四宿泊施設はすでに温泉使用を開始しているが、日帰り利用はできない。温泉の泉質はナトリウム塩化物・硫酸塩泉で神経痛、冷え症、疲労回復、健康増進等に効果がある。

問い合わせは「礼文町観光協会」へ。
TEL 0163-881-001
(国上市 野瀬和紀)

当誌104号の「せせらぎ」で紹介した「丹波市中央分水界の怪トレンギング」の姉妹編、「丹波・市島山歩きマップ」が発行された。

「市島山歩き」の代表青木正

文氏が、出身地の市島にトコトンこだわっただけに、2万5千の原色地形図に登山口が明記され、駐車場やトイレなどの有無が示され、赤線で示した登山コースにはコースタイムも表示されている。

裏面には登山口への案内、見所の山の風景や花の写真も掲載されていて、山歩きを一層楽しくしてくる。

これだけの山城をカバーするには地形図三枚が必要だが、このマップ一枚で十分ことたりるから、市島の山歩きには必携品となる。併せて拙著「兵庫丹波の山(上)」「(ナカニシヤ出版)」をお読みいただければ幸い。

一部300円、80円切手三枚、50円切手一枚、10円切手一枚、返信用切手140円を封入のうえ〒669-1339 兵庫県丹波市相原町相原1 丹波市観光協会へ申し込む。以上の上の返信用切手代は同観光協会0795-172-2340へ問い合わせる。
(大阪市 粟佐次郎)

2月1日、片知山から南岳、轟ヶ岳、奥轟ヶ岳と縦走した。雪は少なく問題なかった。

7日、母野河・面平山を巡った。特徴のない里山だった。

8日、例会で天狗ヶ城・松字士と一等の如來ヶ岳に行った。

14日、城ヶ根山に行くが、登山者は少なく急な上り下りだった。山頂には御料局三角点があり、等級は不明で記載なし。

15日、和良岳と御前ヶ岳へ。両山共時間はかからない。

21日、矢野ヶ岳から今調ヶ岳を縦走。雪があつて少し滑った。

22日、平成山から高じやれ山を歩いた。今は平成記念公園も静かだが、7人に出会った。

3月1日、先週と参加者が違うので、まずは平成山から平湖の三角点を見て高折山へ行く。平湖から見えていた反射標の山はやはり大仏だった。大仏から日龍峠寺の本堂を見て、次は美濃市の小倉山に行って展望を楽しんだ。

7日、無反山・宮山・寒陽気山と廻った。
(滝津市 山田明徳)

8日、誕生山・天王山に例会で行く。縦走は時間がかかるが、休憩に小倉山へも行く。

14日、雨がやまず、愛知県緑化センターを昼から歩いた。アセビが多くあつてきれいで、シンランも咲き出していた。

15日、藤原岳にフクジュソウを見に行くと、20年程見てきた群落が消えていた。昨年開花後に盗刈されたと思われる。小さい株は残されているので、しばらくは行かないようにしよう。

21日、白尾山に行く。雪が少なくスキー場は閉鎖。スキー場から上って3時間、下りは2時間だった。見晴らしは360度、白山方面がきれいだった。

27日、岩果山でタムシバの花を見るが、冷え込みで黄色くなっていた。

28日、母袋烏帽子に行った。新雪が20cm程あつた。

29日、入道ヶ岳に「山型山歩の集い」の25年記念山行で行く。88人参加で、アセビがきれいだった。
(滝津市 山田明徳)

山行計画
(7・8月)

新ハイキングクラブ関西

山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ(夫婦は一枚)往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するように、申込み先を確認の上申し込んでください。電話・FAXでの申し込みもお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなくなった場合はすぐ申込み先に連絡してください。体調の悪い方幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救護対策費日額50円合計100円(夜行日帰り場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)

・死亡・後遺障害保険 金額 1000万円
 ・入院保険金 金額 5000円
 ・通院保険金 金額 3000円
 ・日額 3000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)
 期日
 住所〒
 氏名
 会員番号
 (会員でない方は会員外と記入)
 血液型
 電話番号・FAX番号
 生年月日
 緊急時の連絡先 TEL
 (山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があるります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日など必ず記入ください。
- ② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断してください。
- ④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3~4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6~7時間コース)
 - (難脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6~7時間コース)
 - (難脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ過ぎの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください。(保から連絡はしません)。降雨山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

7月	行先	定員	リレー
2(休)	大峰・弥山→八経ヶ岳	27	西上
4(出)	吉野・蜻蛉の滝→青根ヶ峰		狩野
4(出)	飛騨・宇津江四十八滝	10	鷺見
4(出)→5(出)	淡路・サイクリング→淡路島一周	6	山口
5(出)	比良・白滝山→打見山		村田
7(休)	京都東山・第5峰→第14峰	23	仲谷
9(休)	台高・木槻山→赤ソレ山	27	西上
11(出)	湖南アルプス・堂山		村田
11(出)→12(出)	南信・戸倉山→アサヨ峰	10	山田
12(出)	鈴鹿・雨乞岳	24	森脇
12(出)	鈴鹿・元越谷(沢歩き)	*	岩野
16(休)	大峰・大天井ヶ岳	27	西上
17(休)夜→20(休)	北アルプス・船窪岳→鳥籠子岳	20	村田
25(出)	鈴鹿・釈迦ヶ岳	*	稲垣

*ロマイカ!山行

8月	行先	定員	リレー
1(出)	飛騨・三方岩岳→野谷荘司山	10	鷺見
1(出)→2(出)	越前・一乗城山→経ヶ岳	25	村田
6(休)	台高・太閤山→白雲岳	27	西上
9(出)	鈴鹿・仙香谷→赤坂谷(沢歩き)	*	岩野
9(出)	室生・サイクリング→裏香落溪谷		山口
9(出)	鈴鹿・サクラグチ	24	森脇
13(休)夜→16(休)	北アルプス・白馬岳→朝日岳	25	村田
20(休)	大峰・法主尾山	27	西上
23(出)	飛騨・下呂御前山	10	山田
23(出)	比良・八瀬の滝		森
25(休)	六甲・土橋割峠→打越山		仲谷
27(休)	大峰・釈迦ヶ岳	27	西上
29(出)→30(出)	奥播磨・赤谷山→氷ノ山	25	村田
9/30(休)→10/3(出)	韓国・五台山→道峰山	20	村田

*各計画の概要は次ページ以降に紹介している。

大峰・弥山から八経ヶ岳
(中級向き)

7月2日(日) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス)
トンネル東口―奥飯道
―弁天の森―弥山―八
経ヶ岳(往路)トンネ
ル東口(バス)橿原神宮
前駅(解散19時頃)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 弥山
係 ○西上利和
申込 〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

新緑とオオヤマレンゲを見
て歩きます。小雨決行
週末ハイイク94
吉野・蜻蛉の滝から青根ヶ峰
(二校向き)

7月4日(日) 日帰り
自然観察山行268
飛騨・宇津江四十八滝
(初級向き)

7月4日(日) 日帰り レンタカー
集合 JR岐阜駅7時30分
行程 岐阜駅(レンタカー)
宇津江四十八滝総合案
内所へ滝めぐりー終

7月4日(土) 5日(日)
1泊2日
集合 (4日) JR明石駅9
時00分
行程 (4日) 明石駅(サイク
リング)明石港(船)
岩屋港(サイクリング)
室津港―明神―五色

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

比良・白滝山から打見山
(中級向き)

7月5日(日) 日帰り
集合 JR堅田駅8時40分
行程 堅田駅(バス)坊村―
伊藤新道出合―白滝山
―長池―巡視路―汁谷
―打見山(ロープウェ
イ)びわ湖パレ―前(バ
ス)志賀駅(解散17時頃)

費用 交通費各自
地図 昭文社「比良山系」
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで

白滝山に登り、巡視路から
打見山へ森を歩く。雨天中止

火壇ハイイク60
私の東山36峰(第2回)
第5峰―第14峰 (二校向き)

7月7日(火) 日帰り
集合 飯尾修学院駅9時00分
行程 修学院駅―葉山観音

集合 近鉄大和上市駅9時50
分
行程 大和上市駅(バス)西
河―蜻蛉の滝―青根ヶ
峰―金峯神社―高城山
―金峯山寺―吉野駅
(解散16時頃)

費用 交通費各自
地図 昭文社「大峰山脈」
係 ○狩野東彦
申込 〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

吉野山の最高峰青根ヶ峰
に登り、山中の古刹を巡り
ながら吉野駅へくだります。
雨天中止

7月9日(日) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス)
展望休憩所―木原林道
―登山口―木槻山―馬

7月4日(土) 5日(日)
1泊2日
集合 (4日) JR明石駅9
時00分
行程 (4日) 明石駅(サイク
リング)明石港(船)
岩屋港(サイクリング)
室津港―明神―五色

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

(粟山)―一乗寺山―
瓜生山―北白川山―茶
山―銀閣寺(月待山)
―法然院(善気山)―
大文字山―銀閣寺(解
散15時30分頃)

費用 交通費各自(資料代
100円)
地図 1万 岩倉・京都御所
係 ○仲谷礼司○沖 伸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
*定員23名(会員に限る)

雨で流れて三回日の挑
戦。神社巡りもあります。
雨天中止

7月9日(日) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス)
展望休憩所―木原林道
―登山口―木槻山―馬

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

合案内所(レンタカー)
岐阜駅(解散)
費用 約5000円(レンタ
カー代等)
地図 2万5千 飛騨古川
係 ○鷺見守康
申込 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1
の19の5
鷺見守康まで
*定員10名(申込状況
により減員あり)

サイクリング&登山23
淡路島一周と鳴門海峡散策
(二校向き)

7月4日(土) 5日(日)
1泊2日
集合 (4日) JR明石駅9
時00分
行程 (4日) 明石駅(サイク
リング)明石港(船)
岩屋港(サイクリング)
室津港―明神―五色

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

飯ヶ場―馬飯ヶ場辻―
赤ソレ山―地藏谷右岸
尾根―木槻林道―展望
休憩所(バス) 橿原神
宮前駅(解散16時30分
頃)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 大豆生
係 ○西上利和
申込 〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
*定員27名

昨年7月、馬飯ヶ場の尾根
で見つけたヤシヤビシヤクを
見に行きます。今回は赤ソレ
山から地藏谷右岸尾根をくだ
ります。小雨決行

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

浜し 鳴門海峡(紅輪・
散策) (サイクリング・
福良港) 民宿「浜
島」(泊)
(5日) 宿(サイクリ
ング) 青木―淡路
ファームパーク―洲本
港―塩尾―佐野―世界
平和観音像―岩屋港
(船) 明石港(サイク
リング) 明石駅(解散)

費用 約15000円(交通
費は別)
地図 2万5千 鳴門海峡
係 ○山口敏明
申込 〒518-0755
名張市緑が丘中144
山口敏明まで
*定員6名
*6月20日まで

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

ルプス登山口(バス)
石山駅(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千 瀬田
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで

大パノラマの堂山から鐘タ
ムにくだる。雨天中止

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

7月11日(土) 12日(日)
1泊2日
集合 (1日) JR西岐阜駅8
時00分
行程 (11日) 西岐阜駅(車)登
山口―戸倉山―登山口
(車) 戸台(バス) 北沢
峠―小屋―アサヨ峠
(12日) 小屋―アサヨ峠
―北沢峠(バス) 戸台
(車) 西岐阜駅(解散)

費用 約18000円(宿泊・車・バス代等)
 地図 2万5千市野瀬・赤穂・甲斐駒ヶ岳
 係 ○山田明男
 申込 〒503-0535
 海津市南邊町松山62の19 山田明男まで
 *定員10名
 南アルプスの山へ初めて行きます。雨天決行

近江の山シリーズ23
 鈴鹿・雨乞岳 (中級向き)
 7月12日(日) 日帰り 貸切バス
 集合 J.R.京都駅八条口団体バスのりば7時30分
 行程 京都駅(バス)・武平峠―雨乞岳―稲ヶ谷分岐―稲ヶ谷登山口(バス)―京都駅(解散17時30分)
 費用 約3000円(バス代)
 地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
 係 ○森脇貞義
 申込 〒610-0121

村田智俊まで
 *定員20名(全員に限る)
 船窪小屋はランプの宿。ルートは難路だが、整備されている。雨天決行
 三重の山104
 鈴鹿・釈迦ヶ岳 (中級向き)
 7月25日(日) 日帰り マイカー
 集合 近鉄湯の山温泉駅9時00分
 行程 湯の山温泉駅(車)朝明漢谷駐車場―新道―松尾尾根―釈迦ヶ岳―鍋岳―羽鳥峰―朝明漢谷駐車場(解散15時30分頃)
 費用 交通費各自
 地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
 係 ○稲垣逸夫
 申込 〒519-0311
 鈴鹿市大久保2065 稲垣逸夫まで
 最近、整備された新道を登ります。雨天決行

城陽市寺田大野10の10
 新ハイキング関西まで
 *定員24名
 昨年、国道通行止で中止した雨乞岳を再行。大展望が待っています。雨天中止

鈴鹿を歩く314
 (元越谷―沢歩き・健脚向き)
 7月12日(日) 日帰り マイカー
 集合 477号元越谷林道入口手前広場8時30分
 行程 広場―元越谷林道―元越谷―仏谷または左保―林道―広場(解散)
 装備 溪流シューズか地下タビ・ワラジ必携
 費用 交通費各自(保険外)
 地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
 係 ○岩野 明 ○山田景三 ○後藤康幸
 申込 〒610-0121
 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで
 毎年恒例になった夏の沢歩き

自然観察山行269
 飛騨
 三方岩岳から野谷荘司山 (二校向き)
 8月1日(日) 日帰り マイカー
 集合 J.R.岐阜駅7時30分
 行程 岐阜駅(レンタカー)―白山ス―バー林道―三方岩岳駐車場―三方岩岳―野谷荘司山(往路)―三方岩岳駐車場(レンタカー)―岐阜駅(解散)
 費用 約6000円(岐阜駅からレンタカー代等)
 地図 2万5千市野瀬・平瀬・中宮温泉・新岩間温泉
 係 ○鷺見守康
 申込 〒504-0828
 各務原市蘇原村雨町1の19の5
 鷺見守康まで
 *定員10名(申込状況により減員あり)
 野谷荘司への縦走路から眺める三方岩岳の雄姿は壮観です。小雨決行

状況によってコースを決めます。雨天中止

大峰・大天井ヶ岳 (初級向き)
 7月16日(日) 日帰り 貸切バス
 集合 近鉄権原神宮前駅中央口8時05分
 行程 権原神宮前駅(バス)―五番関―女人結界門―大天井ヶ岳―二蔵宿小屋―百丁口(バス)中―庄温泉(入浴・バス)―権原神宮前駅(解散16時30分)
 費用 約3000円(バス代)
 地図 2万5千市野瀬
 係 ○西上利和
 申込 〒610-0121
 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで
 *定員27名
 ビラミダルだが登りやすい人気の山。北の稜線からは山上ヶ岳前衛の峰々が望めます。雨天中止

キャンプ山行
 越前―乗城山と経ヶ岳 (二校向き)
 8月1日(出) 2日泊
 集合 (1日) J.R.京都駅八条口団体バスのりば7時40分
 行程 (1日) 京都駅(バス)―登山口―ノ丸跡―乗城山―本丸跡―水場―乗谷朝倉城景公廟(バス)―麻那距離青少年旅行村(テント・バンガロー泊)
 (2日) 旅行村(バス)―六呂師広域林道ボケツトパーク―保月山―杓子岳―中岳―切窓―経ヶ岳―切窓―仙ヶ原―広域林道出合(バス)―京都駅(解散19時頃)
 費用 約10000円(泊・バス代等)
 地図 2万5千市野瀬・河相田・願教寺山・越前勝山

北アルプス
 七倉から船窪岳・鳥帽子岳 (複脚向き)
 7月17日(夜) 20日(祝)
 前夜発2泊3日 貸切バス
 集合 (17日) J.R.京都駅八条口団体バスのりば23時00分
 行程 (17日) 京都駅(バス) (18日) (バス) 七倉山荘―船窪新道―船窪小屋(泊)
 (19日) 小屋―船窪岳―不動岳―鳥帽子岳―鳥帽子小屋(泊)
 (20日) 小屋―ブナ立尾根―高瀬ダム―七倉山荘(バス) 京都駅(解散20時頃)
 費用 約28000円(宿泊・バス代等)
 地図 昭文社「鹿島槍・五竜岳」
 係 ○村田智俊
 申込 〒610-0121
 城陽市寺田大野10の10

朝倉氏居城の一乗城山を訪ね、経ヶ岳へ登山する。*テントの無い人は「バンガロー泊」と明記ください。テント! 自炊装備はバスに置いて歩ける。雨天決行
 *定員25名
 ○村田智俊
 〒610-0121
 城陽市寺田大野10の10 村田智俊まで
 台高・大綱山から白雲岳 (やや難脚向き)
 8月6日(日) 日帰り 貸切バス
 集合 近鉄権原神宮前駅中央口8時05分
 行程 権原神宮前駅(バス)―石門跡―大綱山―白雲岳―小白雲―神ノ谷分岐―東谷出合(バス)―権原神宮前駅(解散19時)
 費用 約3000円(バス代)
 地図 2万5千市野瀬・大和相本
 係 ○西上利和

申込 〒610-0121
 城陽市寺田大野10の10
 新ハイキング関西まで
 *定員27名(全員に履る)
 グイレクトに大綱山に取り
 付き、台高支尾根縦走路から
 白鬚岳を目指します。急登と
 ロングコース縦走につき、暑
 さ対策は十分に。雨天中止

鈴鹿を歩く315
 仙香谷・赤坂谷
 (沢歩き・健脚向き)

8月9日(日) 日帰りマイカー
 集合 421号紅葉尾神崎橋
 広場8時30分
 行程 広場(車) 神崎川林道
 仙香谷・赤坂谷・袖
 道・神崎川林道(解散)
 渓流シューズか地下タ
 ビ・ワラジ必携
 費用 交通費各自(保険外)
 地図 昭文社「御在所・霊
 仙・伊吹」
 係 ◎岩野 明○山田景三
 ◎後藤康幸

申込 〒610-0121
 城陽市寺田大野10の10
 新ハイキング関西まで
 仙香谷から赤坂谷へと秘
 境の渓谷を歩きます(37号54
 ページ参照)。雨天中止

サイクリング&登山24
 室生・裏香落溪谷と布生山
 (二般向き)

8月9日(日) 日帰り
 集合 近鉄名張駅東出口9時
 00分
 行程 名張駅(車) 名張中央
 公園(サイクリング・
 青春寺ダム)百々々
 裏香落溪谷・林道終点
 (一部登山道) 布生
 山登山口(駐輪) 布
 生山・布生山登山口
 (サイクリング・布生
 山) 神屋・奈垣・比奈知
 費用 交通費各自
 地図 昭文社「赤目・俱利伽藍

申込 〒518-0755
 名張市緑が丘中144
 山口敏明まで
 室火山群の隠れた溪谷
 (百々川)を走り、「流し素直」
 を楽しみ、布生山に登ります
 *MTBレンタル(3000円)
 は3名まで。雨天中止

近江の山シリーズ24
 鈴鹿・サクラグチ
 (二般向き)

8月9日(日) 日帰りマイカー
 集合 京都駅八条口団体バス
 のりば7時30分
 行程 京都駅(バス) 大河原
 登山口P789より
 サクラグチP691
 1深山橋(バス) 京
 都駅(解散16時頃)
 費用 約3000円(バス代
 入)
 地図 昭文社「御在所・霊
 仙・伊吹」
 係 ◎森脇貞義

城陽市寺田大野10の10
 新ハイキング関西まで
 *定員24名
 展望はありませんが、暑い
 時なので短時間で歩けるコー
 スを行います。雨天中止

北アルプス
 白鬚岳から朝日岳
 (健脚向き)

8月13日(木)夜16日(日)
 前夜発2泊3日 日切バス
 集合 (13日)JR京都駅八条
 口団体バスのりば22時
 30分
 行程 (13日)京都駅(バス)
 (14日)バス 白馬狼倉
 白馬尻・雪深・葱平
 村宿頂上宿舎(泊)
 (15日)宿舎 白馬岳
 三國境・雪倉岳・朝日
 岳分岐 水平道 朝日
 小屋(泊)
 (16日)小屋 朝日岳
 五輪高原 蓮華温泉
 (入浴バス) 京都駅(解

散21時頃
 費用 約32000円(宿泊
 バス代等)

地図 昭文社「白馬岳」
 係 ◎村田智俊
 申込 〒610-0121
 城陽市寺田大野10の10
 村田智俊まで
 *定員25名(全員に履る)
 北アルプス北部の山々を、
 花巡りしながらゆつくりと歩
 く。雨天決行

大峰・法主尾山(二般向き)
 8月20日(木) 日帰り 日切バス
 集合 檜原神宮前駅中央口8
 時05分
 行程 檜原神宮前駅(バス)
 風尾ダム・登山口一切
 通口・カヤト・ブナ平
 1法主尾山・林道川津
 今西線下山(バス) 檜
 原神宮前駅(解散17時)
 費用 約3500円(バス代)
 地図 2万5千 風屋

係 ◎西上和利
 申込 〒610-0121
 城陽市寺田大野10の10
 新ハイキング関西まで
 *定員27名

山頂の展望は望めませんが、
 ブナ林が残り、近年注目され
 ている山。往復コースが一般
 的だが夏場なので、西側の林
 道にくだります。小雨決行

展望の山59
 飛騨・下呂御前山
 (二般向き)

8月23日(日) 日帰り
 集合 JR西岐阜駅8時00分
 行程 西岐阜駅(車) 大洞登
 山口 下呂御前山
 (往路) 登山口(車)
 西岐阜駅(解散)
 費用 約3000円(車代等)
 2万5千 宮地・湯屋
 地図 ○山田明男
 係 ◎山田明男
 申込 〒503-0535
 海津市南邊町松山624の
 19 山田明男まで

*定員10名程度
 御嶽山を仰ぎ見る山で、岐
 阜の御前山(御前岳)では最
 後の四山目。山頂には御料局
 三角点があります。雨天中止

比良を歩く77
 八瀬の滝
 (二般向き)

8月23日(日) 日帰り
 集合 JR近江高島駅9時00
 分
 行程 近江高島駅(バス) ガ
 リバー旅行村 大摺跡
 1貴船の滝 オガサカ
 道分岐 カラ岳 1シヤ
 カ岳分岐 旧シヤカ岳
 駅 1イン谷口 1比良駅
 (解散16時40分頃)
 費用 約2300円(京都か
 ら)
 地図 2万5千 北小松・比
 良山
 昭文社「比良山系」
 係 ◎桑 康夫
 申込 〒610-0121
 城陽市寺田大野10の10

新ハイキング関西まで
 魚止めの滝と障子の滝は
 カット。オガサカ道分岐から
 カラ岳西尾根を登ります。
 雨天中止

火燭ハイイク61
 六甲・土樋新幹から打越山
 (二般向き)

8月25日(火) 日帰り
 集合 東お多福山登山口バス
 停9時50分
 行程 登山口 土樋新幹 1森
 林管理歩道 1出合 1打
 越山 1八幡谷 1岡本駅
 (解散15時30分頃)
 費用 交通費各自
 地図 昭文社「六甲・摩耶」
 係 ◎仲谷礼司 仲
 申込 〒610-0121
 城陽市寺田大野10の10
 新ハイキング関西まで
 夏場で大きな山を登りますが、渡渉
 も楽しみながら歩いてみたい
 と思います。雨天中止

大峰・釈迦ヶ岳 (初級向き)

8月27日(日) 日帰り 既切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)
峠登山口―古田の森―
千丈平―釈迦ヶ岳(往
路)―峠登山口(バス)
橿原神宮前駅(解散19
時頃)

費用 3500円(バス代)
地図 2万5千円釈迦ヶ岳
係 ◎西上和利
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員27名

大峰南部の秀峰と知られ、
尾根からの展望は抜群。山頂
のシンボルとなっている釈迦
如来像も二年前に修復作業も
終わり、訪れる者を見守って
くれている。雨天中止

テント泊山行

奥播磨・赤谷山と水ノ山
(二校向き)

8月29日(土)〜30日(日)
1泊2日 既切バス
集合 (29日)JR新大阪駅正
面口8時00分

行程 (29日)新大阪駅(バス)
旧戸倉峠トンネル広場
―登山口―P1143
―赤谷山(往路)ト
ンネル広場(バス)水
ノ山スキー場キャンプ
地(テント泊)
(30日)スキー場―水ノ
越―コシキ岩―水ノ山
―二ノ丸―三ノ丸―坂
の谷コース―登山口
(バス)新大阪駅(解散
19時頃)

費用 約8000円(バス代)
地図 昭文社「水ノ山」
2万5千円戸倉峠・水
ノ山
係 ◎村田智俊
申込 〒610-0121

特別企画

韓国山旅シリーズ②
五台山と道峰山4日間
(一校向き)

9月30日(日)〜10月3日(木)
3泊4日
集合 (30日)関西空港7時30
分(9時30分発)
行程 (30日)関西空港(飛行
機)仁川空港(バス)
五台山国立公園(山荘
泊)
(1日)ビジターセン
ター―最高峰鬼慮峰―
上王峰―頭老峰―五台
山国立公園(山荘泊)

城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員25名
旧戸倉峠から奥播磨のブナ林
を赤谷山へ。高原のキャンプ
場で泊まり、水ノ山を縦走す
る。テント装備はバスに置い
て歩ける。雨天決行

費用 約12万円(決定後送金)
地図 申込者に配布(資料共)
係 ◎村田智俊
*現地ガイドあり
申込 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員15〜20名
*7月20日まで
手配 アルパインツア―サー
ビス隊 大阪支店
韓国山旅の2回目。五台
山は五つの峰が集まったなだ
らかなで人気の山。紅葉が美
しい。帰路はソウル近郊の道
峰山ハイキング。専用バスで
移動。日本語の話せる現地ガ
イドが案内します。雨天決行

山行報告
(3・4月号)
新ハイキングクラブ関西

南山城
原山から童仙房・大河原

(いとこ)東海自然歩道③
3月1日(日) 晴れ

(集合) JR加茂駅8:40〜50(タク
シー)原山9:10―童仙房休憩
所11:10(昼食)12:00―野殿
13:00―押原14:30―月ヶ瀬口駅
15:15(解散)
路傍のフキノトウを摘み、スギ
花粉が飛ぶなかを歩いた。
(参加者) 林 信男 中嶋日出男
入江 勲 橋原良彦 市岡晴美
岡崎知子 堀内預智 水沼律子
堀島 昭 宮野哲郎 宮野祐子
岩田育士 大嶋 勉 ◎安倉正嗣
○村田智俊 (計15名)

捜査のついで
3月1日(日) 晴れ
(鈴鹿を歩く306)

(集合) 大河原「かもしか荘」広
場8:10(車)大納言谷合出8:
30―南尾根10:00―P9666:
11:05―ブナ林のコバ11:25(昼
食)12:15―雨乞岳13:05―南雨
乞岳13:25―清水ノ頭14:00―清
水谷林道15:15―谷源流16:15―
南尾根16:40―大納言谷17:20―
因道出合18:00(解散)

白倉谷林道はゲートが閉まり、
大納言谷ヘルート変更。谷からア
セビの尾根を急登し、南尾根のブ
ナ林のコバへ。残雪のササの海を
雨乞岳から清水の頭へ泳ぎ切り、
一気に林道へ下りた。(登)
(参加者) 稲津謙治 森 美香子
谷口義治 一芝義雄 一芝美知子
栗岡克子 山口充代 中澤真司博
高橋寿治 樺田勝利 西村敏夫
岡近正男 多田 徳 小林 修
武村千鶴 木下朝子 奥野太郎
貴堂登路 大西信郎 居原田幸弘
水戸鉄治 多田隆子 ◎後藤康幸
○山田京三 ◎岩野 明(計25名)

紀東・ボンデン山から城ヶ峰
3月5日(日) ◎西上和利
*バス定員に満たず中止し

生駒・枚岡梅林から鳴川峠
(金剛山ハイキング15)
3月6日(日) ◎村田智俊
*リ―グ―の都合で中止しまし
た。

美濃・彌生山から天王山
(自然観察山行264)
3月7日(土) 晴れ
(集合) JR岐阜駅9:15(車)大
矢田神社駐車場10:00―05―JA
中農穀類等調整施設10:40―45―
林道終点―誕生山11:40(昼食)
12:40―鉄塔13:20―天王山14:
10―35―大矢田神社駐車場15:10
―25(車)武芸川温泉15:50(入浴)
16:30(車)岐阜駅17:00(解散)
尾根からは見晴らしがすばらし
かった。恵那山・南アルプス・中
央アルプス・御嶽山・乗鞍連峰・
前穂高岳・奥穂高岳の冠雪等、美
濃の山を歩いてる者には馴染み
の景色だが、関西の人には感激の
山岳景観であった。
(参加者) 上田裕子 荻野英紀恵
◎鷺見守康 (計3名)

朽木・水無山と熊内山
(近江の山シリーズ19)
3月8日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅7:30―35(バ
ス)針畑休憩所9:45―50―上頭
橋登山口10:00―弓坂峠10:22―
水無山10:42―11:10―弓坂峠―
上頭橋登山口11:32―針畑休憩所
11:57(バス)大谷橋12:30(昼食)
13:10―P58314・12―22―
熊内山14:42―15:00―林道15:
30―55―大谷橋16:25(バス)京
都駅18:30(解散)
水無山は東側が植林のため何も
見えなかったが、西側に三国岳北
側は百里ヶ岳が白かった。熊内山
はほとんど登る人がいない。P
58314からは奥美濃の山が白く
美しかった。
(参加者) 藤井洋子 野末あや子
小林 桂 多賀久子 松上美代子
川田洋子 渡部和美 武部美英子
林 弘毅 友田 毅 友田美保子
宮野哲治 宮野祐子 飯田二郎
稲津謙治 岡安紀正 山高多恵子
中川光郎 高橋寿治 林 正義
三野 旭 小尾末吉 小川富士雄
橋原 章 和夫 木本加津栄

木村 豊 克木光雄 船本裕巳子
小池 一郎 岩鶴健司 松村雅子
川上久堅 萩野暢子 川戸せつ
狩野東彦 若林文夫 村田はる江
松浦 巖 夏山春子 加納由紀子
小松志信 ○村井寿和 (計44名)
○森脇貞義 (計44名)

美濃・誕生山から天王山
(皇留の山54)

3月8日(日) 晴れ
(集合) J R 西岐早駅 8・30 (車)
大矢田神社選所 9・30 誕生山
登山口 10・00 誕生山 11・00 5
鉄塔 11・55 天王山 12・40 (昼
食) 13・30 大矢田神社分岐 13・
35 大矢田神社 14・15 選所
14・40 (車) 小倉山下 14・50 小
倉山 15・10 小倉山下 15・40 (車)
西岐早駅 16・15 (解散)

春見重美 山田妙子 ○山田明男
(計11名)
北摂・太閤道(地図読み山行90)
3月8日(日) 晴れ
(集合) J R 高槻駅 9・45 舞手
橋バス停 10・20 登山口 10・25
35 金蓮寺跡 11・05 15 梶原山
展望所 11・50 (昼食) 13・00 若
山三角点 13・10 15 四辻 13・42
1 若山神社 14・20 25 桜井駅跡
14・40 50 阪急水無瀬駅 15・00
(解散)

京都北山・判官坂から貴船山
(火曜ハイク54)
3月10日(火) 晴れ
(集合) 京阪出町柳駅 8・30 (バス)
大岩 9・05 10 36 1 10
10 桜谷 11・25 (昼食) 12・10
P 6 9 7 12 30 判官坂 貴船
山 13・45 1 橋ノ水 分岐 14・05
大岩分岐 14・30 1 電電貴船口駅
15・35 (解散)

市野博文 和田直樹 竹田善英
磯部 純 ○青木一雄
○沖 伸 ○仲谷礼司 (計36名)
紀州・清冷山
3月12日(木) 晴れ
(集合) 近鉄富田林駅 8・05 10 (バ
ス) 登山口 10・40 清冷山 12・30
(昼食) 13・20 登山口 14・30 (バ
ス) 富田林駅 16・50 (解散)

12・50 13・00 大日如来像 13・
20 25 堀坂山 13・40 14・00
東尾根 雲母谷林道出合 15・00
05 森林公園 15・30 16・00 (バ
ス) 京都駅 18・15 (解散)

前日までの春の雨も、鈴鹿北紀
では20 30%の積雪、桜に負けな
い樹木の葉が彩っていた。青空の
下、伊勢尾からお花の池へ突き上
げ、日溜りで昼食。テーブルラン
ドと西のポタンブチに着くと、雪
の下から福寿草が顔を見せた。T
字尾根から右に折れて一気に下り
た。(巻)

3月20日(日) 曇り
(集合) J R 志賀駅 9・00 02 (バ
ス) びわ湖パレイ前 9・17 30
蓬萊山登山口 9・40 1 棧橋 10・28
1 金尾 11・22 蓬萊山 12・05
(昼食) 12・40 1 小女郎ヶ池 13・
10 1 ホツケ山 13・35 1 水分神社分
岐 13・55 14・00 1 権現山 14・06
1 10 1 スゴノパン 14・30 1 40 1 林
道出合 15・10 1 20 1 妙道会分岐
15・50 1 16・00 1 栗原バス停 16・
10 (解散)

但馬・来日岳と大師山
3月21日(日) 晴れ
(集合) J R 新大阪駅 7・30 1 40 (バ
ス) 来日岳登山口 11・20 1 30 1 中
関点 12・30 1 来日岳 13・00 (昼食)
13・40 1 紅葉平 14・10 1 大
師山 14・50 1 15・00 1 榎原 15・

3月15日(日) 晴れ
(集合) 小又谷分岐 広場 8・25 (車)
1 10 1 谷出合 8・45 1 P 8 3 8 1 9
55 1 伊勢尾 10・35 1 ヒルコバ直下
11・00 1 お花の池口 14・45 (昼食)
12・30 1 西のポタンブチ 12・40 1
丸池 13・05 1 風池 13・30 1 ポタン

北摂・廻尾山
(平日ふれあいハイク70)
3月19日(木) 晴れ時々曇り
(集合) 能勢電山下駅 8 20 1 31 (バ

3月20日(日) 曇り
(集合) J R 志賀駅 9・00 02 (バ
ス) びわ湖パレイ前 9・17 30
蓬萊山登山口 9・40 1 棧橋 10・28
1 金尾 11・22 蓬萊山 12・05
(昼食) 12・40 1 小女郎ヶ池 13・
10 1 ホツケ山 13・35 1 水分神社分
岐 13・55 14・00 1 権現山 14・06
1 10 1 スゴノパン 14・30 1 40 1 林
道出合 15・10 1 20 1 妙道会分岐
15・50 1 16・00 1 栗原バス停 16・
10 (解散)

但馬・来日岳と大師山
3月21日(日) 晴れ
(集合) J R 新大阪駅 7・30 1 40 (バ
ス) 来日岳登山口 11・20 1 30 1 中
関点 12・30 1 来日岳 13・00 (昼食)
13・40 1 紅葉平 14・10 1 大
師山 14・50 1 15・00 1 榎原 15・

30—(入浴・散策)―地蔵の湯
17・00―城崎温泉駅裏国道17・10
(バス)新大阪駅21・00(解散)
大阪からの日帰りでは限界の地
域で帰りが遅くなった。山頂直下
の急登は厳しかった。さすが一等
三角点の山、大バノラマが広がっ
た。三連休の中、城崎温泉は観
光客で賑わっている。外湯入浴と
散策を楽しみ、帰路についた。

(参加者) 河内正治 武部美英子
尾野吉孝 小谷和子 久保田玲子
塩尻香織 繁田広美 安田文美江
岩村春子 高橋昇治 中嶋日出男
中尾博子 松村雅子 松井明忠
川戸せつ 堀内預智 林 信男
中谷孝子 小林博子 河本美千子
木村絹恵 上田直代 村岡雄志郎
小田潤子 白鷹富雄 木村 豊
吳比裕美 柳川常雄 山高多恵子
大和 絃 草野卓郎 渡部和美
宮野絃子 ○宮野哲郎

○安倉正勝 ○村田智俊(計36名)
散策の山・朝影山と福村ヶ岳
3月21日(出) 晴れ
(集合) JR新正田駅10・10(車)
刀根10・30―朝影山11・45(昼食)

12・15―刀根13・00(車)頃谷林
道終点13・40―福村ヶ岳14・00―
頃谷林道終点14・20(車)新正田
駅15・00(解散)
氣比神社の裏から急斜面に登
る。手前のピークを頂上と勘違い、
そこから本頂までほぼ水平のササ
のやぶ漕ぎ。下山後、近くの福村
ヶ岳へ登り、湖北の山を楽しんだ。
(参加者) 磯部 純 松上美代子
小栗大直 平塚明美 神谷恵美子
木下朝子 神野孝允 穴戸喜久江
西田俊治 岩本彩子 光川二美子
加藤園計 志水明美 谷 守
○高島伸浩 (計15名)

花宵峠から大見尾根
(北山ちよと歩き107)
3月25日(出) ○金谷 昭
*雨天のため中止しました。
台高・高見山
3月26日(内) 雪のち晴れ
(集合) 近鉄橋原神宮前駅8・05
山10・25―カヤノ山11・15―トク
マ山西峰12・10―トクマ山東峰
12・15(昼食)13・00―トクマ山

分岐9・00―鉄塔9・50―林道
10・00―尾根分岐10・15―奥獅子
吼山11・20(昼食)12・00―分岐
12・50―林業センター13・50―神
社14・25(車)白山線湯15・00(車)
米原駅(車)関ヶ原駅18・30(解
散)
嶺山は予想にたがわぬ花の山だ
った。スハムソウとキクザキイチ
ゲの多さには驚いたが、時間がか
かった。奥獅子吼山はまだ雪が多
く、下ではカタクリが咲き出して
いて、上では初見のキクバオウレ
ンがきれいだった。
(参加者) 馬場恵子 岩田不二江
岡井文男 廣瀬重見 廣瀬恵美子
中神恵子 教野政枝 長坂佐知子
中條公子 山縣勝美 中谷榮美子
藤本紀子 栗栖崇吉 宮路ちへ子
萩野暢子 宮崎靖久 宮崎由美子
松村雅子 西村文男 奥村美恵子
山田妙子 村田紀生 砂原恵美子
○三井絃一 ○山田明男(計25名)

伊賀・月ヶ瀬梅林散策
(サイクリング&登山19)
3月29日(出) 晴れ
(集合) 近鉄名張駅9・30(サイク
リング) 西原・葛原公園10・00―鶴
山―広瀬橋―大川遺跡10・40―五月
橋―月ヶ瀬橋―広瀬商店前(駐輪)
―梅林散策11・30(昼食)12・30
―広瀬商店前(サイクリング・

私の東山36峰(第5回)
第28峰36峰(火壇ハイク55)
3月31日(出) くもり
(集合) 京阪伏見稲荷駅9・00―
稲荷山10・05―本寺山10・50―本
多山11・50―恵日山12・00(昼食)
12・40―(泉山13・30)―今熊野
山14・25―阿弥陀ヶ峰14・40―(帯
間寺山15・10)―清水山15・40―
鳥辺山16・15―新熊野神社16・50
(解散)* (一)の山は入山不可
のため近くを通過。
法性寺・光明寺・東福寺を語
るとき、藤原家の絶大な勢力と財
力に驚かされる。そんなロマンを
含んだコースは少し長かったよう

五月橋・治田IC―花垣13・20―
猪田―丸山―伊賀神河14・20―美
旗―名張駅15・00(解散)
名張川に沿って月ヶ瀬梅林まで
サイクリングを楽しむ。梅花は少
し遅く、テラホラの残花の下で持
ち寄った食材で昼食会、温かい甘
酒が美味しかった。帰路は坂道の
無い伊賀路を楽しんだ。
(参加者) 長尾一令 船本裕巳子
池田 茂 ○山口敏明(計4名)

湖南・岩根山(十二坊)
(金羅里山ハイキング16)
*リーダーの都合で4月4日に変
更して実施した。
4月4日(出) くもりのち雨
(集合) JR甲西駅9・30―正福
寺林道入口ゲート10・00―水場
10・45―十二坊林道出合11・10―
展望台11・20(昼食)12・00―遊
歩道案内板12・10―遊歩道周回コ
ース―十二坊林道出合13・00―岩
根山13・10―15―十二坊温泉(岩
から)13・50(入浴)14・56(バス)
甲西駅15・30(解散)

4月3日(夜) 5日(日)
前夜祭1泊2日
(3日)(集合) JR関ヶ原駅18・
55(車)一里野民宿22・00(泊)
(4日)くもりのち雨 民宿6・30
(車)嶺山登山口9・30―枝線分
岐11・05―嶺山11・15―安徳峠峠
11・35―登山灯台11・50(昼食)
12・15―分岐12・25―登山口13・
20―30(車)ヤセの断崖・戰鬥
15・00(車)民宿7・00(車)し
(5日)晴れ 民宿7・30(車)し
らやまひめ神社8・00―15―林業
センター経由登山口8・40―尾根

奥比叡・横高山から大尾山
(週末ハイク90)
4月4日(出) くもりのち雨
(集合) JR京都駅8・10―15(バ

能登・嶺山と奥獅子吼山
(展望の山55)
4月3日(夜) 5日(日)
前夜祭1泊2日
(3日)(集合) JR関ヶ原駅18・
55(車)一里野民宿22・00(泊)
(4日)くもりのち雨 民宿6・30
(車)嶺山登山口9・30―枝線分
岐11・05―嶺山11・15―安徳峠峠
11・35―登山灯台11・50(昼食)
12・15―分岐12・25―登山口13・
20―30(車)ヤセの断崖・戰鬥
15・00(車)民宿7・00(車)し
(5日)晴れ 民宿7・30(車)し
らやまひめ神社8・00―15―林業
センター経由登山口8・40―尾根

奥比叡・横高山から大尾山
(週末ハイク90)
4月4日(出) くもりのち雨
(集合) JR京都駅8・10―15(バ

4月5日(出) 晴れ
(集合) JR笠置駅8・30―45―

南山城
笠置から大物生・円成寺
(いとこ東海自然歩道②)
4月5日(出) 晴れ
(集合) JR笠置駅8・30―45―

4月5日(出) 晴れ
(集合) JR笠置駅8・30―45―

4月5日(出) 晴れ
(集合) JR笠置駅8・30―45―

鍋原山 (鈴鹿を歩く309)
4月19日(日) 晴れ
(集合) 河内線寺院広場8・10(車)
あけん原8・30―杉地蔵9・20―
岳の時10・00―岳の時10・10―鍋
尻山11・10―南端11・20(昼食)
12・10―ケヤキ平12・45―保月下
林道13・20―落岩橋14・30―奥ノ
権現15・10―あけん原15・50(解
散)

○山田景三 ○岩野 明(計27名)
井ノ口山と鍋谷山
(京都北山歩き132)
4月19日(日) 晴れ

寺田久広 前田初雄 岩田育士
夏山春子 大嶋 勉 川戸せつ
宮野祐子 ○宮野哲郎
○小栗大直 ○村田智俊(計36名)

若狭・濃敷峠から濃敷峠の高
(北山ちよつと歩き108)
4月22日(火) 晴れ
(集合) J.R.京都駅7・40―45(バ
ス) 濃敷峠9・45―50―P820
10・15―P751―10・40―連
敷峠の高11・55(昼食) 12・45―(往
路)―濃敷峠15・00―10(バス)
京都駅17・30(解散)

京都北山・電ヶ岳から愛宕山
(平日ふれあいハイクル)
4月23日(水) くもり
(集合) 清滝バス停9・00―05―
空也の湯入口9・40―栗木大神
10・15―首無地蔵11・15―電ヶ岳
12・08―広場12・15(昼食) 13・
15―愛宕山14・00―20―つじ尾
根分岐14・55―荒神時15・25―
R保津峠16・20(解散)

岳の時へと続くこの道は古い生
活の道。今は通る人も無くヤマシ
ヤクヤクの音があちこちで膨らん
でいた。岳の如の開かれた草原で
ワラビの群生に皆は狂喜乱舞。鍋
尻の東方P706のケヤキ平か
ら保月に下り、林道の長歩きも新
緑に心癒され、のんびりとお花見
ハイクを楽しんだ。(暮)

(参加者) 武村千鶴 中澤典司博
服部 勉 木下朝子 森 美香子
高橋昇治 湯口清孝 高原芳彦
多田 徳 藤井義治 貴堂雅路
栗本敏夫 三上伸夫 奥野太一郎
北村正美 一芝義雄 石田真由美
西村敏夫 水戸鉄治 居原田幸弘
大西信郎 櫻田藤利 岩本彩子
小林 修 ○後藤康幸

芽吹きのブナ林を歩き、涼くに
百里ヶ岳・小栗・三因峠・多田ヶ
岳の山々を垣間見た。間近にヒガ
ラの鳴き声を聞き、タムシバ・シ
ヤクナゲ・オオカメノキ、足元には
シハイスミレ・イワカガミの花
を楽しんだ。
(参加者) 多田 徳 砂原恵美子
仲谷礼司 川上久堅 飯田トシエ
和田直樹 小林 桂 武部美美子
渡部和美 林 正義 塩尻香織
小谷和子 沖 伸 小栗大直
萩野暢子 今泉 勲 中嶋日出男
志水明美 大東 哲 大和 絃

大槻一夫 伊藤 晋 角江朝子
磯田安弘 大和 絃 今村あやの
加藤浩二 妹尾一正 野末あや子
藤井義治 吉野榮子 船本裕巳子
後藤純子 竹田善英 川上久堅
西村静子 山岸勝雄 ○寺井恒夫
(計20名)

高尾トレイル①
湖西・愛発越から黒河峠
4月25日(出) ○狩野東彦
(週末ハイクル)
*雨天のため中止しました。

13・00―光城山13・40―50―天平
の森14・20―長峰山14・40―50―
長峰荘15・30(バス)ほりで、
ゆい四季の郷16・00(泊)
(26日) 宿8・00(バス) 姫川
源流駐車場9・10―源流温泉―観
見温泉―駐車場10・30(バス)と
おみテレキャビン駅10・40―かた
くり丸―テレキャビン駅11・30(バ
ス) 十郎の湯11・40(入浴・昼食)
13・20(バス) 京都駅19・15(解散)

上田裕子 岡崎知子 河本美子子
中尾博子 上田直代 西谷真実子
長比裕美 武田和巳 山高多恵子
渡部節枝 夏山春子 安田文美江
東 明美 橋本 彰 中嶋日出男
近藤春子 遠藤 串 富松雅子
山形 明 宮野祐子 ○宮野哲郎
○安倉正勝 ○村田智俊(計43名)

4月26日(日) 雨
(集合) J.R.堅田駅8・40―45(バ
ス) 細川9・40―10・00―登山口
10・08―直登路迂回路分岐10・13
―合流点10・42―標高点706以
上11・15―尾根折部11・40―七合
目11・55―イワウチワ群生地12・
11―武奈ヶ岳12・35―コヤマノ岳
分岐12・55(昼食) 13・10―夏道
冬道上部分岐13・15―イブルキ
コバ13・30―八雲ヶ原13・45―北
比良峠14・05―10―カモシカ台
14・50―大出口15・30―イン谷口
手前広場15・45(解散)

志摩・普島の大山
(三重の山102)
4月25日(出) 雨
(集合) 近鉄鳥羽駅9・00―佐田
浜港9・15―50(船) 普島港10・
03―水道タンク―大山11・15―監
眺の明路12・15―灯台12・35―普島
港13・00―15(船・昼食) 佐田浜
港13・35―鳥羽駅13・50(解散)

雨のなかを予定通り歩いたが、
光城山の桜は散っていたし、長峰
山からの北アルプスは雲のなか。
姫川源流温泉は福寿草が終わって
イチリンソウ・ミツガシワなど。
「かたくり苑」では山肌に残れ咲
くカタクリを見たが、花は雨でパ
ツと開いていなかった。雨にたた
られた2日間だったが、温泉と料
理を楽しんだ。
(参加者) 川田洋子 砂原恵美子
下山 登 下山誠公 武部美美子
岸本正弘 岸本紀子 小林博子
妹尾一正 川島勝美 村田はる江
小田潤子 山藤勝美 加納由紀子
藤本紀子 白鳥忠子 久馬真登珂
木村朝恵 宮崎清久 宮崎由美子
多賀久子 ○山口敏明(計4名)

室生・比奈知ダムと三多気の桜
(サイクリング&登山20)
4月26日(日) くもり時々雨
(集合) 近鉄名張駅9・00(車) 夏
見中央公園9・30(サイクリング)
比奈知ダム10・10―中太郎生11・
00―数津道の駅11・30―三多気の
桜11・50(昼食) 14・00(サイク
リング) 数津道の駅14・30―中太
郎生14・50―比奈知ダム15・30―
夏見中央公園16・00(解散)

雨模様ですつと雨衣を着けての
行動で、屋蓋は全くダメ。イブル
キノコバ周辺の見事なタムシバの
大木と、ダケ道に続く満開のシヤ
クナゲが収穫だった。
(参加者) 入江 勲 下藤正年
大川直道 岩田育士 貴堂雅路
三上伸夫 岩本彩子 吉野榮子
和田純子 小谷和子 青木一雄
福津康治 ○本間 隆
○桑 康夫 (計14名)

信州安曇野
光城山と姫川源流温泉
4月25日(出) 26日(回) 1泊2日
(25日) 出(集合) J.R.京都駅7・
30(バス) 光城山登山口12・45―

4月25日(出) 雨
(集合) 近鉄鳥羽駅9・00―佐田
浜港9・15―50(船) 普島港10・
03―水道タンク―大山11・15―監
眺の明路12・15―灯台12・35―普島
港13・00―15(船・昼食) 佐田浜
港13・35―鳥羽駅13・50(解散)

雨のなかを予定通り歩いたが、
光城山の桜は散っていたし、長峰
山からの北アルプスは雲のなか。
姫川源流温泉は福寿草が終わって
イチリンソウ・ミツガシワなど。
「かたくり苑」では山肌に残れ咲
くカタクリを見たが、花は雨でパ
ツと開いていなかった。雨にたた
られた2日間だったが、温泉と料
理を楽しんだ。
(参加者) 川田洋子 砂原恵美子
下山 登 下山誠公 武部美美子
岸本正弘 岸本紀子 小林博子
妹尾一正 川島勝美 村田はる江
小田潤子 山藤勝美 加納由紀子
藤本紀子 白鳥忠子 久馬真登珂
木村朝恵 宮崎清久 宮崎由美子
多賀久子 ○山口敏明(計4名)

雨模様ですつと雨衣を着けての
行動で、屋蓋は全くダメ。イブル
キノコバ周辺の見事なタムシバの
大木と、ダケ道に続く満開のシヤ
クナゲが収穫だった。
(参加者) 入江 勲 下藤正年
大川直道 岩田育士 貴堂雅路
三上伸夫 岩本彩子 吉野榮子
和田純子 小谷和子 青木一雄
福津康治 ○本間 隆
○桑 康夫 (計14名)

京都北山
小野谷口から管子山
(火曜ハイタ57)

4月28日(火) 晴れ

(集合) JR京都駅7・40 (バス)
小野谷口9・30 | 40 | 林道終点
10・05 | 小野谷峠10・40 | 大見町
11・20 | 前坂峠11・40 | 西尾根P
830 | 12・05 (昼食) 12・35 |
管子山13・45 | 14・05 | 東尾根 |
正教寺15・40 | 15・50 | 16・00
(バス) 京都駅17・15 (解散)

谷道や湿原の道あり、管子山城
に入るとササが枯れた歩きやすい
尾根道となった。距離が長かった
が皆さん元気。マキノスミレを見
る機会にも恵まれた。東尾根も迷
わず、予定より早く帰着した。

(参加者) 川上久堅 磯部 純
園田憲章 後藤純子 林 正義
入江 勲 志水明美 堀田輝子
金森節子 木村 豊 久保田玲子
岩佐 修 若林文夫 高木忠夫
塚本忠次 木内範文 大東 哲
宮崎紀正 後藤智之 後藤美恵子
小栗大直 山根弘美 野末あや子
加藤浩二 落合 博 小川富士雄
富田雅也 草野康郎 大塚加代子

福島 昭 磯田安弘 松井明忠
三野 旭 上田典子 渡部和美
○青木一雄 ○船本裕巳子
○沖 伸 ○仲谷礼司(計39名)

大崎・黒尾山
4月30日(木) 晴れ

(集合) 近鉄榎原神宮前駅8・05
 | 10 (バス) 登山口9・15 | 30 |
奥ナイバ谷 | 珍草尾根出合10・40
 | 黒尾山11・40 (昼食) 12・40 |
切抜峠 | 993 | 釜木峠14・00
(バス) 榎原神宮前駅16・30 (解散)

登り始めてから数分後、イバラ
に阻まれたルートを模索しながら
尾根に取り付いた。縦走路は快調
に歩け、大崎の山並を眺めながら
予定のタイムで下山した。

(参加者) 中島 隆 野末あや子
渡辺和美 緒方由子 信吉 優
小谷和子 塩尻香織 下部正年
志水明美 上田久子 佐々木輝子
竹田勝英 松村雅子 堀江房麿
沖 伸 上田裕子 小川富士雄
竹村英樹 島田 廣 三井絃一
森藤哲郎 伊藤 晋 佐藤優美子
上山正二 ○前川和佳子
○西上利和 (計26名)

テント泊山行
台高・池木屋山から迷岳
5月2日(土) 5日(日) ○村田智俊
*リーダークの都合で中止しまし
た。

特別企画

エベレスト街道トレッキング
3月15日(日) 26日(日) 12日間
(15日) (集合) 関西空港10・30 (飛
行機) バンコク(泊)
(16日) バンコク(飛行機) カトマ
ンズ(泊)
(17日) カトマンズ(飛行機) ルク
ラ9・35 | バクセティン14・35 (泊)
(18日) バグティン7・40 | ナム
チエバザール14・55 (泊)
(19日) ナムチエバザール(高度順
応トレーニング、泊)
(20日) ナムチエバザール7・40
 | タンポチエ14・20 (泊)
(21日) タンポチエ7・40 | モン
ジョ17・10 (泊)
(22日) モンジョ8・00 | ルクラ
15・15 (泊)
(23日) ルクラ(飛行機) カトマン
ズ(午後市内観光、泊)
(24日) カトマンズ(予備日、エベ

レスト遊覧飛行またはナゴルコファ
トのサンライズ観光、泊)
(25日) (午前はカトマンズ郊外の観
光) カトマンズ17・00 (飛行機)
バンコク(飛行機)
(26日) 関西空港6・10 (解散)
タンポチエ(3860) から
はエベレストの頂が平らなヌブツ
ニ越しに見える、右隣に雄大なロー
ツエを従えていた。周囲は
6000級の山ばかりで壮観。
エベレスト街道は雨季前の春で、
桜や真紅のシヤクナゲ・梨などが
花盛りで、原種の青いサクラソウ
も多く咲いていた。天気が良く、
飛行機が予定通り飛んだので予備
日は観光にあてた。標高3000
日以上で4日間過ごしたので高山
病で苦しんだ人もいた。食事時の
野菜、果物、紅茶などが原因なの
か、下痢にも悩まされた。
(参加者) 岡崎知子 加納由紀子
小林 修 小松志信 高木忠夫
仲谷礼司 林 正義 野末あや子
山藤勝美 山藤 隆 船本裕巳子
○狩野東彦 他会員外1名 (計13名)
(3・4月参加者 延845名)

会 員 募 集

当会は雑誌「新ハイキング関
西の山」(隔月刊・年6号発行)の
定期購読者を中心にしたハイキ
ングの集いです。山の知識を深
め、健康な身体をつくり、自然
のなかを歩く喜びをともに広め
ましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和
21年発足以来、関東を中心に60
年間余、好評のうちに活動して
います。関西は平成3年秋発足
で19年目に入りますが、すでに
数千名の会員で活動しています。
会員は当会のイベントに優先
して参加できます。多くの仲間達
とハイキングを楽しみましょう。
会員には「新ハイキング関西
の山」を毎号お届けします。

係リーダークはすべて無償の奉
仕で、各自で切符を買い茶代を払
い、宿泊料もすべてワリカンで
す。会員が例年に参加されるこ
きは、山行運営費として4000
円を支出していただきます。
四季の自然に触れながらの山
歩きから、ウオーキングまで、
若々しい心と健康をいっまでも

持続するのはすばらしいことで
す。これから始めてみたい方
すでにベテランの方もみなさん
ご入会いただけます。
入会金 500円(ラッペン共
年会費 3300円(送料共
年会の申し込み(随時)は、こ
の雑誌に挿入の振替用紙を利用
してください。第何号からの送本
かを忘れずに記入ください。
なお、定期購読をご希望される
方も会員になっていただけます
と毎号障子にお手元が届きます。
お友達の場合は、「新ハイキ
ング関西の山」最新号を見本誌
として無料で送ります。

○山行係(リーダーク)募集
係は2ヶ月に1回(2回程度)山
行例会を実施していただきます。
経験のある方、やってみたい
と思われる方は、新ハイキング
関西までご連絡ください。
「新ハイキング」を
ご参考にお送りします。

新入会員(定期購読者)紹介

- 新しいお仲間のみなさんです。
会員番号5457番から5470
番まで(敬称略)。
【三重】田中 操
【滋賀】藤井義治 芝崎 勉
【京都】吉村直子 吉岡うた子
【大阪】藤江 新 伊丹辰也
浅井良三 中島健治
葦子衣代
【奈良】植村信子 近藤恵美子
【兵庫】小原隆志 (14名)
【訂正とお詫び】左記の通り訂正します
○105号(初夏)
*99ページ一段「直島」→「青島」
「監酌」→「監酌」(三段)「夏
見中央公園」→「夏見中央公園」
「太郎」→「太郎生」
○106号(初夏)
*クラブA11ページ下写真「タム
シノバ」→「タムシノバ」
*14ページ上段「カレン群」
「カレンフルド」(ト)
*20ページ中段「木花開彫」
「木花開彫」
*21ページ下段「22ページ上段
「マイズルソウ」→「マイズルソ
ウ」(42ページ中段も同)
*22ページ上段「アテカンパ」
「アテカンパ」
*26ページ上段「至福な時間」
「至福の時間」

新入会員(定期購読者)紹介

- *30ページ中段「アイトブレキ
川」→「アイト・ブレキ」
*35ページ二段「けち船が願」
→「結願」
*36ページ二段「いたつまで」
→「まで」
*41ページ付近四国山岳の標高
「2519.5」→「2529.5」
*45ページ下段「尾根が見る場所」
→「尾根を見る場所」
*48ページ上段「ヒメヒオウケイセン」
→「ヒメヒオウケイセン」
*53ページ上段「ロムニエタイ」
→「ロムニエタイ」(57ページ下
段も同)。
*58ページ中段「犯される」→「冒
される」
*63ページ下段「寂めた」→「寂
めた」
*68ページ付近四「チンブル峠」
→「チンブル峠」
*73ページ中段「扶同神社」
→「扶同神社」
*79ページ中段「明き」→「明き」
*85ページ一段「鳥ヶ原」→「鳥
ヶ原」
*92ページ計画表「菊ヶ先」
→「菊ヶ先」
*94ページ三段「池内内温泉」
→「池内内温泉」
*98ページ二段「除道」→「除
道」
*山ページ三段(○105号(新春))
「○105号(新春)」(編集後記)